

令和5年度第2回

朝霞市地域福祉計画推進委員会・朝霞市地域福祉活動計画推進委員会

次 第

日 時：令和5年7月14日（金）

午後2時30分から

場 所：朝霞市総合福祉センター

第1・第2会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議 題

（1）第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の評価について

（2）その他

4 閉会

議題(1) 第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の評価 進行確認シート

基本目標	施策の方向性の番号 及び 評価対象のページ	
	朝霞市	社会福祉協議会
1 市民の暮らしを支える 仕組みづくり	施策の方向性(3)、(4)、(5)、(6)	
	P15～36	P8～18
2 思いやりと支え合いの 心づくり	施策の方向性(8)、(9)、(11)	
	P43～49 P55～64	P25～27 P30～34
3 安心して暮らしやすい 地域づくり	施策の方向性(12)、(14)、(15)、(16)、(17)	
	P65～66 P70～86	P35～36 P41～45

令和4年度

第4期朝霞市地域福祉計画

進行管理・評価シート(案)

委員会会議資料

朝霞市

令和4年度事業の重点的評価施策

				事業数	
基本理念	基本目標	施策の方向性	重点施策	市	社協
支え合いの心を育み、誰もが地域でつながるまち	市民の暮らしを支える 仕組みづくり	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり	○	5	3
		(2)相談支援体制の充実	○	9	4
		(3)保健医療・社会福祉サービスの充実		8	3
		(4)権利擁護の推進		4	3
		(5)生活困窮者等への支援の充実		4	2
		(6)地域住民の交流の促進		6	3
	思いやりと支え合いの 心づくり	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進	○	6	6
		(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成		3	2
		(9)地域での見守りの充実		4	1
		(10)情報共有・発信の充実	○	5	2
		(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成		10	5
	安心で暮らしやすい 地域づくり	(12)施設等の整備・充実		2	2
		(13)防災対策の充実	○	3	4
		(14)防犯対策の充実		3	2
		(15)外出・移動の支援		4	2
		(16)住まいの確保等への支援		3	1
		(17)再犯防止の推進(再犯防止推進計画)		7	—
合計				86	45

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	地域福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	①重層的支援体制整備事業の検討				
	事業概要	既存の相談支援等の取り組みを活かしつつ、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な新たな支援体制を構築するために、相談支援、参加支援、地域づくりに向けた支援を一体的に実施する事業について検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な支援体制の構築に向けて検討していくため、情報収集や調査・研究に努めた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
重層的支援体制の構築	目標値	—	検討	検討	検討	検討
	実績値	—	情報収集・研修			
進捗状況及び自己評価	福祉部内で重層的支援体制に関する研究チームを作り、埼玉県が実施しているアドバイザー派遣事業制度を利用し、職員研修会を実施した。また、県内先進自治体を視察し、県内先進自治体の動向を把握するとともに、国・県が行う研修会等に参加することにより最新の情報収集に努めた。国・県からの通知等、研修会の参加により情報収集は行っている。今後も引き続き情報収集、調査・研究に努める。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域住民が抱える課題が複雑化・複合化する中、従来の属性別の支援体制では複合課題や狭間のニーズへの対応が困難となっている。 包括的な支援体制を構築するため、行政全体での認識の共有と取組が不可欠となる。
今後の取り組み方針	埼玉県が実施しているアドバイザー派遣事業制度を利用し、県内先進自治体の動向を把握するとともに、国・県が行う研修会等に参加することにより最新の情報収集に努め、本市の創意工夫をもって円滑に実施できる重層的支援体制整備事業を検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

支援体制を整備する中で、支援ニーズについて情報交換の機会があれば、協力してほしい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	福祉相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	②生活困窮者・世帯の自立支援				
	事業概要	生活困窮者の自立の促進を図るために、生活困窮者自立支援法に基づき、相談や就労支援、学習支援、住居確保給付金の支給などの各種支援を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者に対して市町村の必須事業とされている自立相談支援事業及び住居確保給付金の支給、任意事業の学習支援事業を実施した。 (R4年度実績) 住居確保給付金 決定件数12件、支給件数49件、総支給額2,296,260円 学習支援事業 学習教室 年44回、利用者数30人 内訳(中学生17人、高校生12人、高校生世代※1人) ※中学校修了後、18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある方 家庭訪問 年150回(延べ) 利用者数3人 内訳(中学生1人、高校生1人、高校生世代1人) 自立支援金給付 決定件数63件、支給月数252か月、総支給額17,980,000円					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮に関する相談件数	目標値	600件	600件	600件	600件	600件
	実績値	1,772件	1,424件			
進捗状況及び自己評価	長引くコロナ禍の影響や原油価格・物価高騰等により、生活困窮に関する相談が多く、目標値を上回る相談件数となった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	長引くコロナ禍の影響を受け、生活が困窮されている方の相談件数が引き続き、千件を超えているが、その相談の中では多重債務を抱え、返済が困難になっている方や、収入の多寡に関わらず、家計に問題があり、借金に頼らざるを得ない方、又は支払いが滞っている方がみられており、現在の支援の中で解決に結びつくことが困難な状況がある。
今後の取り組み方針	困窮された方が生活を立て直せるよう、自立相談支援機関だけでなく、ハローワークといった関係機関等と連携し、必要な支援につなげていく。また、家計に問題を抱える生活困窮者からの相談では、「家計の見える化」により、家計収支の改善や家計管理能力向上等により自立した生活が定着するよう、家計改善支援事業の導入を検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している人を身近で見かけたときに、相談先を案内してもらう。

4 推進委員会の意見(評価)

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	地域包括ケア推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	③地域包括ケアシステムの深化				
事業概要	介護や支援の必要性に関わらず、住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、各種事業を実施します。 地域包括支援センターでは、地域包括ケアシステムの推進拠点としての機能強化を進めながら、高齢者等の総合相談支援、権利擁護、包括的・継続的ケアマネジメント支援等の包括的支援事業を実施します。 また、在宅医療・介護連携推進事業、生活支援体制整備事業、地域ケア会議運営事業、認知症総合支援事業を行うとともに、高齢者虐待防止事業や、成年後見制度利用支援事業等を進めていきます。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 各地域包括支援センター等にて、総合相談支援等を実施した。 日常生活圏域の変更に伴い、センターを5か所から6か所に増設して、複雑化する相談等に対応した。 圏域が変更となった要支援者に対して、切れ目なく支援が行えるように、計画的に引継ぎを行った。 日常生活圏域の変更及びセンターの増設について、機会を捉えて関係各所に周知・説明した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域包括支援センターの数	目標値	5か所	6か所	6か所	6か所	6か所
	実績値	5か所	6か所			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 要支援等の引き継ぎを、当初の予定どおり半年程度で概ね終了できた。 日常生活圏域変更や地域包括支援センターの新設について、広報あさかや市ホームページ、市民を対象とした介護保険制度説明会で周知したほか、自治会町内会や民生委員児童委員を対象に説明を行った。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	総合相談等だけでなく、地域ケア会議や生活支援体制整備事業等の他の包括的支援事業においても、円滑に事業間連携ができるような仕組みづくりが必要である。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターが各専門職等と効率的な連携ができるような体制を整備する。 地域共生社会を見据えた基幹型地域包括支援センターの設置に向けた検討を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域包括ケアシステムの必要性を理解していただき、自助・互助の意識を高めていただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	こども・健康部	課名	こども未来課	係名	こども相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	④児童虐待への対応				
	事業概要	要保護児童対策地域協議会の代表者会議及び実務者会議を定期開催し、体制づくりや情報共有など関係機関との連携強化を図るとともに、個別支援会議を適宜開催し、児童虐待対応に取り組みます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	要保護児童対策地域協議会の代表者会議及び実務者会議を開催し、関係機関との情報共有や方針の検討を行ったほか、個別支援会議を開催し連携して児童虐待対応に取り組んだ。 要保護児童対策地域協議会におけるケースの進行管理のための基準(朝霞市要保護児童対策地域協議会ケース進行管理実施要項)を改正し、虐待のリスクに応じた子どもの安全確認頻度に関する基準を定めた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
要保護児童対策地域協議会実務者会議の開催回数	目標値	6回	6回	6回	6回	6回
	実績値	6回	6回			
進捗状況及び自己評価	要保護児童対策地域協議会の代表者会議及び実務者会議など計画していた会議を実施することで、児童虐待の早期発見・早期対応や体制づくりにつなげることができた。 朝霞市要保護児童対策地域協議会ケース進行管理実施要項を改正することで、要保護児童等の見守りに関し、定期的に安全確認をする体制を充実させた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	要保護児童対策地域協議会の関係機関が、児童虐待に対して連携した対応が行えるよう、各関係機関の当事者意識の醸成など、連携強化について検討する必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き、要保護児童対策地域協議会の代表者会議をはじめとする各種会議や、広報・通知など様々な機会を捉えて、児童虐待対応について周知・啓発に努めるとともに、関係機関と連携しながら児童虐待対応を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子どもの養育に不安を抱える家庭を把握した際、こども未来課に相談するように促し、つないでいただきたい。 子どもの養育に心配な様子がある、児童虐待が疑われるなどの状況があった場合には、児童相談所、警察、こども未来課に通告をしていただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	市長公室	課名	政策企画課	係名	政策企画係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	⑤市民参画と協働による地域づくりの促進				
	事業概要	講座や講演会等の開催を通し、地域での活動に関心を持つ人材を発掘するとともに、お互いのつながりづくりのきっかけとなる機会を提供することで、これから実際に地域に関与する活動に取り組む担い手を育成します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	(1)市民活動団体との交流を図るため、地域づくり支援課が和光市と共同で開催した市民活動団体交流会に参加し、団体との意見交換を行った。 (2)交流会でつながりをもった団体の活動等に参加 (3)まちづくり推進課が事務局となっている「北朝霞・朝霞台デザインラボ」が主催するまちづくりに関するワークショップに参加し、参加する市民と意見を交わした。 なお、令和4年度は、各団体との交流を行うことを目的として活動したため、講座の開催は行わなかった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民参画に係る講座・講演会の開催回数	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	0回			
進捗状況及び自己評価	令和5年度から総合計画の策定に取り掛かることから、主催講座の実施ではなく、市民団体の方と直接対話し、つながりを作ることが大事ではないかと考え、交流に主眼をおいて活動した。 また、他課が実施するワークショップに参加することで、次年度、自課で開催するワークショップなどの際も、参考にできる点があった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	昨年度実施したSDGs講演会においても、参加者数や世代が一定に留まっていることから、引き続き、市民参画の機運醸成を重点課題と捉えている。多くの市民の方に意見をいただくことや、若い世代や子育て世代にも広く関心を持っていただけるような仕組みづくりを検討する必要がある。
今後の取り組み方針	若い世代や子育て世代についても、市民参画と協働の機運が高まるよう、引き続き、市民講座を通じた啓発や職員の意識づくりに努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市が実施する講座等に積極的に参加いただくとともに、参加を契機として、参加者同士がつながりを深め、地域での実際の活動に取り組んでいただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	福祉相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	①福祉の総合相談				
	事業概要	高齢者の困りごと相談をはじめ、生活困窮など複雑化・複合化した様々な相談に対応していくほか、アウトリーチを含む早期的な対応や本人・世帯を包括的に受け止めるなどの支援に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	福祉に関する様々な相談を受け、関係部署や関係機関と連携しながら、必要な支援につなげた。必要に応じ、訪問による支援を行った。また、相談を受けた市職員が、適切に必要な支援へつなげられるよう福祉相談アドバイザー事業を実施し、活用した。 (令和4年度実績) 総合相談延べ件数2,200件 主な相談内容として、生活困窮に関する事、高齢者に関する事、家族・親族の悩み、トラブルに関する事の順が多かった。 福祉相談アドバイザー事業利用実績 年3回					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉の総合相談件数	目標値	1,400件	1,400件	1,400件	1,400件	1,400件
	実績値	1,994件	2,200件			
進捗状況及び自己評価	長引くコロナ禍の影響や原油価格・物価高騰等により、生活困窮に関する相談が多く、目標値を上回る相談件数となった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	福祉ニーズの多様化・複雑化によって、制度の狭間に陥っているケースや、複合的に分野をまたがる困難ケースなど様々な相談を受けることから、支援員の資質向上や庁内関係部署及び庁外の福祉事務所やハローワークといった関係機関との連携が必要である。
今後の取り組み方針	支援員の資質向上のため、研修等に参加するとともに、様々な制度等の情報収集に努める。また、複合的に分野をまたがる困難ケース、ひきこもりケースなど、関係部署や関係機関を含めた支援会議等の実施に向けた準備を進めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

ひきこもりなど、問題を抱えている方(本人及び家族)へ、近所からの声掛けや相談先の案内を行う。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	障害福祉課	係名	障害福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	②障害者相談支援				
	事業概要	指定特定相談支援事業所等が障害児者とその保護者に対し、必要なサービスや制度の案内を行うとともに、困り事などの相談に対応していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	指定特定相談支援事業所等との連携を密にとり、個々のケースの抱える課題に対する支援方法を検討している。指定特定相談支援事業所等連絡会において、スキルアップとケースの抱え込みを防ぐためにGSV(グループスーパービジョン)を実施している。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
計画相談支援月間実利用者数	目標値	360人	402人	450人	504人	565人
	実績値	371人	410			
進捗状況及び自己評価	計画相談件数が確実に伸びており、相談支援事業所との連携が不可欠となっているため、関係機関との調整等により適当な支援に結びついている。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	障害福祉サービスの利用者は年々増加傾向にあり、困難ケースも増えている。そのため、関係機関との連携がより必要とされる。
今後の取り組み方針	当事者やその家族、関係機関との関係づくりに取り組み、ケースの実情に応じた支援の検討をしていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

障害福祉サービス等の利用を検討している方に対して、積極的に相談するよう促し、つなげてもらいたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	障害福祉課	係名	障害福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	③精神保健福祉相談				
	事業概要	主に精神障害のある人やその家族の困りごとなどに対して、精神保健福祉士が相談に対応していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	精神保健福祉士による専門相談を月2回実施。広く市民に利用してもらえるよう、また、相談支援専門員等の支援機関や関係課からの相談も受けられるよう、周知に努めた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
精神保健福祉士による専門相談件数	目標値	24件	24件	24件	24件	24件
	実績値	47件	50件			
進捗状況及び自己評価	精神保健福祉士による専門相談を月2回継続実施している。広く市民に利用してもらえるよう、広報・ホームページ掲載の他、関係者会議での周知等を図った。精神障害のある人やその家族からの相談だけでなく、相談支援専門員等の支援機関からの利用も積極的に実施した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市民や支援機関、関係課が必要な時に利用できるよう、周知や利用方法の検討が必要。
今後の取り組み方針	精神保健福祉士による専門相談(月2回)の継続。周知の拡大。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市役所(障害福祉課)にて実施しているため、積極的に活用してもらいたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	障害福祉課	係名	障害福祉係 障害給付係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	④障害者相談支援センター等による相談				
	事業概要	障害のある人に何か困り事や相談があった場合には、障害者相談支援センターのほか、各施設職員、身体障害者・知的障害者相談員、ケースワーカー等が対応していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	朝霞市社会福祉協議会が行うはあとぴあ障害者相談支援センターの充実を図るとともに、既存の事業所との連携により、一人一人の状況に応じた相談支援に努めた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
はあとぴあ障害者相談支援センターにおける相談件数	目標値	2,400件	2,400件	2,400件	2,400件	2,400件
	実績値	2,099件	2,987件			
進捗状況及び自己評価	はあとぴあ障害者相談支援センターや市内相談支援事業所等と障害福祉課ケースワーカーが連携し、様々な障害のある人に対し、適切な相談支援を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・基幹相談支援センターの設置に向けた調査研究を行う。 ・特定相談支援事業所連絡会等を活用し、相談支援の質の向上を図る。
今後の取り組み方針	先進自治体の事例研究等を行い、基幹相談支援センターの設置に向けて、具体的な取り組みを行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

障害のある人に何か困り事や相談があった場合には、障害者相談支援センターを案内してほしい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑤高齢者総合相談				
	事業概要	市と各地域包括支援センターに配置した認知症地域支援推進員を中心に、高齢者や家族に対する相談体制の充実を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	市と各地域包括支援センターに配置している認知症の医療や介護の専門的知識や経験を有する認知症地域推進員が、認知症当事者や家族、関係者等に対して、介護保険や社会資源等の活用について説明するとともに、認知症の正しい知識や対応方法等について記載された認知症ケアガイドブックを用いて、普及・啓発を図ることができた。 また、認知症地域支援推進員が定期的に集まり、認知症施策等について話し合いを行う「認知症地域支援推進員連絡会」をおおよそ予定通りに開催することができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
認知症地域支援推進員連絡会開催回数	目標値	12回	12回	12回	12回	12回
	実績値	12回	11回			
進捗状況及び自己評価	認知症地域支援推進員が、市民等に対して、認知症に関する各種制度や社会資源等について普及・啓発を図ることができた。 認知症地域支援推進員連絡会をおおよそ予定通りに開催することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市の認知症施策について、認知症地域支援推進員と調整を図りながら実施しているが、今後は、認知症当事者やその家族及び認知症当事者の支援団体等の意見を盛り込んだ施策を検討する必要がある。
今後の取り組み方針	認知症当事者の支援団体等にも認知症地域支援推進員連絡会に参加していただき、市の認知症施策の展開について検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

認知症サポーター養成講座に参加して、地域の見守りを行っていただき、認知機能に低下がみられるが、支援者がいらっしやらないようであれば市や地域包括支援センターに連絡していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	こども・健康部	課名	こども未来課	係名	こども相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑥子ども家庭総合支援拠点の整備				
	事業概要	子どもとその家庭、妊産婦等を対象に地域の実情の把握、相談対応、調査、継続的支援等を行う子ども家庭総合支援拠点の設置を検討し、福祉、保健、医療、教育等の関係機関と連携した支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	令和4年4月1日から子ども家庭総合支援拠点を開設した。 妊娠期からの切れ目ない支援を行うため、母子保健担当との情報共有や協働による方針検討などを行う場として、連絡会議を毎月開催した。 子育て世代包括支援センターに児童相談システムを配置したほか、こども未来課の端末で乳幼児健診受診状況と予防接種の接種状況が確認できるように、システム面での情報共有強化を図った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
連絡会議の開催回数	目標値	12回	12回	12回	12回	12回
	実績値	12回	12回			
進捗状況及び自己評価	子ども家庭総合支援拠点を開設し、連絡会議を開催することで、延べ202人のハイリスク妊婦、延べ128人の特定妊婦について情報共有し、生まれてからの切れ目のない支援について検討した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	設置形態としては一体的な運営とはならず、関係機関との連携による設置のため、関係機関との一層の連携強化に向け運営体制について検討する必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き、子育て家庭の妊娠期からの切れ目のない支援に向けて、関係機関と連携して必要な支援を行うとともに、児童虐待の早期発見・早期対応に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子どもの養育に不安を抱える家庭を把握した際、こども未来課に相談するように促し、つないでいただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	総務部	課名	人権庶務課	係名	男女平等推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑦女性総合相談・DV相談				
事業概要	それいゆがらざ(女性センター)では、女性が抱える悩み事全般に関する女性総合相談と、配偶者やパートナーからの暴力に関するDV相談を行います。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	女性総合相談については、毎週木曜日に女性が抱える悩み全般についての相談を実施。DV相談については、毎週火・水・金・土曜日にDV専門相談員が相談を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
女性総合相談・DV専門相談実施日数	目標値	女性総合相談(52日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(51日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(52日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(51日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(51日) DV専門相談(205日)
	実績値	女性総合相談(52日) DV専門相談(205日)	女性総合相談(51日) DV専門相談(205日)	—	—	—
進捗状況及び自己評価	女性総合相談及びDV相談を継続的に実施し、市民が安心していつでも相談できる体制で実施することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	相談の場を広く周知して、誰もが相談しやすい信頼のおける相談体制を充実させることが、必要である。
今後の取り組み方針	様々なケースの相談内容に対応できるよう、研修参加などを通じて、支援する側のさらなるスキル向上を図っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

DV相談及び女性総合相談の利用、また相談窓口の周知

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	総務部	課名	人権庶務課	係名	人権庶務係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑧人権相談				
事業概要	人権擁護委員と連携しながら人権相談を実施し、市民の基本的人権の擁護に努めるとともに、市民の人権尊重意識の向上を図ります。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	人権相談については、毎月第1月曜日に実施した。また、市内小学校での人権の花運動の実施など、人権擁護委員とともに各種啓発活動を行った。さらに市民の人権意識の向上の取組として、人権週間(12月4日～10日)に合わせて、人権について考えていただくよう市のホームページのリンクを貼ったメールをメール配信サービス登録者に送付した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
人権相談の実施日数	目標値	12日	12日	12日	12日	12日
	実績値	12日	12日			
進捗状況及び自己評価	人権相談については、対面での相談となるため、コロナ禍において相談に来庁される方以外にも電話などで問い合わせを受けることがあり、その際は、さいたま地方法務局での常設人権相談を案内するなど適切に対応するとともに相談内容を傾聴し、他部署へ繋ぐ等の対応を行った。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	人権に関わる相談については、内容が複雑、多様化しているケースが想定されるため、人権相談の相談員や担当職員については、そのような相談に対し、適切な対応ができるようスキルアップが課題と考える。また、人権相談を希望する市民に対して、人権相談の窓口を様々な媒体を活用し、周知啓発していく。
今後の取り組み方針	人権問題は複雑化多様化の傾向にあり、新たな人権課題が生じることを想定し、解決に向けて正しい人権教育・啓発活動を工夫するとともに支援体制の充実を図る必要がある。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

相談をしたい方や地域で困っている方にとって、まずは話を聞いてくれる方が地域にいてくれると悩みを抱え込むようなことがなくなる。 身近に相談できる方がいない方々のためにも市や社協に設置されている総合相談の周知・啓発や助言・案内に協力をいただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	市民環境部	課名	地域づくり支援課	係名	市民生活・相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	⑨消費生活相談				
	事業概要	消費者被害の未然防止・被害回復のために、消費生活相談員による相談を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	開庁日の10時～正午、午後1時～4時に面談及び電話で消費生活相談を実施。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
消費生活相談件数	目標値	900件	940件	980件	1020件	1070件
	実績値	829件	838件			
進捗状況及び自己評価	相談件数は目標値に至らなかったものの、例年同様の件数が見込まれた。相談件数が目標値に至らなかったのは、トラブルの件数が少なかったと見える反面、消費生活相談の認知度が低いという観点も認識する必要があると捉えている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	消費者トラブルは年々多種・多様化している。また、高齢者の消費者被害も依然として高い状況が続いていることから、消費者トラブルに対応するため、消費生活相談員のスキルアップを図り、消費生活相談の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	消費者トラブルにあった時の相談窓口として、引き続き啓発活動を行い、消費生活センターの認知度を高めていくよう努める。 また、消費生活相談員には、各種研修に参加できるように環境等の整備を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者や自己判断が難しい市民に対し、隣近所の方が見守りを行い、消費者トラブルの発生や見込まれる場合に、消費生活センターにつなげてもらいたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	こども・健康部	課名	健康づくり課	係名	予防係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	①地域医療の確保				
事業概要	医療機関が休診となる休日夜間においても、市民が医療機関で受診することができるように、医療体制の整備を図ります。また、地域医療体制の確立と保健衛生事業の推進に寄与することにより、市民の健康増進の拡充を図ります。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	朝霞市民の健康を守る地域医療体制の確立と、朝霞地区看護専門学校の安定した運営に資するため、朝霞地区医師会等に補助金を交付する。朝霞地区4市が朝霞地区医師会と委託契約を締結し、日曜及び休日の昼間の初期救急医療、救急病院が実施する日曜休日及び夜間の二次救急医療を確保する。朝霞地区4市及び埼玉県が慶応大学及び日本大学と協定を締結し、同大学に寄附講座を設置することにより、小児科医(慶応大学)及び救命救急医(日本大学)を確保する。骨髄提供者、早期不妊治療者等への助成費の交付を行う。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
小児救急実施率	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
	実績値	100%	100%			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅当番医制運営事業/朝霞地区医師会に診療業務を委託 ・小児救急医療支援事業/小児二次救急医療業務を委託 ・病院群輪番制病院運営事業/二次救急医療業務を委託 ・小児救急医療寄附講座支援事業/慶応大学に寄附講座を設置 ・救命救急医療寄附講座支援事業/日本大学に寄附講座を設置 【補助金】朝霞地区医師会、朝霞地区歯科医師会、朝霞地区看護専門学校(朝霞地区医師会)に補助。骨髄移植ドナー助成費補助事業/骨髄・末梢血幹細胞提供者のうち、条件に該当する者に対し助成。早期不妊検査・不育症検査・早期不妊治療助成費補助事業/不妊検査、不育症検査及び不妊治療を行った者のうち、条件に該当する者に対し助成					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	朝霞地区の救急医療体制の継続及び充実を図り、また、骨髄等提供者、早期不妊治療者等への助成を行うなど、地域医療体制の確立に寄与していく。
今後の取り組み方針	今後も医療体制を維持できるように支援を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域内の病院等の情報を把握する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	こども・健康部	課名	健康づくり課	係名	健康推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	②各種健(検)診事業の促進				
	事業概要	乳幼児健康診査、がん検診、歯科検診など各種健(検)診事業として、受診ができる体制を図ります。また、健(検)診に関する情報を市民に周知し、疾患の予防及び早期発見につなげられるよう、取り組みます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	個別がん検診、集団がん検診、こくほの総合健康診査の実施。乳がんグローブ配付による自己検診の普及啓発の実施。周知を兼ねたがん検診無料クーポン券交付の実施。同クーポン券交付年月日以前に、市の指定するがん検診実施医療機関でがん検診を受診した者に対する自己負担分の助成(がん検診推進事業助成金)の実施。 3歳児健診時フッ化物塗布、成人歯科健康診査、幼児歯科健診の実施。 成人健康診査(30代のヘルスチェック)、生活保護受給者を対象とした健康診査、肝炎ウイルス検診、骨粗しょう症予防検診の実施。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
がん検診受診率 (女性特有:子宮頸がん、 乳がん受診率)	目標値	子宮頸がん 40.0% 乳がん 40.0%	子宮頸がん 40.0% 乳がん 40.0%	子宮頸がん 40.0% 乳がん 40.0%	子宮頸がん 40.0% 乳がん 40.0%	子宮頸がん 50.0% 乳がん 50.0%
	実績値	子宮頸がん 7.6% 乳がん 9.3%	子宮頸がん 7.3% 乳がん 8.4%			
進捗状況 及び 自己評価	各健(検)診について、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら実施した。指標のがん検診受診率については例年よりも若干低下しているが、健(検)診によっては受診率が上がっているものもある。コロナ禍で外出の機会も減り、チラシやポスターを見ることも少なくなったことから、各健(検)診自体の認知度も低くなっている可能性がある。過度な受診控えは健康状のリスクを高めること等、引き続き市民への啓発を図る必要がある。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	個別通知を実施していない健(検)診もあることから、各健(検)診を知らない市民がいたり、受診方法がわからない方もいる。手法等を工夫し、引き続き周知を図る必要がある。
今後の取り組み方針	各健(検)診の周知、正しい知識の普及、定期的を受診できる場所の確保等の環境整備に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

各健(検)診の周知のため、広くチラシやポスターを掲示してもらおう。 朝霞地区医師会、医療機関と連携し、受診できる場所の確保と受診しやすい環境整備を推進する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	こども・健康部	課名	健康づくり課	係名	保健係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	③妊娠・出産包括支援				
	事業概要	母子手帳の交付の際、保健師等の専門職がすべての妊産婦等の状況を把握し、必要に応じて支援プランを作成することにより、切れ目のない支援の実施を図ります。また、退院直後の母子の心身のケアや育児サポート等を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	母子手帳の交付時に、本人または代理で来書された方と必ず面談を行うことで、妊娠・出産、産後に関する相談や情報手協を行うとともに、必要に応じて関係機関とも連携を図りながら、必要な支援を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
母子手帳交付時に専門職が面談する妊婦数	目標値	1,350人	1,350人	1,350人	1,350人	1,350人
	実績値	1,200人	1250人			
進捗状況及び自己評価	母子手帳の交付や転入の手続き等、生活状況や経済状況等の確認も含めて、必ず面談を行い、不安等の軽減に努めている、妊婦本人が体調不良等で来所できない場合も、電話等で状況の把握を行っている妊娠初期からかかわることで、産後や育児に関する相談先の周知や不安の軽減につながっている。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	子育て世代包括支援センターは現在、保健センター内に1か所の設置となっており、北朝霞方面の方へ利便性が課題である。
今後の取り組み方針	引き続き、母子手帳交付時からの関わりを継続しながら、産後の支援の充実に向けて、事業の展開を検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

現状1か所でのみの運営のため、保健センターへの来所、手続きを行う。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	こども・健康部	課名	健康づくり課	係名	保健係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	④自殺対策の推進				
	事業概要	朝霞市自殺対策計画に基づき、「誰もが支えあい つながりある朝霞を目指して」を基本理念に掲げ、自殺予防の視点を取り入れた形で関係部署と連携を図りながら予防に取り組みます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	朝霞市自殺対策計画に基づき、「誰もが支えあい つながりある朝霞を目指して」を基本理念に掲げ、自殺予防の視点を取り入れた形で関係部署と連携を図りながら予防に取り組む。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
人口10万人当たりの自殺死亡率	目標値	11.3人	11.3人	11.3人	11.3人	11.3人
	実績値	14.9人	16.02人			
進捗状況及び自己評価	市の様々な事業を自殺予防という視点を取り入れた形で、基本施策に位置づけた、朝霞市自殺対策計画を策定しており、進捗管理を行いながら、対策に取り組んでいる。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	自殺予防という視点を取り入れて、様々な事業を実施しており、各課の事業評価を行い、関係各課と連携を図りながら、さらに取組を推進していく必要がある。
今後の取り組み方針	基本施策の5本柱と若年層、中高年層、ハイリスク者への対策を重点施策とし、関係部署の取組状況を把握・評価し、朝霞市自殺対策計画に基づいて、施策を推進する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自殺予防の普及・啓発を市民とともに進めていけると良い。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	障害福祉課	係名	障害給付係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	⑤地域活動支援センター及び生活ホームへの支援				
	事業概要	障害のある人の社会参加促進を図る地域活動支援センター及び社会的自立の助長を図るための生活ホームの運営費等に対し、補助金を交付します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	地域活動支援センター3か所、生活ホーム1か所への補助金の交付を行い、適正な運営による、安定的な受け入れ体制の確保を図ります。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
補助金交付対象事業所数	目標値	4か所	4か所	4か所	4か所	4か所
	実績値	4か所	4か所			
進捗状況及び自己評価	所要額に見合う補助金の交付を行った。また、コロナウイルス感染症対策に関連して朝霞市障害福祉施設従事者処遇改善補助金、朝霞市感染症対策支援金の交付を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	法定施設の整備状況や利用者の意向等、需要と供給を見極め、今後の支援の在り方について検討する必要があります。
今後の取り組み方針	利用者の実態に応じた施設の運営の支援に努めます。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

施設の運営に対する地域の理解と協力

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	介護保険係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	⑥介護サービスの基盤整備				
	事業概要	需要に合った施設を整備していくため介護給付費とのバランスを図りながら、国の基本方針に基づき、介護保険事業計画(第8期令和3～5(2021～2023)年度、第9期令和6～8(2024～2026)年度)の中で計画するとともに、地域密着型サービスについては、地域密着型サービス運営委員会に諮りながら整備を進めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	令和4年5月に、介護事業者の新規参入と、新規事業所の利用を促進するためのセミナーを開催しました。公募を実施したところ、「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」について、1事業者から応募があり、選考の結果、適格事業者として選定されました。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域密着型サービス事業所数	目標値	22か所	22か所	24か所	24か所	24か所
	実績値	22か所	22か所			
進捗状況及び自己評価	新たな「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の事業所は、令和5年中に開設の予定で準備を進めており、一定程度進捗しています。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	「看護小規模多機能型居宅介護」について、公募したものの応募がなかったため、今後の対応を協議する必要があります。
今後の取り組み方針	次期介護保険事業計画における介護給付費とのバランスを考慮しつつ、「看護小規模多機能型居宅介護」等の整備について検討を継続します。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」の事業所が開所された際には、ご理解、ご協力をお願いいたします。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	地域包括ケア推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	⑦在宅医療・介護の連携強化				
事業概要	「自分が望んだ場所で望んだ暮らしの実現」「安心して療養できる地域」を目指し、高齢者が医療と介護の両方を必要とする状態になっても、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるように、医療と介護が連携し、包括的かつ継続的な在宅医療・介護サービスを提供できる体制作りに取り組みます。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分が望んだ場所で望んだ暮らしの実現」に向けて、自身の望みを表現する手法であるACPを軸とした研修や意見交換会等を開催した。 ・国立長寿医療研究センターで提供されるACPIに関する人材育成等のプログラムの提供を受け、研修会を開催した。 ・連携体制の構築の一助として、「情報連携シート」の運用を開始した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
研修・情報交換・講演会等の開催	目標値	7回	7回	7回	8回	8回
	実績値	10回	10回			
進捗状況及び自己評価	<p>研修や意見交換会等については、予定通り開催することができ、「情報連携シート」についても、令和4年10月から運用を開始するに至った。 意見交換会においては、ACPの中でも発信の仕方について、関係者の意見等を集約し、共通認識の醸成をしながら、朝霞市におけるACPの発信内容を模索してきたが、確立するまでには至らなかった。</p>					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・情報連携シートの運用状況及び修正点等に関する評価の実施 ・ACPIに関する発信内容の確立及び情報発信のツールの検討 ・人材育成プログラム終了後の取組の明確化
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・情報連携に関する作業部会の開催及びアンケート等の実施 ・人材育成プログラム受講修了者の活用に向けたワーキンググループの立ち上げ ・ACPの発信内容の確立及びリーフレット等の作成の検討

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<ul style="list-style-type: none"> ・ACPの必要性の理解と知識の習得

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	こども・健康部	課名	保育課	係名	保育係 保育総務係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	⑧保育士の雇用環境の改善				
	事業概要	ハローワークや地域の保育団体、社協等と協力して、年に1回就職相談会を開催し、市内での保育所等への就職につなげていきます。また、保育士の処遇の改善を目的として、月額1万円の補助を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度は開催を見送った就職相談会を、ハローワークや地域の保育団体・社協と協力し産業文化センターにて開催した。参加法人は保育園、放課後児童クラブ合わせて11法人(10ブース)、参加者数は24名、うち8名が後日面接や見学につながり、採用となった。 ・民営の保育施設に対して、保育士の処遇の改善を目的として、月額1万円の補助を行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
就職相談会の実施回数	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	0回	1回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度以来の開催となった就職相談会では、法人・参加者共にアンケートでは概ね満足という声をいただけた。1名のみであるが、実際の採用にもつなげることができた。 ・民営の保育施設に対して、保育士の処遇の改善を目的として、月額1万円の補助を行うことができた。 					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士確保のため、処遇改善及び就職相談会、通年の募集など行っているが、慢性的な保育士不足となっている。 ・入職した保育士がなかなか定着せず転職、退職してしまう。
今後の取り組み方針	引き続き、保育士の処遇の改善を目的として、月額1万円の補助を行う。合わせて、就職相談会の開催時期や募集方法について検討を重ねていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市内スーパーなど、より求職者の目につきやすい場所に就職相談会や求人チラシの掲示できるよう協力を賜りたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	障害福祉課 長寿はつらつ課	係名	障害福祉係 高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	①成年後見制度の利用促進				
	事業概要	認知症や知的障害のある人、精神障害のある人など、判断能力の不十分な人が不利益とならないよう、財産管理や身上監護を必要とする場合で、その人に身寄りがない等の場合に、市長による審判請求や後見人等の報酬を助成します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	支援者や家族等からの相談に対して、権利擁護に関する制度説明等を行い、必要に応じて、成年後見制度の市長申立てや成年後見人に対する報酬助成を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
成年後見市長申立て件数	目標値	障害のある人 3件 高齢者 7件	障害のある人 3件 高齢者 8件	障害のある人 3件 高齢者 9件	障害のある人 4件 高齢者 10件	障害のある人 4件 高齢者 10件
	実績値	障害のある人 1件 高齢者 4件	障害のある人 1件 高齢者 8件			
進捗状況及び自己評価	包括支援センター、相談支援専門員等と連携し、支援者や家族等からの相談に対して、成年後見制度をはじめとした権利擁護に係る説明や関係団体に繋ぐことができた。 また、必要に応じて成年後見制度の市長申立てを行い、成年後見人に対して、報酬助成を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	認知症高齢者等の増加が見込まれることから、相談体制の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	相談体制の充実に努めながら、普及・啓発活動を継続する。 必要に応じて成年後見制度の市長申立て及び成年後見人に対する報酬助成を継続する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<p>制度について理解促進を深めてもらいたい。 お困りの方がいたら市民・地域同士で支えあってもらいたい。</p>

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	障害福祉課 (障害者虐待防止センター)	係名	障害福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	②障害者虐待の防止				
	事業概要	障害のある人への虐待について、相談、通報又は届出を受けたときは、関係機関との連携により、円滑な解決を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	障害者虐待防止センターの業務内容(虐待を受けた又は見聞きした場合の通報・相談先であることや障害のある人の養護者の負担軽減、虐待に該当する行為等)を広報、ホームページ等で周知する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
障害者虐待防止センター事業の広報への掲載回数	目標値	3回	3回	3回	3回	3回
	実績値	3回	1回			
進捗状況及び自己評価	「虐待防止ダイヤル#7171」のリーフレットやポスターを市内障害福祉施設や相談支援事業所等へ設置依頼をし、障害者虐待の未然防止等をお願いした。また、虐待に関する通報・相談があった際に関連部署と密に連絡を取り合った。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	障害者虐待を未然に防止するための啓発活動を継続する。
今後の取り組み方針	埼玉県等主催の虐待防止研修に参加(web等)し、障害者虐待防止センターの機能強化を図り、同センターの業務内容を広報、ホームページ等へ掲載し、積極的な啓発に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

障害者虐待と思われる場面を発見したら、速やかに通報をお願いいたします。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	③高齢者虐待の防止				
	事業概要	高齢者の虐待について関係機関と連携を図るとともに、より早期に発見、対応していけるように、市民や関係者などを対象とした研修の充実に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待を受けやすい認知症高齢者等が養護者からの不適切な扱い、またはセルフネグレクトにより、生命・健康・生活が損なわれる状態に置かれることを防止するため、高齢者虐待防止研修を実施した。 ・介護者に対して、介護保険制度や社会資源等の活用を推進することにより、介護者による高齢者虐待を抑制することができた。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
虐待防止研修参加者数(事業者)	目標値	60事業者	60事業者	60事業者	60事業者	60事業者
	実績値	35事業者	47事業者			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・介護施設職員、居宅介護支援事業所及び地域包括支援センター職員に対する高齢者虐待防止研修を実施することができた。 ・介護者の相談内容に応じた介護保険制度等をご案内することにより高齢者虐待の抑制を図ることができた。 					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市民を対象にした高齢者虐待防止に関する普及・啓発活動の充実。
今後の取り組み方針	現在の事業を継続するとともに、市民を対象にした高齢者虐待防止に関する普及・啓発活動を検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<p>虐待疑いの事案の早期発見のため、相談窓口(市、地域包括支援センター等)の把握と利用にご協力願いたいただきたい。</p>

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	こども・健康部	課名	こども未来課	係名	こども相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	④児童虐待の防止				
事業概要	要保護児童対策地域協議会の代表者、実務者及び児童福祉施設等職員向けに研修を実施し関係機関との連携を図るほか、市民向けにセミナーを開催するなど虐待の防止に取り組みます。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	要保護児童対策地域協議会の職員向けに、児童虐待に関する事例を基に、多機関連携に関する研修会や児童虐待対応に関する研修会を実施した。 令和3年度に中止していた市民向けセミナーをYouTube配信の形で実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
要保護児童対策地域協議会の関係機関職員向け研修開催	目標値	2回	2回	2回	2回	2回
	実績値	2回	2回			
進捗状況及び自己評価	要保護児童対策地域協議会の構成機関をはじめとする関係機関の職員向けに、各種研修会を実施し、児童虐待対応における関係機関間の連携の重要性について共有することができた。 市民向けセミナーを動画配信し、計236回の視聴と、多くの方に研修を受けていただくことができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	研修会の題材が、児童虐待防止や児童虐待対応において効果的なものとなるよう検討する必要がある。 また、参加者が参加しやすい開催日程となるよう検討する必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き、社会情勢、関係機関のニーズや研修アンケートなどを踏まえながら、研修テーマ、講師の選定や開催日程などの選定に取り組み、研修会を実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

研修で学んだことを各関係機関に持ち帰り、職員間で共有し、実務に活かしていただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	福祉相談係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	①生活困窮者・世帯の自立支援(再掲)				
事業概要	生活困窮者の自立の促進を図るために、生活困窮者自立支援法に基づき、相談や就労支援、学習支援、住居確保給付金の支給などの各種支援を実施します。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者に対して市町村の必須事業とされている自立相談支援事業及び住居確保給付金の支給、任意事業の学習支援事業を実施した。 (R4年度実績) 住居確保給付金 決定件数12件、支給件数49件、総支給額2,296,260円 学習支援事業 学習教室 年44回、利用者数30人 内訳(中学生17人、高校生12人、高校生世代※1人) ※中学校修了後、18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある方 家庭訪問 年150回(延べ) 利用者数3人 内訳(中学生1人、高校生1人、高校生世代1人) 自立支援金給付 決定件数63件、支給月数252か月、総支給額17,980,000円					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮に関する相談件数(再掲)	目標値	600件	600件	600件	600件	600件
	実績値	1,772件	1,870件			
進捗状況及び自己評価	長引くコロナ禍の影響や原油価格・物価高騰等により、生活困窮に関する相談が多く、目標値を上回る相談件数となった。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	長引くコロナ禍の影響を受け、生活が困窮されている方の相談件数が増加傾向になっているが、その相談の中では多重債務を抱え、返済が困難になっている方や、収入の多寡に関わらず、家計に問題があり、借金に頼らざるを得ない方、又は支払いが滞っている方がみられており、現在の支援の中で解決に結びつくことが困難な状況がある。
今後の取り組み方針	困窮された方が生活を立て直せるよう、自立相談支援機関だけでなく、ハローワークといった関係機関等と連携し、必要な支援につなげていく。また、家計に問題を抱える生活困窮者からの相談では、「家計の見える化」により、家計収支の改善や家計管理能力向上等により自立した生活が定着するよう、家計改善支援事業の導入を検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している人を身近で見かけたときに、相談先を案内してもらう。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	生活援護課	係名	第1・2・3係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	②生活保護の適正な運営				
事業概要	ケースワーカー等が生活困窮者の相談を受け、利用可能な支援策について助言を行う。 また、生活保護が必要な人には、生活保護を適用し、生活保護受給者に対しては、適正な保護を実施するとともに、必要に応じて自立助長を促す。					

R4年度の取り組み内容	面接相談員やケースワーカーが、生活困窮者等の相談を受け、利用可能な支援についての助言を行った。 令和5年2月末現在の実績は、生活保護世帯数1,577世帯、保護人員1,906人、保護率1.32%。相談延べ件数は580件で申請となった方は208件、このうち200件が保護の開始となり、自立助長に向けて必要な支援を実施した。また、保護の廃止の実績は、172件となった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活保護受給世帯の 高校等進学率	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
	実績値	90%	100%			
進捗状況及び自己評価	令和4年度の高校進学実績については、6人中6人が高校進学した。 内訳としては、全日制(県立)4人、定時制(県立)2人と結果としては、進学100%となったが、希望通りの高校進学が実現できなかった方もいるので、希望が叶うよう対象世帯へ支援する。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	生活保護受給家庭で育った子供は、様々な生活上の問題を抱えていることが少なくない。親の子の教育に対する意識が高いとは言えない家庭では、子も勉強に対する意識が低い状況である。 このことから、親の教育に対する意識を変えながら子供の意識も変え、より高い教育を受けられるよう支援しながら、子供の健全育成に繋げていくことが課題である。
今後の取り組み方針	現在、福祉相談課で中学生・高校生を対象に実施している無料の学習塾(アスポート事業)を紹介・説明し、対象世帯に勉強する環境づくりを粘り強く行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地区の民生委員や各関係機関と連絡調整を図り、協力しながらその世帯の自立に向けての支援を実施していく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課 こども未来課	係名	福祉相談係 こども給付係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	③生活困窮者等の学習支援				
事業概要	ひとり親世帯や生活保護世帯等の生活困窮世帯の中学生・高校生を対象に、高校への進学及び中退の防止等を目指し、学習支援事業を実施します。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<p>校長会にて本事業の概要説明を実施し、教職員や保護者への周知及び声掛け等を依頼。本事業についての高等学校への進学及び中途退学防止のための学習教室を週1回開催したほか、家庭訪問等により学習や進学、生活習慣を身につけるための相談支援等を行った。</p> <p>学習支援事業 学習教室 年44回、利用者数30人 内訳(中学生17人、高校生12人、高校生世代※1人) ※中学校修了後、18歳に達する日以降の最初の3月31日までの間にある方 家庭訪問 年150回(延べ) 利用者数3人 内訳(中学生1人、高校生1人、高校生世代1人)</p>					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮等世帯の学習支援事業の利用者数	目標値	28人	30人	32人	34人	36人
	実績値	32人	30人			
進捗状況及び自己評価	<p>新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を行いながら、学習教室の開催や訪問による支援等を実施した。</p> <p>また、生活保護ケースワーカー向けに事業の説明会を実施したほか、児童扶養手当の受給者証の送付時や、就学援助の決定通知にチラシを同封するなど、事業を周知した。</p>					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	学習教室の開催場所について、現在は朝霞駅方面で行っており、朝霞台駅方面からは遠いとの声がある。また、困窮の連鎖を断ち切るためには、早期介入が重要であるため、対象を小学生へと拡大していくことの検討が必要である。
今後の取り組み方針	当面は訪問学習の利用や、小学生対象の方へは市内で活動するNPO法人が実施する学習支援教室を案内し、支援につなげていく。また、本事業の制度や利用方法について、引き続き生活保護ケースワーカー向けに説明会を実施し、利用に繋げていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している人を身近で見かけたときに、相談先を案内してもらう。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	市民環境部	課名	産業振興課	係名	産業労働係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	④内職相談				
	事業概要	家庭外で働くことが困難で内職を希望する人に対し、内職の相談・紹介を行うとともに、内職提供事業所の調査、開拓及び仕事提供の依頼を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	毎週火曜日と金曜日の10時から16時まで、市民相談室で内職相談員による相談事業を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
相談件数	目標値	150件	150件	150件	150件	150件
	実績値	113件	122件			
進捗状況及び自己評価	新型コロナウイルス感染症の収束傾向に伴い、対面の面談件数は回復しつつある。今後は、コロナ禍で実施していた対面以外での相談についても引き続き積極的に実施していくことで、対面・電話の双方で事業を実施していく。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	相談件数が伸び悩んでおり、事業のあり方や周知方法などについて検討する必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き、相談業務の実施と周知を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

事業周知の協力	
---------	--

4 推進委員会の意見(評価)

--	--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	地域福祉係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	①総合福祉センターの利用				
	事業概要	総合福祉センターを利用することにより、高齢者、障害のある人及び児童の交流を促進します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	社会福祉法人朝霞市社会福祉協議会を指定管理者として、総合福祉センターの管理及び運営を適正に実施することで、利用者の交流を促進した。 利用者アンケートを実施し、利用者の意見を伺った。 運営協議会を2回開催し、総合福祉センターの事業報告及び事業計画について説明し、協議した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
会議室等利用人数	目標値	10,000人	10,000人	10,000人	10,000人	10,000人
	実績値	4,525人	4,621人			
進捗状況及び自己評価	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染防止策として、会議室の利用人数制限を行った。また、今年度は老人福祉センターのボイラー入替工事に伴い、浴室の稼働を停止したため、老人福祉センターと会議室を併せて利用される方々の利用人数が減少し、目標値に及ばなかった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域福祉の推進を担う観点から、高齢者、障害のある人及び児童が利用できる施設として、今後も安定した運営により様々なサービスを提供していく必要がある。
今後の取り組み方針	総合福祉センターの指定管理者と連携し、適宜必要な修繕等を行うなど、安全かつ適正に管理運営していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域の様々な交流の場に積極的に参加し、交流拠点として、市の施設等を利用する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	②老人クラブ会員による世代間交流				
	事業概要	老人クラブ会員が児童館事業の「伝承遊び」の講師として指導するなど、様々な機会に、様々な形の世代間の交流を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	主に老人福祉センターを利用している高齢者と同一建物内の児童館を利用している児童や学生(以下、児童等という。)と交流を図ることができたが、老人クラブ会員と児童館を利用している児童等の交流を図ることはできなかった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
老人クラブ会員と児童館を利用している児童の交流の機会	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	0回	0回			
進捗状況及び自己評価	各老人クラブの活動は、再開しつつあるが、老人クラブ会員と児童館を利用している児童等の交流は図ることができなかった。					
	C	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	老人クラブや児童館に対する事業概要に関する説明や、事業実施に向けた働きかけ等が不足している。また、事業実施に向けた老人クラブと児童館の連携体制を構築する必要がある。
今後の取り組み方針	老人クラブ連合会、各老人クラブ、老人福祉センター及び児童館に対して、事業概要について説明するとともに、事業実施に向けた連携体制を構築できるように、働きかけを実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

興味のある老人クラブの活動に参加していただき、世代間交流事業を実施する際は、参加していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	地域包括ケア推進係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	③生活支援体制整備事業の推進				
	事業概要	地域の住民や各種団体、企業の関係者など様々な人々が連携しながら、多様な日常生活上の支援体制の充実・強化、また、地域住民や高齢者の社会参加を図る「助け合いの活動」の推進を目標に、協議体や生活支援コーディネーターの活動により、地域の課題や資源の把握、課題解決に向けた検討を進めていきます。 また、地域資源を可視化し、地域のニーズとの円滑なマッチングや支援を進めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーター会議を毎月開催し、各生活支援コーディネーターが活動を支援した。 第1層協議体の立ち上げに向け、仕組みづくりについて協議した。 地域資源を可視化できるよう、情報共有を行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
第2層協議体の会議開催回数	目標値	60回	60回	60回	72回	72回
	実績値	46回	52回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーター会議を毎月開催し、ニーズに合った事業の企画・実施や、第2層協議体の活動状況を共有し、それぞれが新しい取組等を実施した。 第2層協議体を対象とした学習会を実施した。 第1層協議体に対する共通の認識を持つために意見交換を実施した。 地域資源のリスト化を行った。 					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> 第1層協議体が立ち上げていない。 第2層協議体の効果的な運営支援が必要である。 生活支援コーディネーターや協議体の周知が必要である。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度中に第1層協議体を立ち上げるための準備や各所に説明をする。 住民主体の活動を支援するための体制・仕組みを整備する。 生活支援体制整備事業について広く周知するために市民フォーラムを開催する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<ul style="list-style-type: none"> 自助・互助を基本とする支え合いの必要性についての理解

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	高齢者支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	④生きがい活動の支援				
事業概要	高齢者地域交流室及びシルバーサロンの適切な管理を行い、市民に提供します。また、高齢者地域交流室の効率的な運用方法について検討していきます。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を図りながら集いの場である高齢者地域交流室及びシルバーサロンを提供することができた。また、利用を制限していた囲碁・将棋、麻雀及びバンパードゲームの提供を令和5年3月22日から再開することができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
シルバーサロンの利用者数	目標値	600人	700人	800人	900人	1000人
	実績値	583人	716人			
進捗状況及び自己評価	高齢者地域交流室及びシルバーサロンの適切な管理を行い市民に提供することができているが、高齢者地域交流室の拡張部分等の活用について検討する必要がある。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症が流行していたため、シルバーサロンの利用が減少していたが、同感染症感染者数が減少傾向にあり、令和5年5月には、新型コロナウイルスの類型が見直されることから、改めて周知が必要である。 ・高齢者地域交流室の拡張部分の活用方法を検討する必要がある。
今後の取り組み方針	令和5年5月には、新型コロナウイルス感染症の類型が見直されることから、シルバーサロンの利用を広く周知するとともに、高齢者地域交流室の拡張部分の活用について、新たな団体等の募集方法や使用方法を検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<ul style="list-style-type: none"> ・シルバーサロンについては、利用制限がないことから、積極的に活用していただきたい。 ・高齢者地域交流室を利用している団体が実施している活動内容に興味がある場合は、参加していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	市民環境部	課名	地域づくり支援課	係名	地域づくり支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	⑤多文化共生への理解の促進				
	事業概要	異なる文化への理解を深め、共生する社会を目指し、市民活動団体や関係機関と連携し、外国人市民を交えた交流会等の開催及び周知を行い、異文化に触れる機会を増やすことで相互理解の促進に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 多文化共生に関する情報発信(広報、HP等での周知・啓発)(計12回) 多文化推進サポーター事業の実施(13件25人)見込 国際化推進事業庁内連絡会議開催 英語指導助手を小学校へ7名を派遣し、学級担任、英語専科教師と連携し、以下の活動を行った。 <ol style="list-style-type: none"> 第3・4学年における外国語活動及び第5・6学年における外国語 特別活動、給食の時間等におけるふれあい活動 教材作成に係る指導・援助 余剰時間を活用した第1・2学年における国際理解教育等 中学校へ英語指導助手を5名派遣し、英語科担当教員と連携し、英語授業を行った。また、朝霞市英語弁論暗唱大会出場者への指導と大会当日の運営を行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
多文化推進サポーター実働回数	目標値	31回	32回	33回	34回	36回
	実績値	2回	25回			
進捗状況及び自己評価	多文化推進サポーター実働回数について、多文化共生に関する啓発事業に取り組み、大幅に実働回数を増加させ、おおむね順調に進捗している。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	外国人市民は今後も増加することが見込まれており、外国人市民が地域社会の一員として生活できるよう、多文化共生意識の醸成を図る必要がある。
今後の取り組み方針	市内の多文化共生に取り組む団体と連携し、外国人市民の現状の把握に努めながら、多文化推進サポーター等を活用し、多文化共生意識の啓発を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

言語や文化の差異を認め、外国人市民も地域社会の一員として生活できるよう異なる文化の相互理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	市民環境部	課名	地域づくり支援課	係名	地域づくり支援係
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	⑥地域団体間の交流・連携の促進				
	事業概要	自治会連合会が実施するコミュニティ活動や朝霞市コミュニティ協議会(朝霞市民まつり実行委員会)が主催する朝霞市民まつり「彩夏祭」などの開催について支援します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 自治会等運営費補助金の交付:71自治会・町内会及び自治会連合会に12,477千円を交付 自治会等集会所建設事業補助金の交付:3自治会・町内会に1,247千円を交付(修繕) コミュニティ協議会に補助金を交付:運営費補助金405千円、市民まつり補助金22,000千円を交付 よさこい鳴子踊りに参加する小・中学校に補助金を交付:市内小学校3校に300千円を交付 自治会連合会、コミュニティ協議会及び市民まつり実行委員会の事務局運営 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
朝霞市民まつり「彩夏祭」来場者数	目標値	700,000人	710,000人	710,000人	710,000人	720,000人
	実績値	0人	350,000人			
進捗状況及び自己評価	<p>コロナ禍でのイベント開催となり、目標値を達成できなかったが、感染症対策を含め、市民や関係機関が協力・連携して取り組んだことで、集団感染の発生もなく、無事に開催することができ、地域文化の継承につながった。</p>					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	ふるさと意識を形成し、市民が地元に着と誇りを持てるよう、「彩夏祭」などの地域独自の文化を、いかに市民の間に根付かせていくかが課題である。
今後の取り組み方針	「彩夏祭」などの地域独自の文化が市民の間に根付くよう積極的に情報発信を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<p>彩夏祭は、市民が主役のイベントであり、主催団体である市民まつり実行委員会が主導し、市がサポートする体制は変わらないが、市が担っている役割と市民が担っている役割が適当であるか両方で確認していく。</p>

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	地域福祉係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	①地域福祉講演会の開催				
	事業概要	市民の福祉に対する理解と関心を深め、地域で共に支え合う意識を高める機会づくりを目的に、地域の生活課題等をテーマとする講演会を開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	地域福祉計画を推進していくため、ふれあいや交流の場を提供するとともに、自主的に活動しようとする市民の後押しとなるよう地域福祉の発展に向けた講演会を開催する予定であったが、新型コロナウイルスの感染症の影響により、開催中止となった。 【予定していた講演会】 内容:地域福祉講演会 講演会対象者:一般市民、自治会・町内会、民生委員など 開催時期:10月 予算:講師謝金、保育士謝金					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域福祉講演会参加人数	目標値	100人	100人	100人	100人	100人
	実績値	0人	0人			
進捗状況及び自己評価	新型コロナウイルス感染症の影響により、地域福祉講演会を開催できなかった。					
	C	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域福祉を推進していくためには、行政だけでなく地域住民をはじめ社会福祉協議会や福祉関係者等との連携が不可欠であるため、講演会でその必要性や重要性を発信していく必要がある。また、講演会を開催する際には、参加者が出席しやすい日時等に配慮していく。
今後の取り組み方針	自主的に活動しようとする市民の後押しとなるよう地域福祉の発展に向けた講演会を開催していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域で共に支え合う意識を高める機会として、積極的に講演会に参加してほしい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	障害福祉課	係名	障害福祉係 障害給付係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	②スポーツ・レクリエーションの集いの開催				
	事業概要	毎年7月の第一週に、障害のある人もない人も、誰もが楽しめるフライングディスクやボッチャなどのさまざまなスポーツを体験できるスポーツ・レクリエーションの集いを開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	「スポーツ・レクリエーションの集い」は令和4年度から「障害者レクリエーション事業」として、障害者団体等のレクリエーション事業に対する補助金交付事業に移行した。 令和4年度は制度開始の年であり、広く周知を行い、対象の事業は1件となった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
スポーツ・レクリエーションの集い(障害者レクリエーション事業)参加人数	目標値	130人	140人	150人	150人	150人
	実績値	0人	44人			
進捗状況及び自己評価	令和4年度は制度開始の年であり、広く周知を行い、対象の事業は1件となった。今後においても引き続き幅広く周知を行い、より多くの事業について補助を行っていく。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	令和4年度は制度開始の年であり、広く周知を行ったが、コロナ禍ということで団体や事業者のイベント等の活動が消極的であった。
今後の取り組み方針	今後においても引き続き幅広く周知を行い、より多くの事業について補助を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

障害のある人もない人も共に楽しめる事業の開催及び情報提供。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	障害福祉課	係名	障害福祉係 障害給付係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	③ふれあいスポーツ大会の開催				
	事業概要	障害のある人もない人も、一緒にスポーツを楽しみながら交流を図り、親睦を深めるふれあいスポーツ大会を開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	スポーツ大会は毎年9月下旬頃(令和4年度は9月25日(日))に、市立総合体育館メインアリーナに於いて開催した。令和4年度は半日開催とし、4種目を実施した。 ※令和2年度・令和3年度と新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点より、参加団体の意向等も踏まえ、参加者の安全を第一に考え、中止となった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ふれあいスポーツ大会の参加者数	目標値	280人	280人	280人	280人	280人
	実績値	0人	93人			
進捗状況及び自己評価	障害者及びその家族と施設関係者との親睦を深めることに有効な事業と判断します。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、参加者の安全を確保し、障害のある人もない人も楽しめる大会の開催方法について検討していく必要がある。
今後の取り組み方針	参加団体と調整し、新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえ、より安全に大会を行うための検討を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

ふれあいスポーツ大会への参加や運営ボランティアをお願いしたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	市長公室	課名	政策企画課	係名	政策企画係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	④市民参画と協働による地域づくりの促進(再掲)				
	事業概要	講座や講演会等の開催を通し、地域での活動に関心を持つ人材を発掘するとともに、お互いのつながりづくりのきっかけとなる機会を提供することで、これから実際に地域に関与する活動に取り組む担い手を育成します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	(1)市民活動団体との交流を図るため、地域づくり支援課が和光市と共同で開催した市民活動団体交流会に参加し、団体との意見交換を行った。 (2)交流会でつながりをもった団体の活動等に参加 (3)まちづくり推進課が事務局となっている「北朝霞・朝霞台デザインラボ」が主催するまちづくりに関するワークショップに参加し、参加する市民と意見を交わした。 なお、令和4年度は、各団体との交流を行うことを目的として活動したため、講座の開催は行わなかった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民参画に係る講座・講演会の開催回数	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	0回			
進捗状況及び自己評価	令和5年度から総合計画の策定に取り掛かることから、主催講座の実施ではなく、市民団体の方と直接対話をし、つながりを作ることが大事ではないかと考え、交流に主眼をおいて活動した。 また、他課が実施するワークショップに参加することで、次年度、自課で開催するワークショップなどの際も、参考にできる点があった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	昨年度実施したSDGs講演会においても、参加者数や世代が一定に留まっていることから、引き続き、市民参画の機運醸成を重点課題と捉えている。多くの市民の方に意見をいただくことや、若い世代や子育て世代にも広く関心を持っていただけるような仕組みづくりを検討する必要がある。 また、活動団体との交流を継続することで、行政と市民の協働のあり方を
今後の取り組み方針	若い世代や子育て世代についても、市民参画と協働の機運が高まるよう、引き続き、市民講座を通じた啓発や職員の意識づくりに努める。 今後も、活動の場に出向いて、積極的に意見を伺う機会を捉えていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市が実施する講座等に積極的に参加いただくとともに、参加を契機として、参加者同士がつながりを深め、地域での実際の活動に取り組んでいただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	市民環境部	課名	地域づくり支援課	係名	市民活動支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	⑤市民活動の周知・啓発及び参加の促進				
	事業概要	市民活動やボランティアに関する情報を収集し提供するとともに、多くの人に市民活動に参加していただく機会の提供、市民活動の周知・啓発等を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	メールマガジンや広報・ホームページなどで市民活動に関する情報発信を行ったほか、市民活動パネル展を開催し、市民活動の周知・啓発に努めた。また、パネル展開催時にあわせて「出張市民活動相談会」を実施し、ステーション以外でも市民活動に関する相談が出来る様にした。市民活動の新たな担い手を育成することを目的とした「地域デビュー支援セミナー」を開催した。登録者が、市内で開催されるイベントにボランティアとして参加する「朝霞市イベントボランティア登録制度」の運用を開始した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民活動支援ステーションの延べ利用団体数	目標値	510団体	520団体	530団体	540団体	550団体
	実績値	451団体	456団体			
進捗状況及び自己評価	指標の施設利用団体数については、新型コロナウイルス感染症による団体活動への影響も大きく、目標には届かなかったが、前年度を上回ることが出来た。また、出張市民活動相談会を実施したことにより、ステーション以外でも市民活動の周知・啓発を図ることが出来た。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	活動の担い手の高齢化や会員の不足のほか、新型コロナウイルス感染症の影響による活動の停滞など
今後の取り組み方針	多くの方に市民活動に関心・興味をもち参加していただけるよう、引き続き工夫を図りながら、市民活動の周知・啓発等を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<p>パネル展、セミナーやイベントボランティア登録制度など市民活動への参加や担い手の育成に関する事業等を、今後も開催・運営していくので、関心のある方の積極的な参加が望まれる。</p>

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	生涯学習部	課名	生涯学習・スポーツ課	係名	スポーツ係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	⑥スポーツの振興				
	事業概要	市民の親睦と健康増進を図り、あわせてスポーツ及びレクリエーションの振興に寄与するとともに、市民生活を明るく豊かにすることを目的として、スポーツイベント等を開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	市民の親睦と健康増進を図り、あわせてスポーツ及びレクリエーションの振興に寄与するとともに、市民生活を明るく豊かにすることを目的として、市民体育祭を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
町内会・自治会参加数	目標値	20団体	20団体	20団体	20団体	20団体
	実績値	—	5団体			
進捗状況及び自己評価	開催時間の短縮等の感染症対策や、参加要件の緩和、テントや椅子の設置の業者委託など、自治会・町内会の皆さんが参加しやすくなる取組、競技参加者に対し参加賞のほか抽選券を配布し、抽選会を行うなどの新たな取組を加え、市民体育祭を開催した。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	近年、自治会・町内会の市民体育祭への参加地区数が減少傾向にあるなか、今年度は一般参加者が多くなるなど、新たな動きも見られたことから、スポーツイベントに対する潜在的な需要を喚起するため、朝霞市体育協会や朝霞市スポーツ推進委員連絡協議会などと連携し、事業を展開していく必要がある。
今後の取り組み方針	朝霞市体育協会や朝霞市スポーツ推進委員連絡協議会などと連携し、多くの方に参加していただけるようなスポーツイベント等の企画・運営を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

多くの市民・地域に市民体育祭等へ参加していただき、互いの親睦と健康増進を図る。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	高齢者支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事業名	①認知症への理解の促進				
	事業概要	認知症サポーター養成講座や、認知症の家族介護教室などを実施します。また、認知症ケアガイドブックを作成、配布し、認知症の高齢者等との接し方などの周知を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響を受けながらも開催回数や開催規模を縮小しながら計画的に認知症サポーター養成講座及び家族介護教室を開催することができた。 ・公共施設、スーパー及び金融機関等に認知症ケアガイドブックを配付し、認知症の正しい知識や対応方法等について普及・啓発を図ることができた。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
認知症サポーター養成講座参加者数	目標値	1,350人	700人	700人	200人	200人
	実績値	249人	114人			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大のため、例年に比べると認知症サポーター養成講座を開催することができなかった。 ・認知症ケアガイドブックを公共施設やスーパー等に配付し、普及・啓発を図ることができた。 					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	認知症への理解が多世代に広がるよう、若年層への働きかけについて検討していく必要がある。
今後の取り組み方針	現在認知症の方を介護している方だけでなく、社会全体で認知症への理解を進めていくための取組を検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

認知機能の低下が疑われるが、支援者がいらっしやらないような高齢者を見かけた場合は、長寿はつらつ課や地域包括支援センターに連絡をお願いします。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	学校教育部	課名	教育指導課	係名	—
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事業名	②学校における福祉教育の充実				
事業概要	小・中学校の総合的な学習の時間において、アイマスク体験・車いす体験等を実施します。また、福祉部局と連携し、認知症サポーター養成講座を実施するなど、地域共生社会の実現に向けた教育を推進していきます。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	小・中学校の総合的な学習の時間における障害疑似体験、道徳・社会科の授業、人権作文等を通じて、リーフレット等も活用しながら、障害者理解や福祉に関する理解に取り組んだ。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉教育の実施学校数	目標値	10校	10校	13校	13校	15校
	実績値	10校	10校			
進捗状況 及び 自己評価	上記の取組を通じて、各校において概ね順調に進捗している。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	学校や学年により取組に対する差があるため、さらなる啓発と意識の向上が必要である。
今後の取り組み方針	福祉部局と連携しながら、認知症サポーター養成講座等の出前授業を実施し、地域共生社会の実現に向けた教育を推進していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<p>コロナ禍の終息に伴い、学校公開等で地域の方に学校での福祉教育の様子を参観していただくとともに、アイマスク体験や車いす体験等にご協力いただきたい。</p>

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	生涯学習部	課名	生涯学習・スポーツ課	係名	生涯学習係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事業名	③人権教育の推進				
事業概要	市民人権教育研修会、企業人権教育研修会、人権問題講演会等の各種人権教育研修会を開催し、人権尊重の意識を高め、人権感覚の育成に努めます。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	市民人権教育研修会、人権問題講演会、企業人権教育研修会及び公民館人権教育講座の実施。朝霞市人権教育推進協議会と共催し、現地研修会(フィールドワーク)の実施。成人の日記念式典や各種人権教育研修会における人権啓発品や啓発冊子の配布。朝霞市人権教育推進協議会への補助金の交付。《補助金/135,000円》					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
各種研修会・講座開催回数	目標値	10回	10回	10回	10回	10回
	実績値	3回	6回			
進捗状況及び自己評価	新型コロナウイルスの影響から、指標の目標値に届かなかったが、感染症対策を講じて実施した人権教育研修会には多くの市民の参加があり、人権啓発の推進が図られた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	例年、多様な人権課題の中から偏ることなく今日的な課題をテーマとして取り上げ、講演会や研修会を実施しているが、参加者や世代の固定化が見られるため、若い世代を含めた幅広い世代に関心を持っていただけるよう、従来の方法だけでなく、より効果的な実施手法について研究し、継続して人権啓発を推進する必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き、第4期朝霞市地域福祉計画の基本目標や施策の方向性を意識し、多様な人権課題に対応した人権教育事業を実施し人権啓発の推進に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

人権教育に関する研修会等へ積極的に参加し、思いやりと支え合いの心を育み、地域に還元する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	地域福祉係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	①民生委員児童委員の活動支援				
	事業概要	地域福祉の担い手である民生委員児童委員の活動を支援し、欠員地区の委員補充、現任委員のスキルアップなどに努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	民生委員児童委員が東・西・南・北・東北・南西の6地区に分かれ、毎月の定例会で事例研究や情報交換を行うとともに、行政や地域包括支援センター等の関係機関に講師を依頼し、福祉や防災等についての理解を深めた。また、活動や組織運営にかかる費用を補助することで、活動を促進し、地域福祉の推進を図った。令和4年度は一斉改選の年でもあり、民生委員推薦会を3回実施し、計16名の新任候補者について、適格性を審議することができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
民生委員児童委員延べ活動日数	目標値	14,400日	14,400日	14,400日	14,400日	14,400日
	実績値	11,003日	10,600日			
進捗状況及び自己評価	民生委員児童委員の見守り活動や相談により、地域でお困りの市民を、市役所や社会福祉協議会等の関係機関に繋いでもらうことで、諸問題が解決できた。なお、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部の地区定例会や視察研修を中止した。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	民生委員児童委員の定数に欠員が生じていて、地域での活動に支障をきたしている。また、民生委員児童委員の高齢化が進んでいるため、人材の確保と新しい担い手の育成が必要となっている。
今後の取り組み方針	引き続き各地区協議会の会長や副会長と協力して、欠員補充に努めるとともに、補充方法や委員の担い手の育成等についても検討していく。また、民生委員児童委員が活動しやすくなるように、その活動を周知するとともに、各委員へ活動に関する情報提供を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者や障害のある人、子どもなどへの見守りや声掛けを行う。 登下校時などの見守り活動に協力する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	地域包括ケア推進係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	②地域包括支援センターと関係機関の連携				
	事業概要	地域包括支援センターと民生委員等関係機関が連携し、一人暮らしの高齢者等の見守り活動を随時行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	民生委員児童委員定例会の定期的な参加を中心に、民生委員との連携体制を構築し、日頃の相談業務における連携や見守り活動等の取り組みを推進した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
民生委員児童委員定例会への定期的な参加	目標値	12回	12回	12回	12回	12回
	実績値	20回	25回			
進捗状況及び自己評価	定例会への定期参加に加え、民生委員を対象に講座等を開催することで、連携体制の構築を推進した。日々の相談業務における連携や見守り活動などを協同することができる。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	引き続き、連携体制の構築に向けた取組を推進していく。
今後の取り組み方針	引き続き、定例会への参加等通じて、連携体制の構築に努め、見守り活動の実施など、高齢者を支えるための一助としていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者等を地域で見守る体制づくり

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	高齢者支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	③安心見守り支援				
事業概要	高齢者が安心して日常生活を送るために緊急通報システム・安心見守り通報システム事業を、安否確認のために配食サービスや乳酸飲料配付事業等を実施します。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし高齢者等に対し、配食サービスや乳酸飲料を直接届けることで安否確認を行っており、必要に応じて、市職員が自宅等を訪問し、支援を行うことができた。 ・ひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯の方が、安心して日常生活を送ることができるように緊急時にボタンを押すだけで救急要請ができる緊急通報システムや安心見守り通報システム事業を実施することができた。 ・移動販売業者2者との見守り協定の締結により、高齢者等に対する見守りを強化することができた。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
高齢者配食サービスの延べ利用者数	目標値	3,150人	3,200人	3,250人	3,300人	3,350人
	実績値	3,394人	2,993人			
進捗状況及び自己評価	配食サービスや緊急通報システムの設置などは、例年安定した需要が見られ、ひとり暮らし高齢者等が安心して、日常生活を営むための見守り事業として定着している。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	団塊の世代が75歳以上になる令和7年と、団塊ジュニア世代が65歳以上になる令和22年など、高齢者の増加を見据え、見守り体制の見直しを検討する必要がある。
今後の取り組み方針	見守り体制の更なる充実に向けた見直しを図ることで、ひとり暮らし高齢者及び高齢者世帯の方が、住み慣れた地域で自立し、安心して日常生活を送ることができるように努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

近隣に居住する高齢者等への見守り意識を持ち、異変を感じた際の通報や、情報提供にご協力いただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	こども・健康部	課名	こども未来課	係名	こども相談係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	④児童相談所等との連携				
	事業概要	児童相談対応において、一時保護、児童福祉司指導などの権限を有する児童相談所をはじめとする関係機関と適宜、情報共有や協議など連携を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	児童虐待事例に対して、緊急性や重大性などに応じて児童相談所と連携して対応を行った。一時保護や児童福祉司指導などの行政権限が伴う対応が必要となる事例や処遇困難事例について、児童相談所に対して通告、協議相談を行った。多機関連携が必要となる事例について、児童相談所をはじめとする関係機関が集まり個別支援会議を開催し、情報共有や処遇検討を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
個別支援会議実施	目標値	10回	10回	10回	10回	10回
	実績値	62回	39回			
進捗状況及び自己評価	日頃より、関係機関で児童虐待に関する情報共有を行うことで、緊急時にも迅速に対応できた。虐待ハイリスクの家庭に関して、繰り返し個別支援会議を開催するとともに、リスクアセスメントシートを活用してリスクを可視化し、関係機関と共通認識をもって支援にあたることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	児童虐待事例は、子どもの置かれている環境の複雑化に伴い、その対応も困難なものが増えていることから、関係機関がより一層連携して対応を行っていく必要がある。
今後の取り組み方針	児童虐待が深刻化しないよう、早期発見と早期対応が必要であり、円滑な情報共有による連携した対応が重要であるため、引き続き関係機関の連携を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子どもの養育に不安を抱える家庭を把握した際、こども未来課に相談するように促し、つないでいただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	地域包括ケア推進係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	①多職種参加の地域ケア会議の実施				
	事業概要	地域包括ケアシステムの推進に向け、地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所が携わっている個別ケースについて、アセスメントの効果的な方法や自立支援・重度化防止に資するケアプランの作成のために、多職種と検討を重ね、支援能力の向上につなげていきます。また、個別事例の積み上げから見えてくる地域の共通課題を共有し、課題解決に向け、関係者間で調整、ネットワークの構築、新たな資源の開発、さらには施策をボトムアップで推進していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市及び地域包括支援センターにおいて会議を定期的に実施し、個別ケースについて検討を行い、自立支援・重度化防止に資する支援能力の向上等につなげた。 ・持続可能な地域ケア会議の運営を目指し、目的の見直しや実施内容等の明文化を行った。見直し及び明文化にあたっては、事例提出者・助言者との意見交換会等を開催し、共通認識等を醸成しながら、参加者全員で地域ケア会議を作り上げていけるよう協議した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域ケア会議(全体・圏域)の実施回数	目標値	44回	46回	48回	48回	44回
	実績値	43回	34回			
進捗状況及び自己評価	<p>会議の定期開催に加え、会議の開催目的や目的達成に向けた実施内容の明文化を図るにあたり、地域包括支援センターとの定期的な会議開催や事例提出・助言者双方を対象とする意見交換会を開催することで、参加者の意見を集約し、地域ケア会議運営マニュアルの策定に至った。</p> <p>また、意見交換会等を通じて、共通認識の醸成につなげ、参加者全員で地域ケア会議を作り上げていけるよう、情報発信を行った。</p>					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議における運営目的を達成できるかなど策定したマニュアルの精査 ・参加者へ向けた共通認識の醸成等に関する取り組みの継続
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の定期開催 ・地域包括支援センターとの定期的な会議の開催及びマニュアルの見直し ・必要に応じた意見交換等の開催

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じた会議等への参画

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	介護保険係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	②介護保険制度の周知				
	事業概要	介護サービスや介護保険等について、パンフレットやホームページ、市民説明会、あさか学習おとどけ講座等、様々な機会を通じて、よりわかりやすい情報提供を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	高齢者福祉と介護保険制度の市民説明会を6回開催し、39名に参加いただきました。また、あさか学習おとどけ講座を1回開催しました。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
介護保険制度説明会参加者数	目標値	200人	100人	100人	200人	100人
	実績値	219人	39人			
進捗状況及び自己評価	新型コロナウイルス感染症の影響により定員を限ったこともあり、高齢者福祉と介護保険制度の市民説明会の参加者数は目標に届きませんでしたが、今年度からプロジェクトを使用し、よりわかりやすい説明となるよう努めました。他の方法による介護保険制度の周知も継続しており、事業全体としてはある程度進捗しています。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	高齢者福祉と介護保険制度の市民説明会は令和4年8月に開催しましたが、計画期間の2年目であることと、新型コロナウイルス感染症の第7波の影響から、参加者数は昨年度より減少したと分析しています。効果的な開催方法については課題と捉え、よりよい手法を模索して参ります。
今後の取り組み方針	市民説明会については、今後も効果的な開催方法を検討して参ります。他の方法による介護保険制度の周知は、今後も継続して参ります。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市民説明会開催の際には、ぜひご参加ください。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	こども・健康部	課名	こども未来課	係名	こども未来係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	③子育て情報誌の作成				
	事業概要	子育てに関する情報を一元化した子育て情報誌「あさか子育てガイドブック」を作成し、子育て関連施設を通じて子どものいる家庭に配布するとともに、ホームページに掲載し、子育て等に関する情報を提供します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	子育てに関する情報誌「あさか子育てガイドブック」を作成し、児童館や保健センター、子育て支援センターなどの交流拠点を紹介する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
子育て情報誌の作成部数	目標値	7,500部	7,500部	7,500部	7,500部	7,500部
	実績値	7,500部	7,500部			
進捗状況及び自己評価	子育て情報誌の作成・配布の他、市ホームページに同内容を掲載し、子育て応援サイト(サブサイト)と共に、更なる情報発信を図ることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	適時適切な情報掲載を心がける。
今後の取り組み方針	市の子育て情報の他、NPOや市民団体等が行う情報等も掲載できるよう調査・研究する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市の子育て情報の他、NPOや市民団体等が行う情報等を集約していただける団体の発掘・育成。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	市長公室	課名	シティ・プロモーション課	係名	広報係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	④広報の充実				
	事業概要	行政情報施策及び行事等の情報を収集し、読みやすく編集した広報あさか(毎月1回)を作成・発行し、配布については市内全世帯へ配布します。また、市民ハンドブックなど市政情報紙を発行するとともに、ホームページやツイッター等のSNS、掲示板、電光掲示板などで随時最新の情報を発信していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	広報あさかを毎月発行し、市内全戸へ配布した。 市民ハンドブックの更新、掲示板の維持管理、朝霞駅前電光掲示板の運用、ホームページの管理運営、防災行政無線の運用、ツイッター・フェイスブック等のSNSを利用した情報発信、メール配信サービスの運用、テレビ埼玉データ放送の更新など、市の持つあらゆる情報伝達手段を活用し、市民への情報発信を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
広報あさか配布部数	目標値	67,800部	68,300部	68,800部	69,300部	69,800部
	実績値	67,500部	68,000部			
進捗状況及び自己評価	情報発信に関しては、様々な媒体で発信を行うなど、市民が市の情報を入手できるよう努めた。また、災害時は、yahoo!防災アプリやInstagramでも情報発信を行った。広報あさかの市内全戸への配布は実施しているものの、世帯数の伸びが想定を下回ったため、目標値に届かなかった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	行政情報を、より効果的に発信する方法がないか調査検討する。 広報紙から情報を得る市民に、有益な市政情報の伝達漏れなどが起こらないよう編集する。
今後の取り組み方針	必要とする情報を、誰もが入手することができるよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市民…災害時等の状況に応じて、市が発信しているホームページやSNSなど様々な媒体を活用し、正確な情報を収集するよう心掛ける。 市内活動団体等…掲示板や広報あさかを積極的に活用して市民へ周知啓発するとともに、わかりやすい表現を使うよう努める。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部 危機管理室	課名	障害福祉課 長寿はつらつ課 危機管理室	係名	障害福祉係 高齢者支援係 危機管理係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	⑤避難行動要支援者支援制度の推進				
事業概要	災害時における避難行動要支援者への支援を円滑に実施するため、関係課が連携し、避難行動要支援者台帳を作成します。また、自治会・町内会、民生委員児童委員、消防団、地域包括支援センター等の避難支援者となる各団体に配付を行い、災害時における支援のほか、日頃からの顔の見える関係づくりに活用します。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における避難行動要支援者の支援を円滑に実施するため、福祉部門と連携し、避難行動要支援者台帳を作成し、自治会・町内会、民生委員児童委員等の避難支援者となる方々に配付を行い、災害時における支援のほか、日頃からの顔の見える関係づくりに活用いただく。 ・避難行動要支援者台帳に掲載してある個別避難計画の見直しについて、関係各課で検討を重ねて作成した様式を使用し、職員による下内間木地区の訪問調査を実施した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
避難行動要支援者台帳の更新及び配付	目標値	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
	実績値	年1回	年1回			
進捗状況及び自己評価	予定通り令和4年6月中に更新及び配布を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・見直し後の個別避難計画作成の速度と精度。 ・台帳を活用した訓練等が実施できていない。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、避難行動要支援者台帳の更新及び配付を計画的に実施するとともに、台帳を活用した訓練の実施等、活用支援について検討を行う。 ・調査実態を踏まえ様式と調査方法を調整し、自治会・町内会等からの意見を元に、要綱改正を経て様式等を決定する。来年度以降は、新たに決定した様式と調査方法で、浸水想定地区から順次調査を進めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

個別避難計画を作成する際は、自治会・町内会、民生委員児童委員にも周知・協力をしていただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	地域福祉係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	①地域保健福祉活動振興事業費補助金の交付				
	事業概要	地域における保健福祉活動の振興を図るために、地域福祉の振興事業を実施している、または計画している各種地域団体に対しその事業費の一部を助成します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	地域の高齢者の交流や障害のある人の補助事業等、NPO法人や地域の高齢者の団体、障害のある人を含む団体に対し補助金を交付し、地域における保健福祉活動の振興を図った。 令和4年度は17団体に計1,699,800円交付したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、1団体が事業を中止し、計40,945円の戻入があった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
補助金交付件数	目標値	24件	24件	24件	24件	24件
	実績値	19件	17件			
進捗状況及び自己評価	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業を自粛する団体もあったが、令和4年度は17団体に補助金を交付することができた。また、コロナ禍においても、地域のつながりを絶やさないように、工夫して事業を実施している団体が見受けられた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	交付件数を増やすため、広報やホームページ、SNS等で広く周知を行う必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き、市民団体が行う福祉事業に係る費用に対し補助金を交付することで、地域福祉の推進を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域で行われている福祉団体の事業に積極的に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	高齢者支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	②老人クラブへの支援				
	事業概要	老人クラブ等への補助金交付により、運営に対する資金的サポートを実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	各老人クラブに対して、補助金の交付を行った。 老人クラブ連合会に対して、補助金の交付を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
老人クラブ団体数	目標値	25団体	25団体	25団体	25団体	25団体
	実績値	24団体	23団体			
進捗状況及び自己評価	老人クラブ等に補助金を交付しているが、老人クラブ連合会への加入団体の増加は見られない状況が続いている。 新型コロナウイルス感染症の感染者数に減少傾向が見られたため、感染防止対策を図りながら各種行事を実施することができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	老人クラブ内での高齢化と新たな加入者の伸び悩み等により、全体の加入者が減少傾向にあるため、社会福祉協議会等と課題解決に向けた検討を行う必要がある。
今後の取り組み方針	補助金の交付による経済的な支援のほか、新規加入を促進するための支援についても検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

介護予防を検討している方や新たな趣味を探している方がいらっしゃいましたら、老人クラブの活動や各種行事をご案内していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	介護保険係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	③介護人材の育成				
	事業概要	近隣市とも連携をしながら研修を開催する等、介護人材確保と人材育成の取組を進めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	令和5年1月30日から2月2日にかけて、「介護に関する入門的研修」を開催し、これまで介護との関わりがなかった介護未経験者が、介護に関する基本的な知識を身につけるとともに、介護の業務に携わる上で知っておくべき基本的な技術を学ぶことができるよう努めました。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
研修参加人数	目標値	30人	35人	40人	40人	40人
	実績値	22人	13人			
進捗状況及び自己評価	研修の最終日には、介護事業者を会場に招致し、研修受講者の就労支援を行っており、介護事業所の人材不足の解消を目指しています。令和4年度は、13人の研修参加者のうち、2人の就労が実現しており、ある程度進捗しています。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	より多くの人に参加していただくための周知方法、より効果的な就労支援の方法については課題ととらえ、今後もよりよい手法を模索して参ります。
今後の取り組み方針	よりよい手法を模索しつつ、今後も継続して研修を開催して参ります。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

介護施設への就業を希望される方や介護に興味のある方は、お気軽にご参加ください。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	地域包括ケア推進係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	④生活支援コーディネーターによる地域活動団体支援				
	事業概要	各地域包括支援センターに1名ずつ生活支援コーディネーターを配置し、課題や資源を地域ごとに把握すると共に、生活支援コーディネーターが定期的に集まり、地域活動団体への支援など、地域資源の新たな活用方法等を検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の活動団体の支援を目的に、フレイル予防講座を開催した。 ・生活支援コーディネーターを中心に、活動団体等の社会資源を把握し、可視化のために情報共有を行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
フレイル予防講座の開催回数	目標値	5回	6回	6回	6回	6回
	実績値	6回	1回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が地域活動を行えるよう、フレイル予防(転倒と生活習慣病の予防)を目的に、リハビリテーション専門職と協力した講座を開催した。 ・前年度から開催回数は減少したが、活動団体へは生活支援コーディネーター等が訪問するなどして、個別支援を行っている。 ・市内の社会資源を一覧化し、生活支援コーディネーターや社会福祉協議会と共有した。 					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・参集型の講座の実施に当たり、参加者が固定化していることから、周知方法等の検討が必要である。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリテーション専門職に協力いただき、定期的に活動団体支援を目的とした事業を実施する。 ・一覧にした社会資源の情報を、マップに落とし込むなど、誰にでも提供しやすい資料を作成する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動への主体的・積極的な参加

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	高齢者支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑤認知症総合支援				
	事業概要	認知症初期集中支援チーム員会議、認知症地域支援推進員会議の定期的な開催と、新任職員研修等への参加により技能向上を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中支援チーム員会議及び認知症地域支援推進員会議を定期的に開催することができ、処遇困難ケースなどについては、会議とは別にメンバー間の連携により対応することができた。 ・市や地域包括支援センター職員の異動等を勘案して、各種研修に参加することができた。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
認知症初期集中支援チーム員会議の開催(回)	目標値	12回	12回	12回	12回	12回
	実績値	12回	10回			
進捗状況及び自己評価	計画的に初期集中支援チーム員会議等の開催や各種研修に参加することができている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	初期集中支援チーム員会議に提出する事例が減少している。また、専門職による訪問を積極的に実施するなど、見直しが必要である。
今後の取り組み方針	認知症地域支援推進員連絡会等を通じて、新たな事業展開等について検討を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

認知機能の低下が疑われるが、支援者がいらいっやらないような高齢者を見かけた場合は、長寿はつらつ課や地域包括支援センターに連絡をしてください。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	こども・健康部	課名	こども未来課	係名	こども未来係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑥青少年の健全育成				
	事業概要	青少年健全育成団体(青少年育成市民会議、青少年相談員朝霞市協議会、子ども会連合会)に補助金を交付し、団体の活動を支援するとともに、関係機関・学校・地域と連携して、青少年健全育成啓発活動を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	青少年健全育成団体(青少年育成市民会議、青少年相談員朝霞市協議会、子ども会連合会)に補助金を交付し、団体の活動を支援するとともに、関係機関・学校・地域と連携して、青少年健全育成啓発活動を実施した。 ・青少年健全育成の集い、地域安全マップ作成事業、標語作成、防犯パトロール、あいさつ運動 など ※街頭キャンペーンについては新型コロナウイルス感染拡大により中止とした。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
青少年健全育成啓発活動事業数	目標値	37事業	36事業	36事業	35事業	35事業
	実績値	8事業	16事業			
進捗状況及び自己評価	新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、中止とした事業があった。 事業効果について集約できるものや代替えによる開催ができるものなど調査・研究を図りたい。 また、各団体の活動や事業についても、コロナ以前の水準で参加や協力が得られるように実施や開催を行っていただき、青少年健全育成の推進につなげたい。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	青少年健全育成団体への新規加入促進が課題であるため、児童館管理運営事業や市民による子育て支援活動を掌握し、青少年健全育成に結び付けていく努力が必要である。
今後の取り組み方針	既存団体の取組や考え方を尊重しつつ、課題に挙げた部分を改善できるよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子育て支援団体やスポーツ・文化団体等を通じ、青少年健全育成の機運を高めていきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	こども・健康部	課名	健康づくり課	係名	保健係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑦心の健康づくりの推進				
	事業概要	社会情勢の変化等により、精神的なストレス要因の増大に伴う精神的不健康の増大に対し、ライフサイクルに応じた心の健康づくりの推進を図ります。また、相談援助業務に携わる保健師等が精神保健に係る事例検討を通して、相談援助技術の向上を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	相談援助業務に携わる保健師等が相談援助技術の向上を図るため、精神保健に係る指令検討会を9回実施。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
事例検討会実施回数	目標値	150回	150回	150回	150回	150回
	実績値	82回	107回			
進捗状況 及び 自己評価	事例検討会を通して、関係機関がお互いの役割を理解し、考え方や支店の持ち方について学びを深めることができている。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	多機関・多職種が参加することにより、お互いの役割を理解し、支援に活用することができるため、継続した産科が望ましいが、現状では難しい。
今後の取り組み方針	相談が複雑化する中、相談援助業務に携わる関係機関が協力し、今後においても相談スキルの向上を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

関係機関との連携。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	市民環境部	課名	地域づくり支援課	係名	地域づくり支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑧コミュニティ活動の活性化				
	事業概要	市民が相互に連携し主体的にまちづくりに参加するように意識高揚を図り、自治会・町内会及びコミュニティ関係団体への助成を行います。また、自治会連合会やコミュニティ協議会の活動内容等を市ホームページに掲載するとともに、団体が発行する広報紙の発行、配布の支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会等運営費補助金の交付：71自治会・町内会及び自治会連合会に12,477千円を交付 ・自治会等集会所建設事業補助金の交付：3自治会・町内会に1,247千円を交付(修繕) ・コミュニティ協議会運営費補助金の交付：コミュニティ協議会に405千円を交付 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
自治会・町内会加入世帯数・加入率	目標値	41.4%	41.4%	41.4%	41.4%	41.4%
	実績値	39.5%	38.5%			
進捗状況及び自己評価	自治会・町内会加入率について、低下が続いており、目標までやや遅れている。					
	C	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域コミュニティの希薄化や市民の価値観の多様化、自治会・町内会が抱える課題など、様々な要因により自治会加入率の低下が進んでおり、加入率向上が喫緊の課題である。また、役員の高齢化や担い手不足が進んでおり、負担軽減についても取り組む必要がある。
今後の取り組み方針	加入率の低下や役員の負担軽減などの課題解決に向けて、自治会連合会と連携して取り組む必要がある。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

行政の支援を受けながら、主体的に地域自治活動に取り組んでいく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	市民環境部	課名	地域づくり支援課	係名	地域づくり支援係
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑨コミュニティ活動への参加促進				
事業概要	朝霞市コミュニティ協議会(朝霞市民まつり実行委員会)が主催する朝霞市民まつり「彩夏祭」の開催に対し、補助金の交付や事務局として積極的に支援していきます。また、彩夏祭を通して、朝霞市の文化に親しみ、ふるさと意識の醸成を図るために、市内小中学校に市民まつりの鳴子踊りの参加に係る費用を補助します。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ協議会に補助金を交付:市民まつり補助金22,000千円を交付 ・よさこい鳴子踊りに参加する小・中学校に補助金を交付:市内小学校3校に300千円を交付 ・コミュニティ協議会及び市民まつり実行委員会の事務局運営 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民まつり補助金交付金額	目標値	22,900,000円	22,900,000円	22,900,000円	22,900,000円	22,900,000円
	実績値	4,810,000円	22,000,000円			
進捗状況及び自己評価	<p>コロナ禍でのイベント開催となったが、補助金の交付を通じ、市民や関係機関が協力・連携して取り組み、地域文化の継承につなげることができた。</p> <p>B A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない</p>					

2 課題・今後の取り組み方針

課題	人口の流出入が多く、ふるさと意識が希薄になりがちで、かつ独自の文化が育ちにくい状況にある。今後においては、ふるさと意識を形成し、市民が地元に着と誇りを持てるよう、「彩夏祭」などの地域独自の文化を、いかに市民の間に根付かせていくかが課題である。
今後の取り組み方針	「彩夏祭」などの地域独自の文化が市民の間に根付くよう積極的に情報発信を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<p>彩夏祭は、市民が主役のイベントであることから、実行委員やコミュニティ協議会加盟団体などの関係者だけでなく、市民がボランティアとして活動に参加することで、地域を支える人材の育成や交流を図っていく。</p>

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	市民環境部	課名	地域づくり支援課	係名	市民活動支援係 (市民活動支援ステーション)
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑩市民活動の活性化				
事業概要	NPO法人の新設や市民活動団体が実施する事業に補助金を交付します(市民活動団体支援補助事業)。また、地域活動の担い手となる人材の発掘、活動に参加することに繋がる機会、ボランティア団体と市民活動団体の交流や連携等を目的とした事業を実施します。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	市民活動団体支援補助金の交付(事業補助をNPO法人など全12団体に、設立補助をNPO法人1団体に交付)やNPO税務会計相談会SNS活用相談会など市民活動相談会を開催するなど団体運営に関する支援を行った。 市民活動の新たな担い手を育成することを目的とした「地域デビュー支援セミナー」を開催した。 市内の市民活動団体の活動の幅を広げるため、和光市との間で「市民活動交流会」を開催した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
NPO法人数	目標値	52法人	54法人	56法人	58法人	60法人
	実績値	47法人	48法人			
進捗状況及び自己評価	指標のNPO法人数については、目標に至らなかったが、団体の事業および設立に係る補助金の交付や個別相談会の開催により団体運営の支援に努めた。また、地域活動への参加促進に繋がるセミナーの開催や和光市の団体との交流会の実施などにより、活動の活発化、人材の育成、活動範囲の拡大等に関する支援を行うことができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	活動の担い手の高齢化や会員の不足のほか、新型コロナウイルス感染症の影響による活動の停滞など
今後の取り組み方針	関係機関や他市の市民活動担当と連携を図りながら、活動への参加の機会の提供や情報発信の強化、団体同士の連携等が図れる事業を実施していく。また、団体が抱える課題の解決に向けて、引き続き、支援する側の職員の資質向上に努めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

補助金の支給、各種相談会や交流会など市民活動への参加、担い手の育成や団体活動の拡大に関する事業等を、今後も実施・運営していくので、関心のある方や団体の積極的な参加が望まれる。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	総務部	課名	財産管理課	係名	営繕係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(12)施設等の整備・充実				
	事業名	①公共施設の修繕・改修				
	事業概要	地域福祉の活動拠点として、市民が安心・安全に公共施設を利用できるように、必要に応じて施設改修を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	小中学校の体育館や柔剣道場に新しく空調設備を設置、公民館の劣化状況が著しい空調設備を更新、また、雨漏れの著しい施設の屋上や外壁の防水改修工事などを実施した。その他に市庁舎内の手すり設置、点字ブロック設置、自動ドア安全柵設置、バリアフリートイレのカーテン設置も実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
改修工事実施施設数	目標値	10件	10件	10件	10件	10件
	実績値	12件	7件			
進捗状況及び自己評価	朝霞第三・第四中学校の体育館等に空調を設置、内間木公民館は空調を更新。また、防水改修については市役所庁舎棟屋上と外壁、中央公園野球場屋外階段について実施した。その他には産業文化センター舞台照明が故障していたものを更新し、市民の活動拠点の環境をより安心安全なものへと向上させた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	マネジメント実施計画に基づき計画的に施設の改修を行っていくが、計画順位の低い各施設の修繕は緊急性が高いものからの実施となり後手に回りがちである。
今後の取り組み方針	令和5年度には朝霞第二中学校体育館と柔剣道場に空調設置、東朝霞公民館は空調を更新する予定となっている。また、防水改修については博物館の屋上と外壁の改修のための設計を予定している。その他にはマネジメント実施計画に基づき武道館の耐震改修及び長寿命化改修や中央公民館や市庁舎、仲町市民センターの改修設計を進めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

施設利用にあたり不便な点を改善要望として挙げてもらいたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	総務部	課名	財産管理課	係名	営繕係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(12)施設等の整備・充実				
	事業名	②公共施設のバリアフリー化				
	事業概要	公共施設の利用者が、長期間継続して、安心、安全、快適に使用できるように、ユニバーサルデザインを取り入れた設計を行い、バリアフリー化を推進していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<p>庁舎に点字ブロックや手すりの設置をしました。 朝霞第六小学校校舎増築工事の設計業務において、エレベーター及び点字ブロック、車いす用トイレを設置するなど埼玉県福祉のまちづくり条例の整備基準に適合した計画といたしました。 朝霞第九小学校校舎増築工事および武道館耐震等改修工事の設計業務委託でも埼玉県福祉のまちづくり条例の整備基準への適合を目指し計画を進めています。</p>					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
公共施設におけるバリアフリー化項目の延べ整備数(項目:点字ブロック、スロープ、エレベーター、バリアフリートイレ、音声ガイド用スピーカー、車いす用駐車場、ローカウンター)	目標値	193項目	194項目	195項目	196項目	197項目
	実績値	202項目	204項目			
進捗状況及び自己評価	朝霞第六小学校校舎増築工事設計業務において、埼玉県福祉のまちづくり条例の整備基準に適合している旨の通知を受け取った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	既存の敷地が狭小であることや段差が大きいため、必要なエレベーターやスロープなどのバリアフリー化を図るための設備設置スペースの確保に困難がある場合がある。
今後の取り組み方針	バリアフリー化のため計画の提案、設計を積極的に行う

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

施設利用にあたり不便な点を改善要望として挙げてもらいたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部 危機管理室	課名	障害福祉課 長寿はつらつ課 危機管理室	係名	障害福祉係 高齢者支援係 危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	①避難行動要支援者支援制度の推進(再掲)				
事業概要	災害時における避難行動要支援者への支援を円滑に実施するため、関係課が連携し、避難行動要支援者台帳を作成します。また、自治会・町内会、民生委員児童委員、消防団、地域包括支援センター等の避難支援者となる各団体に配付を行い、災害時における支援のほか、日頃からの顔の見える関係づくりに活用します。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時における避難行動要支援者の支援を円滑に実施するため、福祉部門と連携し、避難行動要支援者台帳を作成し、自治会・町内会、民生委員児童委員等の避難支援者となる方々に配付を行い、災害時における支援のほか、日頃からの顔の見える関係づくりに活用いただく。 ・避難行動要支援者台帳に掲載してある個別避難計画の見直しについて、関係各課で検討を重ねて作成した様式を使用し、職員による下内間木地区の訪問調査を実施した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
避難行動要支援者台帳の更新及び配付	目標値	年1回	年1回	年1回	年1回	年1回
	実績値	年1回	年1回			
進捗状況及び自己評価	予定通り令和4年6月中に更新及び配布を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・見直し後の個別避難計画作成の速度と精度。 ・台帳を活用した訓練等が実施できていない。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、避難行動要支援者台帳の更新及び配付を計画的に実施するとともに、台帳を活用した訓練の実施等、活用支援について検討を行う。 ・調査実態を踏まえ様式と調査方法を調整し、自治会・町内会等からの意見を元に、要綱改正を経て様式等を決定する。来年度以降は、新たに決定した様式と調査方法で、浸水想定地区から順次調査を進めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

個別避難計画を作成する際は、自治会・町内会、民生委員児童委員にも周知・協力をしていただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	危機管理室	課名	危機管理室	係名	危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	②防災意識の高揚				
	事業概要	防災意識の高揚を図るため、防災に関する情報を市から発信するとともに、自衛隊、消防署及び消防団等の防災関係機関と協力し、子どもから大人まで誰でも参加できる防災イベントを実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	自助・共助の役割や災害への備えに役立つ防災知識の習得及び防災意識の高揚を図るため、自衛隊、消防署及び消防団等の防災関係機関と協力し、防災フェアを実施する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
メール配信サービスへの登録者数	目標値	6,000人	7,000人	8,000人	9,000人	10,000人
	実績値	6,841人	6,504人			
進捗状況及び自己評価	令和4年11月5日(土)にくみまちモールあさかにて、防災フェアを開催した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	現在の場所でのイベント規模は最大限に近いため、内容を更に充実させる
今後の取り組み方針	自衛隊、消防署及び消防団等の関係機関と協力し、子どもから大人まで楽しく学ぶことができる体験型の防災プログラムを実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

防災フェアに、様々な方々が参加してもらいたい

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部 局 名	危機管理室	課 名	危機管理室	係 名	危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	③自主防災組織の結成促進				
	事業概要	自主防災組織未結成の自治会に対し、地域防災アドバイザーと協力し、自主防災組織の必要性、活動内容を説明し、結成を促進します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	自主防災組織未結成の自治会に対し、地域防災アドバイザーと協力し、自主防災組織の必要性、活動内容を説明し、結成を促進する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
自主防災組織数	目標値	48組織	49組織	50組織	51組織	52組織
	実績値	47組織	48組織			
進捗状況 及び 自己評価	新型コロナウイルスのまん延により、自治会・町内会と接触する機会を創出することが出来なかったが、新たに自主防災組織を結成した自治会があった。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	更なる結成促進
今後の取り組み方針	地域防災アドバイザーと協力し、引き続き結成促進を図るとともに、既存の自主防災組織が行う訓練や資機材整備に対する補助金を交付し、自主的な防災活動を支援していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自主防災組織数を新たに結成してもらいたい

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	危機管理室	課名	危機管理室	係名	危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	①防犯情報の発信				
	事業概要	防犯ニュースの配信、防災行政無線の放送等、様々な方法で適時適切な情報発信を通して防犯意識の高揚に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	警察及び関係機関との連携のもと、複雑巧妙化する犯罪などの防犯ニュースの配信のほか、防災行政無線での振り込み詐欺被害防止の放送等、様々な方法で情報発信を行い、防犯意識の高揚を図る。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防犯ニュースの発信	目標値	週1回	週1回	週1回	週1回	週1回
	実績値	週1回	週1回			
進捗状況及び自己評価	防犯情報を迅速に配信できるよう、日頃から警察等の関係機関との連携を推進していく必要がある。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	防犯情報を迅速に配信できるよう、日頃から警察等の関係機関との連携を推進していく必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き警察等の関係機関と連携し、適時適切な情報発信を通して防犯意識の高揚に努めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市や警察が発信する犯罪情報を見て、防犯意識を高めてほしい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	危機管理室	課名	危機管理室	係名	危機管理係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	②防犯活動の推進				
	事業概要	防犯パトロールカーの運行を実施するとともに、わがまち防犯隊やスクールガードによる地域の自主的な防犯活動を支援し、市及び地域コミュニティによる見守り活動を推進していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	防犯パトロールカーの運行を実施するとともに、わがまち防犯隊やスクールガードによる地域の自主的な防犯活動を支援し、市及び地域コミュニティによる見守り活動を推進する。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
警備員による青色防犯パトロールカーの運行	目標値	週5回	週5回	週5回	週5回	週5回
	実績値	週5回	週5回			
進捗状況及び自己評価	週5回防犯パトロールカー運行を実施することができた					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	犯罪発生の抑止力として地域の防犯意識を高めるため、継続的にパトロール活動を行っていく必要がある。
今後の取り組み方針	犯罪を起こさせにくい環境づくりを推進するため、引き続き防犯パトロールカーの運行を行うとともに、わがまち防犯隊やスクールガードによる地域の見守り活動の支援に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<p>普段生活している中で、不審者や迷い人等を見かけたら警察へ連絡してもらいたい。</p>

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	市民環境部	課名	地域づくり支援課	係名	市民生活・相談係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	③消費生活相談(再掲)				
事業概要	消費者被害の未然防止・被害回復のために、消費生活相談員による相談を行います。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	開庁日の10時～正午、午後1時～4時に面談及び電話で消費生活相談を実施。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
消費生活相談件数	目標値	900件	940件	980件	1020件	1070件
	実績値	829件	838件			
進捗状況及び自己評価	相談件数は目標値に至らなかったものの、例年同様の件数が見込まれた。相談件数が目標値に至らなかったのは、トラブルの件数が少なかったと見える反面、消費生活相談の認知度が低いという観点も認識する必要があると捉えている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	消費者トラブルは年々多種・多様化している。また、高齢者の消費者被害も依然として高い状況が続いていることから、消費者トラブルに対応するため、消費生活相談員のスキルアップを図り、消費生活相談の充実を図る必要がある。
今後の取り組み方針	消費者トラブルにあった時の相談窓口として、引き続き啓発活動を行い、消費生活センターの認知度を高めていくよう努める。 また、消費生活相談員には、各種研修に参加できるように環境等の整備を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者や自己判断が難しい市民に対し、隣近所の方が見守りを行い、消費者トラブルの発生や見込まれる場合に、消費生活センターにつなげてもらいたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	障害福祉課	係名	障害給付係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	①重度心身障害者福祉タクシー利用料等の補助				
	事業概要	重度の心身障害のある人の社会生活圏の拡大と経済的負担の軽減のため、福祉タクシー利用券、バス・鉄道共通ICカード、自動車燃料費の中から選択制により補助を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	身体障害者手帳1、2級、下肢機能障害3級所持者、療育手帳○A、A、B所持者、精神障害者保健福祉手帳1、2級所持者に対し、交通費を助成する。(バス・鉄道共通ICカードチャージ費用の補助、自動車燃料費の補助、福祉タクシー券の交付のいずれかの選択)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉タクシー利用料券、バス・鉄道共通ICカード及び自動車燃料費(いずれか1つを選択)の重度心身障害者利用者数	目標値	2,500人	2,500人	2,500人	2,500人	2,500人
	実績値	2,358人	1,873人			
進捗状況及び自己評価	令和4年度は、福祉タクシー券交付者数425名、自動車燃料費622名、バス・鉄道共通ICカード826名(いずれもR5.3.31時点の未確定値)に対し補助した。年度当初に、補助対象者に申請書と返信用封筒と送付し、利便性向上に努めた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	近隣市と比較しても高い水準で補助を行っており、引き続き申請方法など利便性向上に努める。
今後の取り組み方針	利用者の需要を把握するとともに、申請方法を検討しより利便性向上に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市民の利便性向上のための郵送による申請等を積極的に活用してほしい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	高齢者支援係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	②高齢者バス・鉄道共通カードの給付				
	事業概要	高齢者の外出支援を目的として、バス・鉄道共通カードの交付及び給付を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	バス・鉄道共通カードの普及を鑑み、カードの現物支給を廃止し、チャージ料の給付のみとした。引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、郵送申請用の返信用封筒を同封し、窓口の混雑を避ける工夫を行い、チャージ料の給付を行うことができた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
高齢者バス・鉄道共通カード申請者数	目標値	16,000人	16,500人	17,000人	17,500人	18,000人
	実績値	15,076人	15,100人			
進捗状況及び自己評価	多くの方にチャージ料を給付することができている。また、令和2年度から郵送申請用の返信用封筒を同封し、申請を促すことができている。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	関係部署との情報共有を図り、新たな外出支援を含めた自立支援施策を検討する必要がある。
今後の取り組み方針	関係部署との連携・情報共有や、他自治体施策の調査研究などを通じ、新たな外出支援も含め、高齢者の自立支援施策のあり方を引き続き検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

事業の周知のため、未申請者への申請の働きかけについてご助力いただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	都市建設部	課名	まちづくり推進課	係名	交通政策係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	③市内循環バス等の利用性向上				
事業概要	持続可能な地域公共交通の実現を目指し、市内循環バスの運行計画等の見直しに向け検討を行います。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> バス事業者3社との協定に基づき、運行に係る経費のうち運賃を除いた経費をバス事業者に助成することにより、市内循環バスを運行した。 公共交通空白地区の改善に向け、先行検討3地区の地域住民と協働して取り組んだ。 防災フェアにわくわく号乗車体験コーナーを出展し、バスの魅力PRやバスの乗り方等について周知啓発を実施した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
年間利用者数	目標値	288,000人	328,000人	334,000人	340,000人	346,000人
	実績値	334,493人	376,000人			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> バス事業者3社との協定に基づき、市内循環バスを適正に運行した。 公共交通空白地区の改善では、先行検討地区3地区全てで地域組織が立ち上がり、仮運行計画についても概ね完成した。 バスの年間利用者数については、前年度と比較して約12.4%増加した。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	持続可能な地域公共交通の実現に向け、引き続き公共交通空白地区の改善や市内循環バスの運行計画等の見直しに向け施策を推進する必要がある。
今後の取り組み方針	市内循環バスについて、令和6年4月に予定されている改善基準告示の改正に対応するため、運行ダイヤの改正を行うとともに、利用実態に応じた運行計画の見直しについて着手する。 また、路線バス初乗り運賃との均衡や損失補償料及び運行経費の増大に対応するため、運賃改定を実施するとともに、利便性向上のため、バスの運行状況がスマートフォン等でリアルタイムで確認できるバスロケーションシステムを導入する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

持続可能な地域公共交通の実現に向け、目的地や日によって公共交通を使い分けるなど、積極的に公共交通をご利用いただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	都市健康部	課名	まちづくり推進課	係名	交通政策係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	④自転車駐車場の整備				
事業概要	自転車駐車場のキャンセル待ち対応、3人乗り自転車や大型化する車両への対策、施設の老朽化対策について検討していきます。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 指定管理者と基本協定書及び年度協定書に基づき管理を実施した。 駅前自転車駐車場における大型自転車のキャンセル待ちを解消するため、令和3年度から運用を開始している大型自転車臨時駐車場についても適正に管理した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
自転車駐車場等整備、維持管理箇所数	目標値	10か所	10か所	10か所	10か所	10か所
	実績値	10か所	10か所			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 大型自転車臨時駐車場については、4施設で計152名の方にご利用いただいたことで、キャンセル待ちの減少につながった。 各自転車駐車場について、指定管理者により適正に維持管理を実施した。 					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	自転車駐車場のキャンセル待ちについては、大型自転車臨時駐車場の整備により減少傾向にあるが、依然として朝霞台駅南口地下自転車駐車場、北朝霞駅東口地下自転車駐車場を中心に250台以上残っていることから、さらなる対応が必要となる。
今後の取り組み方針	キャンセル待ちのさらなる減少に向け、朝霞台駅南口地下自転車駐車場については、近くの朝霞台駅南口第1自転車駐車場の1階の一部を大型自転車専用の定期利用スペースとする運用の見直しを令和5年4月から実施する。 また、北朝霞駅東口地下自転車駐車場についても、大型自転車専用の定期利用スペースを創出するための改修工事を令和5年度に実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

キャンセル待ちの解消のため、市が整備した大型臨時駐車場や朝霞台駅南口第1自転車駐車場の利用にご協力いただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	福祉相談係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(16)住まいの確保等への支援				
	事業名	①住居確保給付金の支給				
	事業概要	離職等により経済的に困窮し、住居を喪失した人又は喪失のおそれのある人からの申請に対し、審査の上、家賃相当分の住居確保給付金を一定期間支給します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	住居確保給付金の申請を受け、適正な支給を行った。 制度改正があった際には、ホームページへの掲載のほか、対象者に通知を送り周知した。 (R4年度実績) 住居確保給付金 決定件数12件、支給件数49件、総支給額2,296,260円					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住居確保給付金の支給件数	目標値	10件	10件	10件	10件	10件
	実績値	156件	12件			
進捗状況及び自己評価	令和3年度と比較し令和4年度は、コロナ禍の影響を受けて職を失った方の支給件数は減少しており、また、支給月数も減少傾向であった。 すべての支給決定者へプランを作成し、自立に向けた就労支援を併せて実施した。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	受給中に常用就職や増収ができず、受給者の生活が安定しない方もいた。
今後の取り組み方針	すべての支給決定者へプランを作成し、求職活動等の状況を確認しながら、生活保護受給者等就労自立促進事業を活用するなど、早期に生活の安定が図れるよう支援する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している人を身近で見かけたときに、相談先を案内してもらう。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	長寿はつらつ課	係名	高齢者支援係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(16)住まいの確保等への支援				
	事業名	②高齢者への住宅支援				
事業概要	民間賃貸住宅の借上げにより、住宅の確保が困難な高齢者に対して住宅を提供していきます。また、住宅確保要配慮者への情報提供や住宅改善費の助成を実施していきます。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者住宅は、空き部屋が発生次第、速やかに募集記事を広報や市ホームページに掲載し、申請者に対して提供することができた。 ・住宅確保要配慮者に対して、市営住宅やセーフティネット住宅等の情報を提供することができた。 ・住宅改善費は、安全な日常生活を営む上で居室等の改修が必要な方に対して、改修費用の一部を助成することができた。 ・まちづくり推進課が実施する居住支援相談を通じて、連携を図る体制を構築することができた。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
高齢者住宅の利用者数	目標値	22人	22人	22人	22人	22人
	実績値	22人	22人			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者住宅の提供、市営住宅等の情報提供、住宅改善費の助成及び関係機関と連携を図るなど、高齢者への住宅支援を実施することができている。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各種事業の普及・啓発を図り、ニーズに合わせた必要な支援を行う必要がある。 ・関係部署や不動産事業者等と情報の共有や連携を図りながら協力するなど、住宅確保要配慮者に対して、支援を継続する必要がある。
今後の取り組み方針	要支援や要介護の認定を受けた方等が住み慣れた自宅で安心した生活を継続するために必要な事業であり、今後も需要が見込まれるため、事業の普及・啓発を図り、令和5年度以降も継続していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

事業の周知啓発を継続していきますので、近隣に住宅の確保が困難な高齢者や住宅改善を検討されている高齢者がいた場合、市の事業(取り組み)についてご案内していただきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	都市建設部	課名	開発建築課	係名	住宅政策係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(16)住まいの確保等への支援				
	事業名	③住宅政策				
事業概要	住宅を自力で確保することが難しい低額所得者、高齢者、障害のある人などが、安心して暮らせる住宅を確保できる環境の実現に努めます。					

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	住宅確保要配慮者への居住の確保、居住の安定を図るため、公益社団法人埼玉県社会福祉士会との覚書により居住支援相談窓口を開設し、福祉部局と連携しながら相談業務を行っている。また、相談内容に応じて必要な場合は継続した居住支援を行っている。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住宅に関する相談件数	目標値	10件	15件	20件	25件	30件
	実績値	12件	12件			
進捗状況及び自己評価	住宅確保要配慮者への居住支援を推進するため、福祉部局や関係機関との連携体制が徐々に整備され、居住支援相談窓口を開設することができ、より多くの相談機会を提供できた。住宅の確保にあたっては、不動産事業者との連携が必要であることから、令和4年5月と11月に不動産事業者と居住支援に関する意見交換を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	将来的に居住支援協議会を設置(国の住生活基本計画の目標:令和12年までに県内人口カバー率50%以上の協議会設置)することを目標に据え、安定した事業運営を図る。
今後の取り組み方針	居住支援相談業務と不動産事業者との意見交換を継続し、居住支援体制の基盤強化を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に支援が必要な方がいる場合に相談窓口を案内する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	地域福祉係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	①更生保護関係団体への支援				
	事業概要	保護司は保護観察対象者に対し、立ち直りに必要な指導や就学、就職支援にあたるほか、矯正施設等から社会復帰した人が、円滑な社会生活を営めるよう帰住先の環境の調整や更生保護相談を行っています。犯罪や非行をした人たちの再犯防止と社会復帰に取り組むよう保護司会の活動を支援します。また、犯罪や非行の未然防止のための啓発活動を行うほか、青少年健全育成など改善更生に協力する更生保護女性会の活動についても協力します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	埼玉県更生保護観察協会朝霞支部の活動に対し負担金、保護司会の活動に対し補助金を交付した。また、保護司会が自ら行う自主研修会を3回実施し、事務局としては会場の設営や資料作成など、研修会が円滑に進められるよう協力をした。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市内における刑法犯認知件数	目標値	905件	887件	868件	850件	831件
	実績値	600件	653件			
進捗状況及び自己評価	更生保護関係団体の活動を支援することで、犯罪や非行をした人たちの改善更生を助けるとともに、犯罪を予防し、地域社会の安全及び住民福祉の向上に寄与することができている。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	更生支援を行う保護司の定数に欠員が生じている。また、犯罪や非行をした人たちが円滑に社会復帰を目指せるように、保護司会と福祉関係機関との連携を強化する必要がある。
今後の取り組み方針	保護司の担い手確保に向け、保護司会と連携を図る。保護観察対象者の社会復帰に必要な就労・住居・保健医療・福祉等の支援策について、保護司会へ情報提供を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

保護司会の活動や社会を明るくする運動などを通じて、再犯防止を含む犯罪抑制への理解を深めて欲しい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	地域福祉係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	②更生保護サポートセンターの支援				
	事業概要	地域における更生保護の活動拠点として、朝霞地区更生保護サポートセンターを総合福祉センター(はあとびあ)内で運営することに引き続き協力します。更生保護サポートセンターの設置により、保護司と保護観察対象者との面接場所が確保されるほか、保護観察所や保護司との情報交換などが円滑になり、更生保護活動の充実が図られます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	朝霞地区更生保護サポートセンターを総合福祉センター内に設置することで、更生保護活動を支援できた。朝霞地区更生保護サポートセンターは、毎週火曜日から金曜日の午前10時から午後4時まで開所しており、経験豊富な企画調整保護司が常駐して、保護司の処遇活動に対する支援や更生保護関係団体との連携の推進を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
更生保護サポートセンター利用件数	目標値	84件	84件	84件	84件	84件
	実績値	35件	48件			
進捗状況及び自己評価	朝霞地区更生保護サポートセンターの活動場所として、総合福祉センターを無償で貸与することができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響等により総合福祉センターが休所した際に、代替となる面接場所を確保する必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き、地域における更生保護の活動拠点である更生保護サポートセンターの運営に協力する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

保護司会の活動や社会を明るくする運動などを通じて、再犯防止を含む犯罪抑制への理解を深めて欲しい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	地域福祉係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	③社会を明るくする運動				
	事業概要	保護司会及び更生保護女性会と協力して、強調月間である7月に、犯罪や非行の防止と犯罪や非行をした人たちの更生について理解を深めるよう、懸垂幕の掲出や、駅頭での啓発活動など「社会を明るくする運動」を推進します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	7月の強調月間において、市役所での懸垂幕の掲出と、朝霞駅前電光掲示板の放送を行い、周知を図った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
啓発活動	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	1回			
進捗状況及び自己評価	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、駅前街頭活動は実施できなかったが、非接触型の広報活動として、懸垂幕の掲示、朝霞駅前の電光掲示板において周知を行った。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	新型コロナウイルス感染症の影響により、駅前街頭活動を中止としたが、代替となる啓発活動を模索する必要がある。
今後の取り組み方針	引き続き、朝霞地区保護司会や朝霞地区更生保護女性会と協力し、“社会を明るくする運動”を推進していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

保護司会の活動や社会を明るくする運動などを通じて、再犯防止を含む犯罪抑制への理解を深めて欲しい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	地域福祉係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	④再犯防止に関する広報の推進				
	事業概要	7月の再犯防止啓発月間において、再犯防止に関する広報を行い、市民への理解と周知に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	7月の再犯防止啓発月間において、広報紙による周知を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
広報紙、ホームページでの情報発信	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	1回			
進捗状況及び自己評価	新型コロナウイルス感染症の感染拡大を考慮し、非接触による周知を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域住民にとって馴染みが薄かった再犯防止、あるいは犯罪をした者等の社会復帰支援の重要性について理解を促進する必要がある。
今後の取り組み方針	地域の関係団体と協力し、地域住民を巻き込んだ広報・啓発活動の実施を検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

保護司会の活動や社会を明るくする運動などを通じて、再犯防止を含む犯罪抑制への理解を深めて欲しい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	福祉部	課名	福祉相談課	係名	福祉相談係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	⑤生活困窮者自立支援				
	事業概要	犯罪や非行をした人に対して、生活困窮者自立支援法に基づき、相談や就労支援、学習支援、住居確保給付金の支給など、各種支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	生活困窮者自立支援法に基づき、生活困窮者に対して市町村の必須事業とされている自立相談支援事業及び住居確保給付金の支給、任意事業の学習支援事業を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮に関する相談件数	目標値	600件	600件	600件	600件	600件
	実績値	1,772件	1,870件			
進捗状況及び自己評価	長引くコロナ禍の影響や原油価格・物価高騰等により、生活困窮に関する相談が多く、目標値を上回る相談件数となった。また、令和4年度は犯罪や非行をした方の相談は把握できていない。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	長引くコロナ禍の影響を受け、生活が困窮されている方の相談件数が増加傾向になっているが、その相談の中では多重債務を抱え、返済が困難になっている方や、収入の多寡に関わらず、家計に問題があり、借金に頼らざるを得ない方、又は支払いが滞っている方がみられており、現在の支援の中で解決に結びつくことが困難な状況がある。
今後の取り組み方針	困窮された方が生活を立て直せるよう、自立相談支援機関だけでなく、ハローワークといった関係機関等と連携し、必要な支援につなげていく。また、家計に問題を抱える生活困窮者からの相談では、「家計の見える化」により、家計収支の改善や家計管理能力向上等により自立した生活が定着するよう、家計改善支援事業の導入を検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

生活に困窮している人を身近で見かけたときに、相談先を案内してもらう。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	こども・健康部	課名	こども未来課	係名	こども未来係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	⑥青少年健全育成啓発キャンペーン				
	事業概要	青少年育成市民会議が主体となって、青少年をはじめ市民を対象に、啓発物の配布など非行防止・薬物乱用防止に関する啓発に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	夏季及び冬季に駅前等での啓発キャンペーンを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により事業が中止となった。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
啓発キャンペーン実施回数	目標値	2回	2回	2回	2回	2回
	実績値	0回	0回			
進捗状況及び自己評価	夏季及び冬季に駅前等での啓発キャンペーンを計画していたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により事業が中止となった。 今後は代替えによる実施方策も検討していきたい。(例:HPやSNS等での啓発)					
	C	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	若い父親、母親世代の方々を青少年健全育成活動に取り込んでいくための方策を検討する。
今後の取り組み方針	街頭キャンペーンのほか、HPやSNS等での啓発も検討したい。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

事業の実施にあたっては、市内中学生及び高校生にも協力をいただいております。今後については若い父親、母親世代の方々やスポーツ少年団、自治会町内会等の地域の人々にも協力をさせていただくことで、市民総ぐるみでの青少年健全育成の啓発を進めていきたい。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名	学校教育部	課名	教育指導課	係名	—
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(17)再犯防止の推進				
	事業名	⑦非行防止教室の実施				
	事業概要	学校が保護者、地域、警察等の関係機関と連携を図り、児童生徒の非行防止や薬物乱用防止等の教育を推進するため、教室等を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	保護者・地域・警察等の関係機関と連携を図り地域巡回を実施した。 各校において、児童生徒や保護者を対象に非行防止教室や薬物乱用防止教室を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
非行防止教室や薬物乱用防止教室等の実施校	目標値	15校	15校	15校	15校	15校
	実績値	15校	15校			
進捗状況及び自己評価	上記の取組について、各校で順調に進捗している。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	コロナ禍の影響で、非行防止教室や薬物乱用防止教室は各教室にてオンラインでの実施となるケースが多かった。
今後の取り組み方針	コロナ禍の終息に伴い、非行防止教室や薬物乱用教室の対面実施を推進し、非行防止の効果をさらに高めていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

学校公開等を通じて、各校の児童生徒の様子を地域の方々に知っていただき、「子供たちを地域で見守り、育てる」基盤を教化していく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

令和4年度

第4期朝霞市地域福祉活動計画
進行管理・評価シート(案)

委員会会議資料

社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会

令和4年度事業の重点的評価施策

				事業数	
基本理念	基本目標	施策の方向性	重点施策	市	社協
支え合いの心を育み、誰もが地域でつながるまち	市民の暮らしを支える仕組みづくり	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり	○	5	3
		(2)相談支援体制の充実	○	9	4
		(3)保健医療・社会福祉サービスの充実		8	3
		(4)権利擁護の推進		4	3
		(5)生活困窮者等への支援の充実		4	2
		(6)地域住民の交流の促進		6	3
	思いやりと支え合いの心づくり	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進	○	6	6
		(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成		3	2
		(9)地域での見守りの充実		4	1
		(10)情報共有・発信の充実	○	5	2
		(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成		10	5
	安心で地域暮らしやすい	(12)施設等の整備・充実		2	2
		(13)防災対策の充実	○	3	4
		(14)防犯対策の充実		3	2
		(15)外出・移動の支援		4	2
		(16)住まいの確保等への支援		3	1
		(17)再犯防止の推進(再犯防止推進計画)		7	—
合計				86	45

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	<small>総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびあ福祉作業所</small>	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	①関係機関との連携				
	事業の概要	高齢者・障害者・子育て支援等、様々な関係者との会議や情報交換等を通じて連携を深めてきました。今後、さらに「連携・協働の場」としての役割を十分に発揮し、地域住民や地域の様々な関係者・地域団体の参加と協働をもとに、地域の生活課題(ニーズ)について解決できる仕組みをつくっていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・社協理事会(4)評議員会(3)・地域ケア会議出席(11)・生活支援コーディネーター会議(11)・第2層協議体会議(2) ・校長会議・教頭会議(1)・民協会長会(1)・朝霞市地区民生委員児童委員協議会(6)・ファミリーサポートセンター情報交換(2) ・あんしんサポートねっと担当者四市ブロック会(1)・特定相談支援事業所連絡会(4)・進路連絡協議会(和光南特別支援学校等)(4) ・南西部地域就労支援センター等情報交換会(3)・埼玉県障害者就労支援センター等連絡協議会(2)・手話調整会議(2) ・朝霞市障害者プラン推進委員会(4)・精神保健福祉担当者会議(2)・四市内福祉施設医療職ネットワーク会議(3) ・子ども・子育て支援事業計画(3)・児童館運営協議会(2)・要保護児童対策協議会(7)・子どもの貧困対策庁内連絡会議(1) ・朝霞市高齢者福祉計画及び介護保険事業計画推進会議(3)・包括支援センター運営協議会(2)・地域密着型運営委員会(2) ・関係機関との会議に出席し、情報交換を行った。 ・福祉団体・企業との話し合いの場を設け、地域活動への参加や、現状や抱えている課題について意見交換を行った。また、総合的かつ効果的にサービスが提供されるよう、多様な関係者(保健・医療・福祉・教育等)と連携を図った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
各関係機関や各事業に関わる情報交換	目標値	80件	80件	90件	90件	100件
	実績値	82件	86件			
進捗状況及び自己評価	<p>高齢者・障害者・子育て支援等、様々な関係機関との会議や情報交換を通じて、連携を図り、顔の見える関係づくりができた。 直接的な利用者への支援を行う部署では、利用者のニーズの解決に向けて、関係機関との連携・協働を図ることができた。</p>					
	A	<p>A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない</p>				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域住民による地域の福祉活動やボランティア団体との連携や情報共有が停滞している。 ・様々な地域の生活課題の解決に取り組む中で、慎重に取り扱わなければならない課題(貧困、虐待等)が発生している。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症への対策をとりながら、地域福祉活動団体等との連携や情報共有に努める。 ・地域住民や地域の生活課題を解決するために、各関係機関との継続的な連携体制を維持する。 ・社協内部でも部署間の連携・情報共有に努める。 ・関りをもった生活課題について、個人情報等、その取り扱いについて管理をしっかり行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生活課題について考える。 ・地域にある福祉団体や関係機関等について情報収集する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	②身近な福祉圏域の検討				
	事業の概要	第3期活動計画では、地域包括支援センターの圏域に合わせ地区活動を行ってきましたが、住民が身近に感じる福祉圏域について見直し・検討していく必要があることを認識しました。地域での福祉活動を、市民や関係団体と共に進めてきた従来のエリア(福祉圏域)を参考にしつつ、市内の他分野の圏域について情報を収集し、地域住民が身近に感じ、参加しやすい新たな福祉圏域を検討・研究していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	第4期計画の策定段階で、社協が指定管理者として運営している6つの児童館を足がかりに、地域の生活課題の把握や解決に取り組むため、朝霞市内を6つのエリア(地区)に再編した。 令和4年度は、地区の実情を把握するために、第3期地域福祉活動計画で作成した地域アセスメントシートの情報を新しい書式に移し替えるとともに、今後の地域アセスメントシートの更新に向けて既存の情報の整理を行った。あわせて、社協が設定した6地区と、行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業における6圏域を照らし合わせ、福祉圏域の検討を行った。 また、昨年度に引き続き住民参加型在宅福祉サービス(あいはあと事業)の協力会員・利用会員の地域ごとの登録分布表を作成し、実態を把握した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
身近な福祉圏域の検討	目標値	調査・研究			1回	2回
	実績値	2回	3回			
進捗状況及び自己評価	・第3期地域福祉活動計画(5地区)で作成した地域アセスメントシートの情報を、第4期活動計画(6地区)の新しい様式に移行した。 ・社協が設定した6地区と、行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業における6圏域を照らし合わせ、福祉圏域の検討を行った。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域住民の生活に即した福祉圏域を検討・研究するための情報収集や調査が停滞している。 ・社協が設定した6地区(児童館ごと)と、行政(高齢者福祉)が推進する生活支援体制整備事業の6圏域(地域包括支援センターごと)のエリアの境界線が異なっている。
今後の取り組み方針	地区ごとのアセスメントシートについて、地域福祉活動の実情等の情報の更新を行ったり、行政が推進する生活支援体制整備事業(協議体等)に関する情報収集を通して、地域住民にとって身近な福祉圏域の研究を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域の生活課題や地域福祉活動等の情報を社協に提供する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(1)地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり				
	事業名	③コミュニティソーシャルワーカー(CSW)の配置				
	事業の概要	地域において、ちょっとした困りごとから生活上の課題を抱える個人や世帯等、様々な地域課題が存在し、社協は地域住民と共に課題解決に向けて取り組んでいます。しかし、困りごとがあっても自ら相談できないなど、福祉課題を抱えている人が増えてきています。そのような人たちが地域で孤立しないように、身近な生活課題を見つけ(気づく)、近隣住民や生活支援コーディネーターなどの関係者、関係機関等との連絡調整をしながら(つなぐ)、地域で支え合う仕組みを一緒に考え(つくる)、地域の多様な生活課題の解決に向けて取り組んでいけるようCSWの配置に向けて検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・住民参加型在宅福祉サービス(あいはあと事業)での活動者、利用者の地域分布など支援事例に関する情報を集約し、地域の状況把握を行った。また、日々の業務で関わる支援ケースを集約し、地域課題に関する情報の蓄積を行った。 ・研修において他市社協のCSWの配置状況や活動状況について情報交換を行った。 ・地域ケア会議や生活支援コーディネーター会議等に出席し、情報交換を行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
CSWの検討	目標値	調査・検討				設置
	実績値	2回	3回			
進捗状況及び自己評価	住民参加型在宅福祉サービス(あいはあと事業)やボランティアセンター等のソーシャルワーク的機能を有している事業において、課題解決に向けてコーディネートした事例(支援ケースや地域の生活課題等)の積み上げを行った。 市内の地域の生活課題の解決に取り組んでいる関係機関との情報交換等を行った。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・CSWを担う人材の育成が必要である。 ・本会におけるCSWの役割や配置イメージが固まっていない。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・CSWの業務や地域において個別支援を担う専門職としての役割、位置づけを明確化し、配置に向けて検討を行う。 ・CSW関連の研修に参加し、他市の状況等について調査する。 ・地域の生活課題等の情報収集に努め、市内の地域の生活課題の解決に取り組んでいる関係機関との情報交換等に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<ul style="list-style-type: none"> ・身近な地域の困りごと気づき、その情報を共有する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	高齢者・児童福祉課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	①特別な配慮が必要な子どもへの相談・支援				
	事業の概要	社協が運営する児童を対象とした施設において、児童がいつもと違う様子であれば専門機関へ相談するなど、他機関と連携を図っています。一人で悩まないように相談ができる場があることを広く周知し、多様な相談に対応できるように関係機関との連携をさらに深めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館にて、不登校児の見守り支援を行った。(1) ・児童館にて、不登校児の見守り支援の際、保護者・学校等と連絡調整を行った。また、家庭児童相談員の来館の調整を行った。 ・放課後児童クラブにて、児童の相談支援を行った。(11) ・放課後児童クラブにて、関係機関の会議や専門機関への情報提供等を行った。(34) ・県指定のアドバイザーに配慮を必要とする児童について相談し、アドバイスを受けた。(2) ・「ヤングケアラー支援のための教育・福祉合同研修会」等の研修に参加した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
相談支援件数	目標値	45件	45件	45件	50件	50件
	実績値	43件	48件			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・社協が運営する児童を対象とした施設にて、障害児の他に気になる児童や家庭環境等が複雑な児童に対して、保護者・学校・行政等と連携を図りながら、相談支援を行った。また、専門機関等との連携に努めた。 ・児童に関する研修に参加することで、職員の支援技術の向上に努めた。 					
	A	<ul style="list-style-type: none"> A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない 				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	専門的な支援、また児童の権利擁護への配慮等が必要なケースもあり、施設だけでは解決できない場合がある。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が安全・安心に暮らせるよう、日頃から保護者・学校・行政との連携を図る。専門的な支援が必要な場合は関係機関につなげていく。 ・相談支援や権利擁護等の研修により、職員の支援技術の向上に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

困りごとがあれば利用している施設や市・社協に設置されている窓口相談する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	②身近な総合相談支援の充実				
	事業の概要	平成29(2017)年度から総合相談の窓口を設置し、住民の困りごとを幅広く受ける体制を整えました。日常生活の中で住民が感じる不安や困りごとに対し、誰もが気軽に利用できる総合相談窓口を目標に、様々なニーズに応えるため児童・高齢・障害等の各専門機関と連携し、総合相談の充実を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ワンストップで対応できる相談窓口として、福祉に関するあらゆる相談(高齢者関係、障害者関係、就労、生活困窮、権利擁護等)に対応し、困りごとに耳を傾け、見立てをたて、専門的な支援(市役所、包括支援センター、女性センター等)につなげた。また、生活困窮者に対し、食材支援を行った。 ・広報紙「社協あさか」やSNSで、総合相談窓口の周知を図った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
総合相談件数	目標値	20件	20件	25件	25件	30件
	実績値	30件	26件			
進捗状況及び自己評価	それぞれの困りごとに耳を傾け、適切な支援につなぐことができた。また、広報紙「社協あさか」やSNS等で総合相談窓口の周知に努めた。					
	A	<ul style="list-style-type: none"> A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない 				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	市民や関係機関に、社協の総合相談窓口の存在をより広く周知する必要がある。
今後の取り組み方針	広報紙「社協あさか」やSNS、ホームページ等を活用して、総合相談窓口の周知・啓発を行うとともに、相談しやすい環境づくりを行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に困りごとを抱えている人がいたら、社協の総合相談窓口を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	③ボランティア活動の相談・コーディネート				
	事業の概要	ボランティアコーディネーターは、市内の福祉施設や活動団体、関係団体等のボランティアに関する情報を集約し、ボランティアをやりたい人とボランティアに来てほしい人をコーディネートします。また、ボランティア募集やボランティア団体の活動状況等をボランティアニュース・広報紙「社協あさか」・SNS等で発信し、ボランティア情報を必要としている人へ届けるとともに、ボランティアに参加する人が増えるように努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動をしたいという市民やボランティアに来てほしいという施設等からの相談を受け、必要な情報提供やコーディネートを行った。(延べ116件) ・誰もが気軽にボランティア活動に参加できるきっかけづくりのための事業(彩の国ボランティア体験プログラム)の活動調整を行った。 ・食材支援等をきっかけに、関わりのできた施設・団体等とつながりを継続できるよう、ボランティアの情報を聞いたり、ボランティア活動希望者に情報提供を行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア相談件数	目標値	80件	80件	90件	90件	100件
	実績値	106件	122件			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア登録をした市民に、ボランティアニュースの送付や、ボランティア情報のメール配信を行い、継続的に関わることができた。 ・彩の国ボランティア体験プログラムの実施にあたっては、参加者にも感染症対策として体調管理を行ってもらった。また、プログラムをきっかけにボランティア活動を継続する参加者がおり、活動のきっかけ作りにつながった。 					
	A	<ul style="list-style-type: none"> A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない 				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、ボランティアの受け入れを再開できない施設がある。 ・コロナ禍が長引き、ボランティア活動をやめる方もいた。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、ボランティア登録者等とつながりをたやさないよう、情報発信を行う。 ・関わりのできた施設・団体等とつながりを継続していく。 ・今後、ボランティア活動を再開する団体等もあると予想されることから、活動状況を把握し、コーディネートに役立てる。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動に興味があったら、ボランティアセンターに連絡をする。 ・ボランティアを必要としている人や団体はボランティアセンターに相談する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(2)相談支援体制の充実				
	事業名	④身近なボランティアの相談窓口の充実				
	事業の概要	ボランティアセンターは、「地域に開かれた社協のフロント(窓口)」としての機能を有するため、ボランティアに関する相談や情報掲示ができるスペースを確保し、ボランティアセンター窓口の機能充実を図ります。また、ボランティアセンターまで来所することが難しい人へ向けて、市内の公共施設、スーパーやドラッグストア等に出張ボランティアセンターの開設を働きかけ、ボランティア相談スペースの確保を図ることで相談窓口の拡充を検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市主催の「朝霞市イベントボランティア説明会」にて、ボランティア保険等の説明を行った。(1) ・市民活動支援ステーションとの連携により、ステーションにてボランティア保険の受付出張窓口を開設した。(5) ・市主催の「地域デビューセミナー」にて朝霞市ボランティアセンターの相談ブースを設けた。(1) ・団体利用室を利用する団体が増えるよう、ボランティアニュースで周知を行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
出張ボランティア相談実施回数	目標値	2件	2件	2件	3件	3件
	実績値	6件	7件			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・市主催のイベント等に参加し、ボランティア相談を受けたり、ボランティアセンターの周知を行うことができた。 ・「朝霞市総合福祉センターまで来所することが困難である。」というボランティアの声をうけ、市民活動支援ステーションと連携し、場所を借りてボランティア保険受付の出張窓口を開設したところ、「今後もぜひ継続してほしい。」との意見があった。 ・ボランティアの協力により、案内板作成し、ボランティアセンター窓口の周知を図った。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアセンターまで来所が困難な人もいる。 ・団体利用室を利用するボランティア団体が増えていない。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・出張ボランティアセンターとして、市の公共施設等でボランティア保険の受付や、ボランティア相談を行えるかどうかの検討を行う。 ・団体が利用しやすいよう、団体利用室の整備及び周知を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

市民が利用しやすいボランティア相談窓口の場所について情報提供する。

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	①機関連携研修会				
	事業の概要	保険医療と介護及び障害者支援の専門機関同士は、カンファレンス等を通じて個別に連携が図られていますが、地域住民の複雑化・複合化した課題に対応するためには制度によらない支援体制の一層の充実が求められています。このことから、保健医療、介護、障害者支援及びその他の社会福祉の推進に係る機関等の参加により、それぞれの活動内容や機能を十分に理解し、連携の質の向上を図ることを目的とした研修会を実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「高次脳機能障害の理解」を開催した。 ・「障害のある方の親なきあとにむけて講座」を開催した。 ・「障害のある方が1人暮らしするために」を開催した。 ・「障害児のライフプラン」を開催した。 <p>はあとびあ相談支援センターとはあとびあ障害者就労支援センターで合同開催し、市、ハローワーク、近隣の就労系障害福祉サービス事業所、相談支援事業所等の関係機関が参加した。</p>					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
機関連携研修会の実施	目標値	調査・検討		1回	1回	1回
	実績値	3回	4回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・はあとびあ相談支援センターとはあとびあ障害者就労支援センターで合同開催することで、より多くの関係機関が参加し、連携及び資質向上が図れる関係づくりができた。 ・マスクの着用・来所時の検温・手指消毒・参加者間の距離確保・十分な換気、など感染予防策を徹底した上で、無事に開催することができた。 					
	A	<ul style="list-style-type: none"> A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない 				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	事業所、事業種別によって、参加しやすい日時、研修内容等が異なるため、多くの関係機関が参加できる研修会をどのように企画していくか工夫が必要である。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関の共通課題や関心の高い内容を研修内容に反映していく。 ・ICTを活用する等、より多くの関係機関が参加できる研修会の開催を検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

利用者へ提供できる支援体制を整えるために、関係機関がお互いの業務内容について情報を共有する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	②障害のある人の就労支援				
	事業の概要	障害のある人の働きたいという気持ちを尊重し、相談や現場同行を通じて、その人の能力が発揮できる就労につながるよう支援を行います。一方、障害のある人を雇用する事業所については、一緒に働くにあたっての相談や助言を行い、障害がある人の働きやすい環境を整える支援が必要です。そのため、障害者就労支援センターでは、埼玉県障害者雇用サポートセンター、ハローワークと連携して障害のある人をサポートすることにより、地域で生活し、就労を通じて社会参加ができるよう、地域住民や事業所等に障害についての理解を深めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市内企業からの雇用相談(206件) ・SNS、広報への関連記事の掲載(70件) ・関係機関へ障害者就労支援センターのサービス説明を行った(1件) 障害のある人が就労につながるよう支援を行った。 市内企業からの雇用相談や特にツイッター・広報紙の活用を意識し、市内の企業・市民に広く就労支援センターや障害者雇用の啓発の働きかけを行った。また、リーフレットや名刺に、社協のツイッターやホームページの2次元コードを掲載した。					
指標名		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
啓発・働きかけ	目標値	180件	180件	185件	185件	190件
	実績値	193件	277件			
進捗状況及び自己評価	障害のある人の働きたいという気持ちに寄り添い、雇用したい企業へつなげ、働きやすい環境を整える支援を行った。また、ツイッターや広報紙を積極的に活用し、就労支援センター啓発の働きかけを行い、障害のある人が「働く」ことについての理解を深めることができた。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	企業や市民に向けて、障害者雇用や一般就労についての普及啓発が必要である。
今後の取り組み方針	今後、障害者の法定雇用率が段階的に引き上げられることが検討されていることもあるため、市内企業や就労継続支援B型事業所等の利用者・保護者・職員を対象に、障害者雇用や一般就労に関する利用促進と啓発を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自分に合った福祉サービスを選べるように情報を収集する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(3)保健医療・社会福祉サービスの充実				
	事業名	③社会福祉法人の連絡会議				
	事業の概要	長年、市内の社会福祉法人等の障害者福祉施設との横のつながりを強めていくために、「はあとねっと会議」や四市福祉施設看護師の「医療職ネットワーク会議」等を開催しています。今後、さらに市内の社会福祉法人に働きかけ、お互いに顔が見える関係を築き、協働・連携しながら積極的な地域福祉活動の取り組みを推進するため「社会福祉法人の連絡会議」を立ち上げ、地域福祉活動を支えるための仕組みづくりを進めていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	他市での社会福祉法人の連携についての情報収集を行った。 地域住民が抱える困難な福祉課題の解決のために、県内の社会福祉法人が協働し社会貢献活動に取り組む「埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進委員会」の会員として、事業(衣類バンク、食材支援等)の周知啓発に努めた。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
社会福祉法人の連絡会議	目標値	調査・検討		検討・準備	1回	1回
	実績値	1回	1回			
進捗状況及び自己評価	埼玉県社協が主催する会議にて、社会福祉法人の連絡会議に関連する情報収集を行った。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・市内の社会福祉法人の活動について情報収集を行うとともに、社会福祉法人の連絡会議の趣旨や目的を明確化する必要がある。 ・コロナ禍の影響で、埼玉県社会福祉法人社会貢献活動推進委員会会員の市内社会福祉法人との会議が開催できていない。
今後の取り組み方針	行政と市内社会福祉法人と連携し、社会福祉法人の連絡会議立ち上げに向けて検討を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

社会福祉法人としての活動を地域に発信していく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	①成年後見制度の理解・普及				
	事業の概要	日々の暮らしに不安を抱える、認知症高齢者や障害のある人等が、住み慣れた地域で安心して生活を続けていく一助となる成年後見制度については、市民の関心が高まりつつあるものの、広く普及するまでには至っていません。そのため、制度の理解・普及を目指し、市民を対象とした講座を開催します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 福祉サービス利用援助事業(あんしんサポートねっと)の生活支援員交流会と市民向け講座「障害のある方の『親なきあと』にむけて」において、成年後見制度についての周知・啓発を行った。(2) 埼玉県社協の権利擁護センターの職員を講師に招き、成年後見職員研修を実施した。(68名参加)(1) SNSで成年後見制度に関する情報発信を行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
成年後見制度の講座開催	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	2回	3回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 講座を開催することで、成年後見制度の周知・啓発を行うことができた。 職員研修を実施することで、成年後見制度、法人後見について、職員の理解を深めることができた。 					
	A	<ul style="list-style-type: none"> A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない 				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	成年後見制度の理解・普及のために、多くの関係機関・市民が参加できる研修会をどのように企画していくか検討が必要である。
今後の取り組み方針	今後も成年後見制度についての知識が深められるような研修会を企画し、開催していく。また、職員の意識の醸成を図り、市民の制度への理解・普及に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

成年後見制度を知るため、市や社協が開催する講座に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびあ福祉作業所	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	②虐待防止対策				
	事業の概要	社協が管理運営する施設に虐待防止のポスター等を掲示し、虐待防止の理解、啓発を図ります。また、施設利用者の様子を確認し、家族とコミュニケーションをとりながら状況確認を行い、必要に応じて関係機関に報告し、虐待の早期発見・抑制に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止に係る掲示物を掲示し、市民への啓発を行った。(21) ・社協が主催する講座等で虐待防止について周知を行った。(5) ・虐待防止に関する研修を受講した。(7) 市民からの相談に対し関係機関を紹介したり、施設利用者の状況を確認し関係機関に報告する等、虐待の早期発見・抑制に努めた。 障害者施設においては、義務化された虐待防止委員会を設置し、開催した。(2)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
市民等への啓発及び職員の研修	目標値	啓発 21件 研修 7件	啓発 21件 研修 9件	啓発 21件 研修 9件	啓発 21件 研修 9件	啓発 21件 研修 9件
	実績値	啓発 30件 研修 15件	啓発 26件 研修 9件	啓発 研修	啓発 研修	啓発 研修
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・社協が運営する施設等で虐待防止に関するポスターを掲示し、市民への啓発に努めた。 ・虐待防止に関する研修を内部で開催したり、外部での研修に参加することで、社協職員の虐待防止についての理解が深まった。 ・施設利用者への支援においても、虐待の早期発見・抑制に努め、関係機関と連携を図った。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	高齢者・障害者・児童等への虐待防止について、市民や関係機関、社協職員の理解をより深める必要がある。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の目につきやすい場所にポスター掲示を行ったり、社協が主催する講座等で説明を行うなど周知・啓発に努める。 ・虐待防止への理解を深めるため、社協職員は積極的に研修に参加する。また、虐待の早期発見・抑制のため、関係機関との連携に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

虐待が疑われる場面に遭遇したら、関係機関に通報・相談する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(4)権利擁護の推進				
	事業名	③あんしんサポートねっと				
	事業の概要	住み慣れた地域の中で、高齢者や障害のある人が、安心してその人らしく生活できるよう、多様な地域資源を活用しながら専門員による相談援助や生活支援員による定期訪問等の援助を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	判断能力の不十分な高齢者や知的・精神障害のある方で、金銭管理等に不安のある方が安心して生活が送れるよう、福祉サービス利用援助事業(あんしんサポートねっと)の新規契約に向けた支援や、福祉サービスの利用援助、日常生活上の手続き援助、日常的な金銭管理、書類等の預りサービスの援助を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉サービス利用援助事業利用人数	目標値	11人	12人	13人	14人	15人
	実績値	12人	11人			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の利用者の他、新たに3名の方の利用契約を行うことができた。また、生活支援員に登録していた方のうち2名に新たに委嘱を行い、利用者の増加に対応できるよう体制整備を図ることができた。 ・その他、利用者や利用希望者のニーズに応えられるよう、ケース会議等を通じて、行政・福祉・医療等の関係機関と積極的に連携を行った。また、出前講座やSNSを通じて、あんしんサポートねっとの周知を行った。 					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	広報紙等で事業の啓発を行っているが、支援が必要な方に適切に情報を届ける必要がある。
今後の取り組み方針	あんしんサポートねっと事業による支援が必要な方に情報が届くよう、情報発信や関係機関との連携の方法について検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に金銭管理や事務手続き等に不安のある人がいたら、あんしんサポートねっとを紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	①生活再建のための相談支援				
	事業の概要	近年、非正規雇用や新型コロナウイルス感染症等を背景に、生活再建に関する相談が増加しています。当座の生活資金の相談から生活の安定が図られるまでに、その他の複合的な課題を抱えている人も多いため、市との連携強化を図り、様々な社会資源やその他の生活再建に必要な他制度を活用して、相談者の課題解決に向けて支援します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 生活困窮に関する相談があった際、現在の生活状況をよく聞き取り生活福祉資金貸付だけでなく、家計の見直し、適切な資源(生活保護、住居確保給付金、ハローワーク等)の情報提供を通して生活再建できるよう支援した。(189件) 新型コロナウイルス感染拡大の影響で減収した相談者に対し、生活状況の聞き取り、特例貸付の申請受付を行った。なお、生活福祉資金特例貸付については、令和4年9月30日をもって受付が終了となった。(554件) 相談支援に必要な社会資源の情報収集・整理を行った。 食材の確保が困難な相談者に対し食料支援を行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
生活困窮に関する相談件数	目標値	100件	100件	100件	100件	100件
	実績値	3182件	743件			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍や物価高騰により増加した生活困窮に関する相談において、詳細に聞き取りを行い、課題解決に向けて相談者と一緒に考え、生活福祉資金の案内や他の社会資源の情報提供をすることが出来た。 相談者の状況により、食材支援や日用品の支援を行い、生活再建に向けて支援することが出来た。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	年々相談内容が複雑化しており、生活資金貸付だけでは課題解決できないケースや慢性的な生活困窮だと思われるケース等が増えてきている。
今後の取り組み方針	相談者に適切な情報提供ができるよう、日々更新・変更される社会資源(生活保護、住居確保給付金、ハローワーク等)等の情報を収集し、複雑な生活課題の解決に向けて関係機関との連携を深める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に生活困窮者等の情報が寄せられた場合、市や社協等と協力して支援を行う。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(5)生活困窮者等への支援の充実				
	事業名	②子どもの貧困対策に関わる団体への支援				
	事業の概要	子どもの貧困に関する問題は、単に金銭的な援助で解決するものではなく、居場所づくりや様々な学びの支援も行う必要があります。市内では子ども食堂や学習支援団体等がその活動を行っています。社協ではボランティアの募集や助成金情報等を提供する他、市民へ団体の活動を周知するなどの支援を行っています。今後も、団体等の支援を行うとともに、地域の中で身近な人たちが子どもの貧困について学びを深め、関心を持つことで、温かい食事や学習をサポートしてくれる地域の助け合いをします。今後も活動につなげていくことができるよう、啓発活動等に取り組んでいきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・企業・個人等からの寄贈・寄付による相談を受け、市内の子ども食堂ネットワークやフードパントリー等につなげ、活用してもらった。(3件) ・子ども食堂、フードパントリー、学習支援団体等にボランティア希望者のコーディネートを行った。(3) ・子どもの貧困に関わる団体への支援として、本会ツイッター、ホームページ、朝霞市総合福祉センター1階情報コーナーにて随時助成金等の情報発信を行った。(1) ・各団体から助成金等の申請希望があった場合、申請支援を行った。(県社協へ提出2件) 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
子ども対象団体への支援	目標値	5回	5回	10回	10回	10回
	実績値	4回	9回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金情報を随時更新し、ツイッターや各団体へのメール配信等で情報の提供に努めた。 ・子どもの貧困に関わる各団体と随時情報交換等を行い、企業等から寄贈やボランティア希望者のコーディネート等の支援を行った。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	子どもの貧困対策に関わる団体の今後必要な支援について、情報収集する必要がある。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な支援について団体と情報交換等を行う。 ・食材寄付や助成金の情報提供を行う等、団体の支援を継続して行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

子どもの貧困に対する活動団体を理解し、様々な形で応援する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あそび福祉作業所 はあとび福祉作業所	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	①地域住民の交流の機会の提供				
	事業の概要	福祉の関心を広げる仕掛けとしてのボランティア活動や地域デビュー講座、市内を5つの地区に分けての社協主催の地域懇談会などを積極的に開催してきたことで、幅広い世代の住民の参加・参画により住民同士の身近な交流の機会を作ってきました。このような地域づくりの中で、交流を深めながら温かく見守り、時にはおせっかいを受け入れるような、顔の見える地域づくりが大切です。 これからも、このような地域を目指し、住民が主体となってより身近な地域で支え合う仕組みができるように、社協が実施する事業などを通じて、人材育成や地域づくりにつながるような交流できる機会を提供していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・切り絵体験教室(5)・ノルディック・ウォーク教室(16)・健康太極拳教室(24) ・合同健康相談会(溝沼老人福祉センター・地域包括性センター・一般介護予防事業の共催) ・児童館乳幼児親子交流事業(6)・児童館夏祭り(6)・児童館クリスマス会(6)・児童館春祭り(5) ・HIZAORI春祭り(ひざおり児童館・周辺の町内会の共催)・朝霞市児童館in彩夏祭(6館合同) ・交流事業(溝沼老人福祉センター・みぞぬま児童館(1)、浜崎老人福祉センター・はまさき児童館(1)、はまさき児童館・はあとび福祉作業所(1)、みぞぬま児童館・第2層協議体(1)) ・あいとはと事業協会員ミーティング・あんしんサポートねっと事業生活支援員交流会・ボランティア講座 ・朝霞市ふれあいスポーツ大会・はあとびふれあい祭り・ふれあいマルシェ 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域住民の交流事業	目標値	75回	80回	85回	90回	100回
	実績値	64回	81回			
進捗状況及び自己評価	<p>コロナ禍で中止となっていた施設等が実施するまつり等の事業について、感染症対策を講じながら実施し、交流の機会の提供を行うことができた。</p>					
	A	<p>A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない</p>				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・感染防止対策を十分行ったうえで、事業が開催できるよう企画・運営に工夫が必要である。 ・地域福祉団体や自治会・町内会等、コロナ禍で活動ができなくても、社協との顔の見える関係が途切れてしまわないように連携が必要である。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でも感染防止対策を十分行ったうえで、実施できる事業の企画・運営に努める。 ・地域福祉団体や自治会・町内会等と顔の見える関係づくりに努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域交流の機会があれば参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	②地域住民の交流の活性化				
	事業の概要	地域では住民主体による高齢者や子育て支援などの身近なサロン活動が増えており、そうした活動や、関係づくりを支援することで、地域福祉を支える活動の活性化を図りました。こうした住民主体の活動により、身近な地域で支え合う意識が向上し、安心した暮らしにつながります。このような地域での助け合い、支え合いの活動をより広めるため、地域づくりや人づくりにつながる新たな場の立ち上げや、既存の活動支援を行っています。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・サロン・会食団体の相談連絡件数(電話・訪問含む)(112件) ・赤い羽根共同募金を財源として、団体の運営費や事業費を支援する「地域福祉活動助成金(地域福祉活動団体を除く)」を実施した。(運営費交付団体数:18団体、事業費申請団体:0団体)(サロン・会食団体) ・地域歳末たすけあい募金を財源として、「歳末援護金交付事業(地域福祉活動団体を除く)」を実施し、新年を迎える時期に支援を必要としている人へ支援を行うため活動している住民主体団体へ活動支援を行った。(交付団体数:8団体)(サロン・会食団体) ・サロン・会食団体へ訪問し、活動状況を確認した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住民主体の活動への相談・支援	目標値	120件	120件	125件	125件	130件
	実績値	113件	138件			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・助成金を交付する等、既存団体への支援を行うことができた。 ・少しずつ活動を再開してきたサロン・会食団体へ訪問し、活動状況等の情報交換を行った。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	新型コロナウイルス感染症の影響で休会したり、活動回数を減らしている団体や活動参加を自粛している市民もあり、個人・団体への相談支援及び新規団体の立ち上げ支援が滞っている。
今後の取り組み方針	既存の団体へ助成金等の支援を継続するとともに、コロナ禍で社協とのコミュニケーションが減っていた団体と、顔の見える関係を再構築し、必要な相談支援を行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

<p>新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、地域の活動に参加する。</p>

4 推進委員会の意見(評価)

<p> </p>

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	1 市民の暮らしを支える仕組みづくり				
	施策の方向性	(6)地域住民の交流の促進				
	事業名	③外国人への支援				
	事業の概要	外国人が地域で暮らす中で、言葉や制度、心の壁等、様々な課題があると言われていますが、その課題を解決するには、地域で暮らしている外国人住民への関りや、多文化を理解する必要があります。外国人が安心して暮らすことのできる地域づくりをすすめていくために、外国人を支援する団体等との連携を図るとともに、知る・学ぶ・交流する機会を設けていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある外国人が就労している会社に訪問し、本人、会社担当者と面談して困りごと等の確認を行った。(37件) ・外国人からの生活困窮の相談において、分かりやすい日本語や、多国語の資料、翻訳アプリ等を活用しながら支援を行った。なお、生活福祉資金特例貸付については、令和4年9月30日をもって受付が終了となった。(29件) ・市からの紹介により、外国人世帯へのランドセルの寄付を行ったり、関係機関につなぐ等の支援を行った。(2件) ・放課後児童クラブにおいて、外国人児童の受け入れを行った。(2件) 特例貸付の償還・免除に関する相談は、外国語対応のコールセンターへつなぐ等の支援を行った。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
支援件数	目標値	40件	40件	45件	45件	50件
	実績値	162件	70件			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・障害のある外国人の就労支援においては、会社に訪問し、本人、会社担当者と面談して困りごと等の確認を行うことによって、安定した就労につなげることができた。 ・外国人からの生活困窮の相談等において、コミュニケーション方法を工夫することで多くの外国人の支援ができた。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	外国人の中には、日本語の理解に乏しい方もいるので国籍・文化によって価値観が違い、困りごとが多様化していたり、就労を継続していくのが困難な事例があったり、研修や支援の事例を通して、外国人支援の現状を知り、多様な支援の可能性について検討する必要がある。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、コミュニケーション方法等を工夫しながら、就労への支援や生活困窮についての相談支援を行う。 ・多方面からの支援が行えるよう、関係機関・団体との連携を深める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近に困りごとを抱えている外国人がいる場合は、社協を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびあ福祉作業所	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	①ボランティア・実習生の受け入れ				
	事業の概要	誰もが暮らしやすい地域づくりには、世代を問わず福祉への関心と参加が必要なことから、地域福祉の担い手の育成及び活動支援のため、ボランティアや実習生の受け入れを行います。また、児童館等においては、子どもボランティア事業を実施し、福祉やボランティアに関わるきっかけ作りに取り組んでいきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・社協が運営する施設で、ボランティアの受け入れを行った。(老人福祉センター1件、児童館172件、放課後児童クラブ91件、ボランティアセンター66件、彩の国ボランティア体験プログラム5件、合計335件) ・新型コロナウイルス感染症の影響で、ボランティアの受け入れを自粛した施設もあった。 ・社協の運営する施設で、実習生の受け入れを行った。(社会福祉士実習6件、保育実習13件、教員免許実習4件、手話通訳実習2件、合計25件) ・社会福祉士実習の受け入れでは、各部署の実習指導者間で実習方法の検討や振り返りを行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア・実習生受け入れ人数	目標値	ボランティア 300件 実習生 20件	ボランティア 300件 実習生 20件	ボランティア 330件 実習生 25件	ボランティア 330件 実習生 25件	ボランティア 330件 実習生 25件
	実績値	ボランティア 316件 実習生 20件	ボランティア 335件 実習生 25件	ボランティア 実習生	ボランティア 実習生	ボランティア 実習生
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアや実習生を受け入れる際には、新型コロナウイルス感染症の対策を徹底し、活動内容を工夫する等、安心安全な受け入れに努めた。 ・ボランティアの受け入れを自粛した際、定期的な活動をしているボランティアに施設通信を送付する等、つながりが切れないように工夫した。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、イベントや事業が縮小等しているため、参加者の活動の機会に制限が出てしまっている。 ・実習生やボランティアの受け入れについて、社協全体で福祉の担い手を育てるという意識を持つ必要がある。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・イベントや事業がコロナ禍以前のように再開されることを見据えて、ボランティアや実習生の受け入れの環境整備に努める。 ・地域福祉への理解と関心が深められるような受け入れ方法について検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

福祉施設、ボランティア団体等のボランティア活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびあ福祉作業所	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	②出前講座の実施				
	事業の概要	社協では出前講座の実施とともに、新たな講座の検討やメニューの見直しを図ってきました。今後は、さらに地域の様々な団体、企業等に対し、身近な地域でいつでも福祉の活動を「知る」「体験する」ことができるような講座の実施、メニューの充実積極的な情報発信を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な福祉情報を交えた講座を社協職員等が講師となり、出前講座として実施した。(「車いす体験教室」「児童館見学」「コロナ禍における作業所の現状について」「気功講座」「切り絵講座」「栄養・脳トレ講座」「熱中症対策講座」「介護予防講座」等) ・企業等へ出前講座情報含むチラシを配布したり、「朝霞社協まるわかり帳」を配り、出前講座について周知・啓発を行った。(5) 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
団体・企業等への働きかけ	目標値	3件	3件	3件	6件	6件
	実績値	6件	5件			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・企業等への会員会費募集や卓上募金のお礼状送付の際に「企業×福祉」チラシ(出前講座情報含む)を同封し、出前講座のPRを実施した。 ・「朝霞社協まるわかり帳」やホームページを使用して、出前講座のPRを行った。 					
	A	<ul style="list-style-type: none"> A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない 				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	申請する団体が固定化してきており、地域の様々な団体・企業への働きかけが必要である。
今後の取り組み方針	地域での行事やイベント、地域福祉団体の定例会等でのチラシや冊子の配布に加え、SNS等も使用して、社協の取り組みとともに出前講座の周知啓発に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

社協の出前講座に参加し、得た知識や経験を地域に伝えていく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	③ボランティア講座の開催				
	事業の概要	講座内容の充実を図るため、地域に出向きサロン活動者やボランティア等から、現在のボランティアニーズの聞き取りを行っています。引き続き、ボランティアニュースや社協ホームページ、ツイッター等のSNSを用いて講座情報を広く発信していきます。また、地域福祉の担い手となる人材の育成を目的とした講座等、参加する側が選択できる様々な目的別の講座を開催し、受講後も地域福祉を進める担い手となるよう継続的に参加者の支援を行っています。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティア講座(1) ・あいはあと事業新規協力会員向け講習会(3) ・彩の国ボランティア体験プログラム説明会(2) ・ボランティア講座～ふくしをみんなde学び隊～(1) 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア講座の開催回数	目標値	7回	8回	8回	9回	10回
	実績値	17回	7回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・あいはあと事業新規協力会員向け説明会を実施することで、地域で活動する新たな協力者を増やすことができた。また、講習会の日程に都合がつかない方に対しては、個別に説明を行った。 ・彩の国ボランティア体験プログラムの説明会では事業の説明の他、ボランティア活動とは何かについて学ぶ機会を提供した。 ・ボランティア講座では、社会参加や地域活動への参加意欲の向上を図るきっかけとして、学びの機会、そしてボランティア活動のきっかけづくりとなるような講座として実施した。様々な年代の方の参加があった。 					
	B	<ul style="list-style-type: none"> A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない 				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、地域での活動を休止や縮小をしている団体があり、ニーズの聞き取りが難しい。 ・地域福祉の担い手となる人材の育成を目的とした講座の企画や今後の展開方法を検討する必要がある。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度とは異なる地域で、ボランティア活動を始めるきっかけとなるような講座を開催し、地域の担い手の育成に努める。 ・講座出席者で希望した方には情報を送付するなど、継続的につながり、ボランティアのモチベーション維持に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

講座に参加して得た知識や経験を活かし、地域で活動をする。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	総務課	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	④手話体験・要約筆記体験の実施				
	事業の概要	聴覚障害者に対する理解を深め、手話や要約筆記の普及を図ることを目的に、初歩的な手話や要約筆記を学ぶ場としての体験会を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・手話体験の実施(1) ・パソコン要約筆記体験の実施(1) 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
手話体験・要約筆記体験会開催回数	目標値	2回	2回	3回	3回	3回
	実績値	2回	2回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・小学生以上の年齢層を募集することで、幅広い世代への手話の普及につながった。(手話体験) ・手話講習会や手話体験等、従来の手話関連事業と関わりのない方の申し込みが増えた。(要約筆記体験) 					
	A	<ul style="list-style-type: none"> A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない 				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・手話講習会につなげるため、実施回数の検討が必要である。 ・要約筆記に関心は持ってもらえたが、県主催講習会への参加に結びついていない。
今後の取り組み方針	引き続き、感染症対策を講じながら、実施回数を検討する等、継続的に事業を実施する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

事業に参加し、手話や要約筆記への理解を深める。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	総務課 地域福祉推進課	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	⑤地域福祉財源の確保				
	事業の概要	共同募金、寄付、社協会費等が有効に地域の福祉活動に活用されるよう、地域住民、企業、社会福祉法人等の参加度を高め、また、その資金に協力する人、助成を受けて活動する人、誰もが地域福祉の支え手として参画できるよう、分かりやすい周知の在り方を検討し、透明性の高い運動を展開します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・募金実績額:赤い羽根共同募金(6,562,683円)、地域歳末助け合い募金(4,261,731円) ・自治会・町内会を通して市民に対して募金への協力依頼を行った。 ・ほんちよう児童館と連携し、学生ボランティア7名と街頭募金を行った。学生に共同募金について説明したことで、より理解を深めてもらい、思いやりの心を育む活動ができた。 ・一般介護予防事業参加者、老人クラブ連合会等に、プリペイドカード等の募金協力を依頼した。 ・広報紙「社協あさか」に募金の使い道を掲載したり、市の広報紙・SNS・メール配信等にて募金運動実施について周知した。 ・「るくるん募金箱」を市内2カ所の店舗に新規で設置した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
共同募金(赤い羽根・歳末)の募金実績額	目標値	11,000,000円	11,000,000円	11,000,000円	11,000,000円	11,000,000円
	実績値	11,063,398円	10,824,414円			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・社協の広報紙やSNSだけでなく、市の広報紙やSNSにも共同募金の記事を掲載してもらい、より多くの市民に周知・啓発ができた。 ・街頭募金では感染症対策を徹底した上で工夫しながら実施することができた。また、児童館の学生ボランティアと一緒に街頭募金を行い、幅広い世代にPRすることができた。 ・卓上募金箱の設置場所を新たに2カ所追加することができた。 ・るくるん募金箱の設置場所を増やすことができ、社協のPRにもつながった。 					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で、戸別募金額が減少している。今後も減少が見込まれることから、新たな募金協力依頼先の開拓が必要である。 ・多くの市民に寄付金や募金活動について知ってもらい、一緒に活動してもらえよう周知啓発を図る必要がある。
今後の取り組み方針	多くの市民に寄付金や募金活動を知ってもらえよう募金の使い道等について周知・啓発を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

社協の募金活動は身近な地域の福祉に役立つことを知り、活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(7)地域福祉に関する理解と参加の促進				
	事業名	⑥住民参加型在宅福祉サービス「あいはあと事業」				
	事業の概要	これまで住民参加型在宅福祉サービスとして、「ふれあいサービス事業」と「ホームクリーニング事業」を実施してきましたが、この2つを統合し、新たに「あいはあと事業」を開始します。この事業は地域の支え合いの仕組みをつくることを目的としており、日常生活の中で「ちょっと人の手を借りたい」、「空いているときに人のお手伝いをしたい」、そんな想いをつなげる地域の支え合い活動を展開していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に困っている人がいる場合は、あいはあと事業のパンフレットや紹介をしてほしいと利用会員、協会員に伝え、情報発信を依頼した。 ・住民の紹介による利用件数(121件うち17件) ・広報紙「社協あさか」やツイッター等で、あいはあと事業の概要記事を掲載し、周知啓発を行った。 ・あいはあと事業のパンフレットを配布した。(利用会員、新規協会員向け講習会受講者、民生委員、ボランティア活動団体、市役所職員、ボランティア講座受講者、サロン会食団体、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、第2層協議体等) ・あいはあと事業利用者(高齢者)宅訪問時は、担当ケアマネージャーに同行依頼し、関係機関との顔の見える関係づくりを行った。 ・協会員ミーティングにて活動紹介を行い、地域の支え合い活動であることを共有し、協会員の活動意欲の維持・向上を図った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住民の紹介による利用件数	目標値	10件	10件	10件	15件	15件
	実績値	14件	17件			
進捗状況及び自己評価	様々な手段を使って、周知啓発に努め、121件の地域住民の支え合い活動が実施できた。うち、住民の紹介による件数を見ると17件だった。					
	A	<ul style="list-style-type: none"> A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない 				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域の支え合い活動であるあいはあと事業の周知・啓発のため、広報紙・SNSだけでなく、市民が気軽に情報を手に入れられる場所・手段について検討が必要である。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・利用会員・協会員に事業の地域の支え合い活動という趣旨説明をしっかりと伝えていく。 ・引き続き、広報紙やSNSにて事業の周知を行いながら、新しい手法も検討していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

社協で得た情報、知識を地域に伝えていく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事業名	①教職員対象の研修会の実施				
	事業の概要	福祉教育の推進には、教職員や福祉教育に携わる人の理解と連携が必要不可欠です。そのために、小・中・高等学校の教職員や地域の福祉教育に携わる人を対象に、具体的な事例や福祉体験等を取り入れ、より充実した研修会を継続的に実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・四市福祉教育研修会を開催し、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じながら、会場を一ヶ所設けた他、オンラインも併用し、実施した。(担当市:志木市社協)(1回) 参加者:四市合計:延べ100人(朝霞市:延べ18人) ・市内中学校(一校)の教職員対象の校内研修にて、学校からの依頼で、社協及び福祉教育について説明を行った。(1回) ・市内小・中・高等学校に案内と福祉教育のメニューをあわせて送付し、小・中学校の校長会義・教頭会議に出席し、口頭でも周知を行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
教職員向けの研修会の開催	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	2回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・朝霞市、和光市、志木市、新座市社協のボランティアセンターが共催で「朝霞地区四市福祉教育研修会」を開催している。四市の担当職員の打ち合わせを重ね、新型コロナウイルス影響下でも開催できるよう、内容や実施方法の検討を行い、オンラインと会場開催を併用し、実施した。 ・市内中学校からの依頼で教職員対象の校内研修にて、福祉教育等の説明を行うとともに、視覚に障害のある方を招いての講演を行い、教職員の理解を深めることができた。 ・教育委員会を通じて校長会、教頭会に出席し、四市福祉教育研修会や小中学校での福祉教育の周知を行った。 					
	A	<ul style="list-style-type: none"> A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない 				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・教育現場での福祉教育の実践にあたっては、指導する教職員の理解が不可欠であり、より多くの研修参加者を募る必要がある。
今後の取り組み方針	・四市福祉教育研修会について、福祉教育の推進に携わる小・中・高等学校の教職員の参加者が増えるよう教育委員会との連携を深めるとともに、周知方法について検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

研修会で得た知識・経験を子どもたちに伝えていく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(8)支え合い・助け合いの気持ちの醸成				
	事業名	②他機関と連携した福祉教育の実施				
	事業の概要	毎年、小・中学校の総合的な学習の時間において、当事者の講演や体験等によるさまざまな福祉教育を実施してきました。今後は、社協で実施してきた福祉教育を、市内の施設等の協力を得ながら、子どもから大人までを対象とした、支え合い・助け合いの気持ちを醸成する福祉教育として実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校での福祉教育の実践の際、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、障害のある方や福祉教育サポーター(ボランティア)の協力を得て、実施した。 ・昨年実施のなかった中学校二校から依頼があり、福祉教育を実施した。 ・小中学校での福祉教育の実践では、福祉教育メニューと依頼方法についてまとめた案内を各小中学校へ送付し、教職員との連携を図った。また、よりスムーズに福祉教育を実施するために、校長会・教頭会に出席し、周知・啓発を行った。 ・社協新人職員研修の一環として、福祉教育の実践に参加した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉教育の実施	目標値	50回	50回	55回	55回	60回
	実績値	64回	96回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・通年で学校から依頼があり、障害のある方や福祉教育サポーターの協力を得て、実施することができた。 ・コロナ禍になってから依頼がなかった中学校から依頼があり、福祉教育を実施することができた。 ・社協新人職員研修の一環として、部署を超えて職員の協力があり、社協全体で福祉教育に取り組む機会となった。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の福祉教育の依頼が再開し増えつつあるので、福祉教育サポーター(ボランティア)の協力が必要である。 ・小学校での福祉教育の実施が中心となっており、中学校や高校、市民等からの依頼が少ない。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉教育(出前講座での実践等含む)について、地域での行事やイベント、地域福祉団体の定例会等でのチラシや冊子の配布に加え、SNS等でも情報を発信し、周知を図る。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

福祉教育の体験学習等に参加して、支え合い・助け合いの気持ちを育む。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(9)地域での見守りの充実				
	事業名	①住民参加による見守り事業の推進				
	事業の概要	住み慣れた地域で安心して暮らしていくためには、日頃から顔が見える、声をかけあえる関係が必要です。そのために、地域住民が主体となって見守り活動ができるよう、ボランティアや事業協力者、講座参加者に働きかけを行い、子どもたちの登下校時等における地域の見守りの目の強化について啓発していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・あいはあと事業新規協力会員向け講習会・協力会員フォローアップ研修会にて、互助の助け合いや地域の見守りの重要性、日頃から気づいてほしい点を紹介した。(5) ・あんしんサポートねっと事業の生活支援員交流会において、地域の見守り活動について啓発を行った。(1) ・総合福祉センターの1階談話コーナー等で、地域住民の見守り活動の推進に係る資料の掲示を行った。(1) ・地域包括支援センター主催の徘徊高齢者声掛け訓練に協力し、参加者に声掛けについてのアドバイスや重要性について伝えることができた。(3) 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
見守り活動の啓発	目標値	10回	10回	15回	15回	20回
	実績値	4回	10回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・あいはあと事業新規協力会員向け講習会・協力会員フォローアップ研修会、あんしんサポートねっと事業の生活支援員交流会にて、社協事業の協力者に、見守り活動についての周知啓発を図ることができた。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	新型コロナウイルス感染症の影響で、講座や講習会の開催が減少し、啓発の機会が減っている。
今後の取り組み方針	社協とつながりのあるボランティアや協力員、また地域で開かれる行事やイベント等への参加者に対して、見守り活動の周知啓発を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

高齢者や障害のある人、子どもなどへの見守りや声掛けを行う。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	総務課 地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとびあ福祉作業所	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	①分かりやすい福祉情報の提供				
	事業の概要	広報紙「社協あさか」、ホームページ等を用いて多くの福祉情報を提供していますが、今後は、誰もが必要な時に、必要な情報を得ることができるよう、従来の広報手段に加え、YouTube、ホームページ及びSNS等を活用し、分かりやすい地域の福祉情報の提供に努めます。また、各種イベント等の顔の見える環境において、社協のサービスや福祉情報の周知を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・朝霞社協全体で、ホームページ、ツイッター(1,338回)、フェイスブック(1,206回)、YouTube(124回)を使用した情報発信を行った。(令和5年2月現在) ・広報紙「社協あさか」(4月号、7月号、10月号、1月号)、ボランティアニュース(7月号、2月号、3月号)、手話ニュース(春・夏・秋・冬)を発行した。また、広報あさかに記事掲載を依頼した。(21) ・福祉の情報をSNSに投稿し、広く情報提供を行うとともに、サロンや福祉団体を訪問する際は広報紙やチラシなどを持参し、直接情報を届けた。 ・コミュニティFMラジオ(775ライブラリーFM)に職員が出演し、講座の広報を行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
福祉の情報提供	目標値	SNS 200回 紙媒体 20回	SNS 210回 紙媒体 20回	SNS 230回 紙媒体 23回	SNS 240回 紙媒体 23回	SNS 250回 紙媒体 25回
	実績値	SNS 140回 紙媒体 18回	SNS 242回 紙媒体 21回	SNS 紙媒体	SNS 紙媒体	SNS 紙媒体
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・社協ホームページ・ツイッター・フェイスブック・ユーチューブや広報紙などを活用し、多くの福祉の情報を提供することができた。 ・社協主催の講座や地域の活動団体等の活動場所や主催イベント等で、広報紙等を配布し、広く情報を提供することができた。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の活動団体が休止したり、講座等が縮小したため、顔の見える環境での福祉情報の周知を増やすことができていない。
今後の取り組み方針	新型コロナウイルス感染症への対策を講じたうえで、直接市民に福祉情報を周知する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

「社協あさか」を読み、福祉サービスの情報を得る。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	総務課	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(10)情報共有・発信の充実				
	事業名	②メディア戦略の強化				
	事業の概要	複雑化・多様化する情報社会に対応するため、広報紙「社協あさか」等の既存の媒体に加え、SNSや新しいツールを弾力的に活用して、正確で鮮度の良い社協の情報や地域の情報の提供を目指し、メディア戦略の強化を図っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・広報紙設置先の拡大として、商業施設等にお願いの声掛けを行った。 ・募金活動の説明の動画を作成し、YouTubeにて限定公開した。 ・コミュニティFMラジオ(775ライブラリーFM)に職員が出演し、講座の広報を行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
広報紙等の設置先の拡大	目標値	2件	2件	2件	2件	2件
	実績値	5件	0件			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・社協と関連のある商業施設等に、広報紙の設置のお願いの声掛けをしたが設置には至らなかった。 ・募金説明会に出席できない自治会・町内会に向けて、募金活動の説明の動画を作成し、YouTubeにて限定公開し、情報の提供に努めた。 ・FMラジオと連携し、社協の情報を発信することができた。 					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	広報紙の設置先の拡大に向けて声掛けをしているが、実際の設置にまでは至っていない。
今後の取り組み方針	引き続き、広報紙の設置先の拡大に向けて声掛けを行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

福祉サービスの情報を得るための「社協あさか」の設置場所を紹介する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	①福祉活動団体に対する活動支援				
	事業の概要	身近な地域での見守り・支え合いの基盤となる自治会・町内会や福祉活動団体等に対して継続的な活動ができるよう助成等の支援を行います。また、団体と連携・情報共有し、地域福祉に参画する住民の増加や地域の活性化を図ります。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉活動団体相談連絡件数(電話・訪問含む):延べ202件 ・社協支部活動費助成金及び広報折込料助成金を交付し、自治会・町内会への活動支援を行った。(社協支部活動費及び広報折込料:62件) ・赤い羽根共同募金等を財源とした地域福祉活動助成金(サロン・会食団体を除く)を交付し、地域福祉活動団体への活動支援を行った。(運営費:18件、事業費:9件) ・地域歳末たすけあい募金を財源とした歳末援護金(サロン・会食団体を除く)を交付し、新年を迎える時期に支援を必要としている人へ支援を行ったため活動している地域福祉活動団体へ活動支援を行った。(17件) ・社協の地区活動において、住民主体の活動(「どんぐりの会」「わくわくフェスタin朝霞」「朝霞の森秋まつり」)への活動支援やブースの出展協力等を行った。(9件) 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
自治会・町内会・福祉活動団体等への相談・支援	目標値	210件	210件	210件	220件	220件
	実績値	259件	317件			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・社協活動への協力や地域で福祉活動を行っている自治会・町内会、福祉活動団体に助成金を交付したり、相談支援を行った。 ・社協が設定した6つの福祉圏域に担当職員を地区割し、各地区ごとに、住民主体の活動の支援を行った。 					
	A	<ul style="list-style-type: none"> A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない 				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・徐々に活動を再開し始めている福祉活動団体の活動状況の確認等が必要である。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉活動団体に対して、助成金交付及び情報提供を継続的に行う。 ・福祉活動団体の活動の場に訪問し、顔の見える関係づくりができるよう努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近な地域活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	総務課	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	②手話講習会の実施				
	事業の概要	市からの受託事業の取組として、登録手話通訳者を育成するため、段階的に手話講習会を実施します。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	手話講習会(入門・基礎・中級)を実施した。また、登録手話通訳者試験を実施した。					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
登録手話通訳者数	目標値	10人	10人	11人	12人	13人
	実績値	11人	10人			
進捗状況及び自己評価	令和4年度の登録手話通訳者試験で合格者は出なかったものの、現在開講中の講習会参加者の継続率は高く、また、受講生の意識も高い。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	毎年度、通訳者養成講習会を開催しないため、講演会受講生からの受講申し込みを見込めない年度が発生する。
今後の取り組み方針	講習会の開催方法について検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

担い手になりそうな人に声をかけて、人材を育成していく。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	高齢者・児童福祉課	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	③老人クラブに対する活動支援				
	事業の概要	高齢者が地域で楽しく豊かに充実した生活を送るための地域コミュニティの一つである老人クラブについて、市民の認知度を上げるとともにスポーツ及び芸能文化活動等の支援を行います。また、長年の知恵と経験のある会員の技能を活用した支え合い活動がより効果的に展開されるよう支援していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・老人クラブ連合会の年間事業の検討や予算編成などの会議に参加し、協議を行った。(16) ・老人クラブの定例会に、社協職員が出向き介護予防体操(365歩のマーチ)や防犯講習会を行う等の支援を行った。(28) ・新たな趣味を増やし、参加者同士のふれあいや生きがいづくりを目的として、教養講座(書道・俳句等)を実施した。 					
指標名	365	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
相談支援件数	目標値	43件	43件	53件	53件	64件
	実績値	33件	44件			
進捗状況及び自己評価	令和4年度は、感染予防対策を講じながら、年間行事を行うことができたが、コロナ禍以前と比べて参加者数は減少している。定例会を実施しているクラブについては、社協職員が介護予防体操を行ったり、社協について説明する機会を設ける等の支援を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	・年間事業を協議していく中で、参加者を増やすためにどのような企画・運営をしていくか工夫が必要である。
今後の取り組み方針	・感染予防対策を講じながらの年間行事の実施について、協議し、老人クラブ会員への周知に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域の老人クラブ活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	④ボランティア講座の開催(再掲)				
	事業の概要	地域のボランティアニーズを把握し、ボランティアニュースや社協ホームページ・ツイッター等のSNSを用いて広く発信します。また、地域福祉の担い手となる人材育成を目的とした講座等、参加する側が選択できる様々な目的別の講座を開催し、講座後も継続的に参加者の支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティア講座(1) ・あいはあと事業新規協会員向け講習会(3) ・彩の国ボランティア体験プログラム説明会(2) ・ボランティア講座～ふくしをみんなde学び隊～(1) 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
ボランティア講座の開催回数	目標値	7回	8回	8回	9回	10回
	実績値	17回	7回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・あいはあと事業新規協会員向け説明会を実施することで、地域で活動する新たな協力を増やすことができた。また、講習会の日程に都合がつかない方に対しては、個別に説明を行った。 ・彩の国ボランティア体験プログラムの説明会では事業の説明の他、ボランティア活動とは何かについて学ぶ機会を提供した。 ・ボランティア講座では、社会参加や地域活動への参加意欲の向上を図るきっかけとして、学びの機会、そしてボランティア活動のきっかけづくりとなるような講座として実施した。様々な年代の方の参加があった。 					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で、地域での活動を休止や縮小をしている団体があり、ニーズの聞き取りが難しい。 ・地域福祉の担い手となる人材の育成を目的とした講座の企画や今後の展開方法を検討する必要がある。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度とは異なる地域で、ボランティア活動を始めるきっかけとなるような講座を開催し、地域の担い手の育成に努める。 ・講座出席者で希望した方には情報を送付するなど、継続的につながり、ボランティアのモチベーション維持に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

講座に参加して得た知識や経験を活かし、地域で活動をする。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	2 思いやりと支え合いの心づくり				
	施策の方向性	(11)地域福祉を支える団体の活性化・人材の育成				
	事業名	⑤地域活動団体間の交流事業				
	事業の概要	朝霞市ボランティアセンターでは、地域福祉を支える団体の活性化を図るため、個々の団体への支援だけでなく、市が設置する市民活動支援ステーションと共催で、地域活動団体の交流事業を実施していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動支援ステーション主催の地域デビュー支援セミナーにおいて、協働によりボランティアセンターの展示と相談ブースを設けた。(1) ・市民活動支援ステーションの配信メールにボランティアセンターの情報の掲載を依頼した。 ・少しずつ活動を再開しているサロンへ訪問し、活動状況の把握に努めた。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
地域活動団体交流事業	目標値	1回	1回	2回	2回	2回
	実績値	6回	1回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・市民活動支援ステーションと共催での地域活動団体の交流事業は、コロナ禍により、実施できなかったが、随時、情報共有を行った。 ・市民活動支援ステーション主催の地域デビュー支援セミナーでは、参加者より活動相談を受け付けた他に、出展していた関係機関との情報交換を行うことができた。 					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、市民活動支援ステーションとの共催で地域活動団体交流事業を実施することができなかった。 ・コロナ禍で思うように活動ができていない団体への支援方法の検討が必要である。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動団体の交流事業については、開催方法や参加団体等について、市民活動支援ステーションと協議を重ねる。 ・地域で活動する団体の状況等について確認し、必要な支援を検討する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域活動の活性化のために、ボランティアに参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(12)施設等の整備・充実				
	事業名	①地域の人が集える拠点(場)づくり				
	事業の概要	住民主体の地域活動を活性化していくには、地域の情報共有や取組について、地域住民が気軽に集まれて話し合える拠点(場)が必要とされています。そのために、拠点(場)となる場所について、空き家や営業店舗の一部分等の情報収集を行い、地域住民が気軽に利用しやすい場作りについて活用可能か検討していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーター会議にて情報収集を行った。 ボランティア講座を、総合福祉センターではなく市内の民間企業の貸出スペースを利用して開催した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
拠点の調査・開拓	目標値	3件	3件	3件	6件	6件
	実績値	4件	2件			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援コーディネーター会議に出席し、市や地域包括支援センターと情報共有を図った。 拠点の調査・開拓を行う中で、市内の民間企業の貸し出しスペースを見つけ、調整した結果、その会場でボランティア講座を開催することができた。 					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域の人が集える場について、コロナ禍で使用できなかった、もしくは制限されていた公共施設等の情報収集が必要である。
今後の取り組み方針	コロナ禍で使用できなかった、もしくは制限されていた公共施設や、薬局・スーパーなどの店舗の一部スペースの活用について情報収集を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

地域の人が集える場について情報提供する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	総務課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとび福祉作業所	係名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(12)施設等の整備・充実				
	事業名	②施設の点検・修繕				
	事業の概要	社協が管理運営する施設において利用者が安心・安全に施設利用ができるよう、日頃から施設内外の点検を継続的かつ定期的に行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が安心・安全に施設利用できるよう、社協が管理運営する全施設において、建物及び設備の定期的な点検・保守を実施した。 ・必要に応じて施設及び設備の修繕を行った。 ・事故、破損につながらないように、備品等の設置場所の環境整備を必要に応じて実施した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
点検施設数	目標値	21か所	21か所	21か所	21か所	21か所
	実績値	21か所	21か所			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・施設及び設備の定期的な点検(業者による法定点検や職員による施設及び公用車等の点検等)を実施し、安全な施設運営に努めた。 ・修繕が必要となった箇所については、利用者の安全を優先順位として修繕等を行った。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・施設・設備の老朽化により、修繕箇所が増え、それに伴い費用も増加する施設が出ている。 ・指定管理事業の範囲では実施できない高額な修繕も発生しているため、市担当課との情報共有・連携が必要である。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・点検・保守・修繕を実施して、利用者が安心・安全に利用できる施設運営に努める。 ・職員の施設等の安全管理に関する意識の向上に努める。 ・施設内設備の老朽化が懸念される施設においては、稼働状況に注意しながら管理を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

施設のルールを守り、有効に活用する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	①災害ボランティア講座の実施				
	事業の概要	災害は全て想定内で起こるとは限りません。想定外のことも踏まえ普段から地域のつながりや防災意識を高めるため、これまで災害ボランティア講座を開催してきました。今後さらに地域住民同士が支え合う意識の醸成を図るため、地域住民や社協職員を対象とした講座を開催します。また、災害ボランティアとして活動できる人材を増やしています。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度、延期となった市民向けの災害ボランティア講座を開催した。(1) ・埼玉県社会福祉協議会主催の「災害対応力強化研修」に社協職員が出席した。 ・県内社協連絡会主催の災害ボランティアセンターに関する研修に出席した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
災害ボランティア講座	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	0回	1回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年度、延期となった市民向けの災害ボランティア講座を開催した。朝霞市危機管理室に講師を依頼し、連携を図った。また、防災や災害ボランティアに関する地域住民の意識の醸成を図るきっかけとなった。 ・平時からのつながりとして、昨年協定を締結した第一生命保険株式会社浦和支社に災害ボランティア講座の案内を送付し、社員の参加があった。 ・埼玉県社会福祉協議会等が主催した災害ボランティアセンターに関する研修に社協職員が出席し、知識を深めることができた。 					
	A	<ul style="list-style-type: none"> A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない 				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティア講座に参加した人と、平時からつながることができるような取り組みについて検討が必要である。 ・最新の災害ボランティアセンターについての情報収集を行う必要がある。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・平時からつながりを持てるよう、災害ボランティア講座に参加しボランティア登録をした人に対し、情報発信等を行う。 ・埼玉県社会福祉協議会等が行う研修に、社協職員は積極的に参加する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

災害ボランティア講座で得た知識を家族や周りの地域住民に伝える。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	②災害ボランティアセンター設置訓練の実施				
	事業の概要	災害ボランティアセンターは、社協職員だけでは運営が難しいとされています。そのため、災害発生時、社協が災害ボランティアセンターを設置・運営していくためには、継続的な訓練が必要です。社協職員に限らず、行政や地域住民にも参加を呼びかけ、横のつながりを確認しながら訓練に取り組んでいきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンター設置時に使用する資機材の充実及び点検を行った。(1) ・災害ボランティアセンター担当部署において、災害用伝言ダイヤル171を使用した安否確認訓練を実施した。 ・県社協等が主催する災害ボランティアに関する研修について、社協全部署に周知し、参加者を募った。 					
指標名	名	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
災害ボランティアセンター設置訓練	目標値	1回	1回	1回	1回	1回
	実績値	1回	1回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンター設置時に使用する資機材の充実及び点検を行った。 ・災害時に迅速な対応を行うために、災害ボランティアセンター担当部署において、災害用伝言ダイヤル171を使用した職員の安否確認訓練を実施した。 ・埼玉県社会福祉協議会等が主催した災害ボランティアセンターに関する研修に社協職員が出席し、知識を深めることができた。 					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市(危機管理室等)との情報共有・連携を深める必要がある。 ・災害ボランティアセンターの運営については、担当部署だけではなく、社協内全部署から職員を集め、チームとして検討していく体制を整えていく必要がある。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアセンター設置・運営マニュアルについて見直しを図り、市と情報交換等を行う。 ・引き続き、職員の意識の向上を図るため、災害ボランティアに関する研修等の情報を、全部署に配信し参加を促す。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

災害ボランティアについて関心を持ち、社協が開催する講座等に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	総務課 高齢者・児童福祉課 あさか福祉作業所 はあとび福祉作業所	係名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	③防災訓練の実施				
	事業の概要	社協が管理運営する施設において、火災や自然災害を想定した防災訓練を実施し、平時から災害に備えるとともに、施設利用者や地域住民に対して防災意識の啓発に努めます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> 施設利用者と職員等含めて、火災・地震・水害等を想定した避難訓練を実施した。また消防設備機器等の操作訓練(消火や通報等)を行った。 利用者・保護者宛てに、火事・地震等の発生時の初期対応について、啓発のチラシを配布した施設もあった。 地震発生時の初動行動の訓練(シェイクアウト訓練)を行ったり、保護者等に対し災害伝言ダイヤルの体験を企画したり、水害時の避難場所が民間施設等になっている施設においては徒歩での避難訓練を行ったり、複合施設では合同の避難訓練を実施したり、土日勤務者向けの消防設備説明会を開催する等、それぞれの施設で訓練を行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防災訓練の実施施設数	目標値	21か所	21か所	21か所	21か所	21か所
	実績値	21か所	21か所			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 法令に定める訓練(避難・消防等)を実施することができた。 施設ごとに、その立地、利用特性に応じた訓練を行い、職員・利用者等に防災意識の啓発ができた。 					
	A	<ul style="list-style-type: none"> A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない 				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、通常よりも参加者を減らしたり、内容を変更して実施せざるをえない施設があった。
今後の取り組み方針	法令に定める消防訓練・避難訓練を行い、平時から災害に備えるとともに、新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、利用者だけでなく地域住民にも声かけして参加してもらえる訓練を企画する等、防災意識の向上に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

日頃から防災への開催を持ち、施設等が行う防災訓練に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(13)防災対策の充実				
	事業名	④小地域福祉活動における防災事業の相談支援				
	事業の概要	自治会・町内会やボランティア団体が行う防災関連事業に対し、災害発生時の初期対応や身の回りにあるもので作れる防災グッズ等の情報提供を行ってきました。今後は、災害時の様々な場面で役立つ情報や災害関連の講座案内等、地域住民の支え合いによる防災活動について社協から情報発信を行いつつ相談支援を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響で中止となったが、町内会における防災事業についての企画の相談があった。(1) ・市民向けに災害ボランティア講座を開催した。(1) ・市主催の小学校区避難所開設訓練(市内10校)に社協職員が参加した。 ・小学校区避難所開設訓練において紹介のあった「VACAN」をTwitterで周知した。(1) ・朝霞市危機管理室より依頼があり、朝霞市防災フェアにて、災害時に役立つ紙食器の工作を行うブースを設けた。(1) 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防災関連情報の周知・啓発・相談支援	目標値	3件	3件	3件	6件	6件
	実績値	3件	4件			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティア講座の開催に向けて、周知活動の行い、市民への啓発、講師(行政)との連携づくりができた。 ・市主催の小学校区避難所開設訓練に社協職員が参加し、紹介のあった「VACAN」(避難所の混雑状況が可視化されるアプリ)をTwitterにて周知した。 ・朝霞市の防災フェアでは、災害時に役立つ紙食器の工作を行い、地域住民に向けて災害に対する意識の醸成を図ることができた。 					
	A	<ul style="list-style-type: none"> A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない 				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響で、自治会・町内会や地域活動団体等の防災に関するイベントや講座が中止となり、周知啓発の機会が減ってしまった。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会・町内会や小学校区等の団体が実施を予定している防災に関するイベントや講座等の情報収集を行う。 ・市が主催する防災に関するイベントに継続的に参加する。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

日頃から防災に関心を持ち、地域で実施する防災訓練等に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	高齢者・児童福祉課	係名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	①子どもへの防犯教室の実施				
	事業の概要	社協が管理運営する児童を対象とした施設において、自分の身を守るために普段からできること等、分かりやすく防犯について学ぶための機会を提供します。また、施設間でも防犯対策について情報を共有し、防犯対策の充実を図っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・社協が運営する放課後児童クラブにて、防犯教室を開き、児童が防犯を学ぶ機会を提供した。(10) ・放課後児童クラブ主任会議や児童館長会議にて、地域の防犯に関する情報や対策について、情報交換を行った。 ・朝霞警察署から提供される「地域防犯支援情報」を活用し、社協内で情報共有した。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
子どもへの防犯教室	目標値	10回	10回	10回	10回	10回
	実績値	9回	10回			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後児童クラブ内で防犯教室を開催し、社協職員が紙芝居や寸劇で児童に伝わりやすい工夫を行った。 ・放課後児童クラブや児童館の職員間で情報共有することで、地域の防犯に対する意識の向上に努めた。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	新型コロナウイルス感染拡大の影響で、放課後児童クラブでは、利用を自粛する児童もいたため、より多くの児童に周知できていない。
今後の取り組み方針	自分で自分の身を守れるような知識が増えるよう、防犯教室を継続して開催していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近な地域での見守りや防犯活動に参加する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課 高齢者・児童福祉課	係名	地域福祉推進係
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(14)防犯対策の充実				
	事業名	②住民の防犯への意識の啓発				
	事業の概要	地域住民に対して、朝霞警察署と社協の見守りネットワークの協定により提供される「地域防犯支援情報」を活用した情報提供を行います。また、社協が開催する講座や研修会、集い等の場でも地域の中で取り組んでいる防犯活動の事例を紹介・周知し、防犯意識を高める啓発を行っていきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・朝霞警察署より提供される地域防犯支援情報について職員間で情報共有を行った。(1) ・社協が運営する老人福祉センターにて、埼玉県警察が作成した「特殊詐欺」に関する注意喚起やクーリングオフに関する情報等のポスター掲示したり、チラシを配布し、利用者へ情報提供した。(2) ・老人クラブと協働し、朝霞警察署から講師を招き、防犯教室を開催した。(1) ・社協が運営する放課後児童クラブにて、朝霞市からの不審者情報等を周知し、児童及び保護者に情報提供を行った。(10) ・社協で事業協力を行った地域包括支援センター主催の徘徊高齢者声掛け訓練にて、朝霞警察署より防犯の周知・啓発を行った。(3) 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
防犯関連情報の周知・啓発	目標値	20件	20件	20件	25件	25件
	実績値	13件	17件			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・社協が運営する施設にて、防犯に関する注意喚起、啓発活動を行い、施設利用者の防犯に対する意識付けを行うことができた。 ・職員間で情報を共有することで防犯意識の醸成を図ることができた。 					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	新型コロナウイルス感染症の影響で、地域や施設での講座等が減少し、防犯等に関する情報提供を行う機会が減ってしまった。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシや印刷物など紙媒体を用いた情報提供を継続して行う。 ・地域や施設で行われる講座等での情報提供を行う。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

自分たちの安全は自分たちで守るという意識を持ち、日頃から防犯に関する情報への関心を高める。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	①障害のある人や高齢者の外出支援				
	事業の概要	障害のある人や高齢者が地域で安心して暮らしていくためには、外出時の手段も大切な役割を担っています。その手段の一つである住民による生活支援サービス「あいはあと事業」により、外出を支援していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	あいはあと事業で、高齢者等の買い物同行を行った。(27件)					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
外出支援活動件数 (あいはあと事業)	目標値	30件	30件	35件	35件	35件
	実績値	31件	27件			
進捗状況 及び 自己評価	定期的に利用していた利用会員が入院したため件数が減少したが、新たに地域包括支援センターより紹介があり、季節毎の衣服購入の買い物補助の支援を行うことができた。					
	B	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	地域の身近なお手伝いとして「あいはあと事業」を利用してみようと感じてもらえるよう事業の周知啓発が必要である。
今後の取り組み方針	<ul style="list-style-type: none"> ・あいはあと事業にて、外出を支援する活動(利用会員の身体や車いす等にふれる内容は除く)があることを事例紹介等を通じて周知する。 ・関係機関にあいはあと事業の概要を周知するだけでなく、連携を取り、利用や相談しやすい関係性を構築していく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

身近な地域の支え合いにより、外出を支援する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(15)外出・移動の支援				
	事業名	②車いすの貸出し				
	事業の概要	けがをして車いすが必要になった、病院から退院する際に車いすを使いたい等、生活の中で短期的に車いすを必要とする人へ貸出しを行います。貸出し時には、操作方法について説明し、車いす利用時の事故を予防していきます。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> ・自立歩行の困難な方の社会参加を促進し、また、介護者の日常介護活動を援助し、在宅福祉の増進を図るため、社協で所有する車いすの貸出しを行った。(64) ・適宜、メンテナンスを行った。 ・子ども用の車いすの利用希望があったため、新しく車いすを購入し、体制整備を行った。 					
指標名	年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
車いすの貸出し	目標値	55件	55件	60件	60件	60件
	実績値	61件	64件			
進捗状況及び自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・社協が所有する車いすの貸出しを行った。 ・ケガや病気等による緊急の貸し出しもあったが、柔軟に対応することができた。 					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	長期貸出し希望者(～3ヶ月)が増加傾向となっていて、貸し出せる在庫が少なくなることがあった。
今後の取り組み方針	けがをして車いすが必要になった、帰省や病院からの退院の際に車いすを使いたい等、生活の中で短期的に車いすを必要とする人へ貸出しを行っていく。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

移動サービスの情報を地域の中で共有する。

4 推進委員会の意見(評価)

--

第4期朝霞市地域福祉計画・地域福祉活動計画 進行管理・評価シート

第4期計画掲載内容	部局名		課名	地域福祉推進課	係名	
	基本目標	3 安心して暮らしやすい地域づくり				
	施策の方向性	(16)住まいの確保等への支援				
	事業名	①生活困窮者等への支援				
	事業の概要	住宅の確保が困難な人に対し、住居に関する必用経費の相談や課題の整理を行い、必要に応じて生活福祉資金貸付等の支援を行います。				

1 取り組み内容・成果・進捗状況

R4年度の取り組み内容	住宅の確保が困難な人に対し、住居確保給付金の案内等を行った。慢性的に困窮しており、貸付の対象にならない人には、生活保護も視野に入れた相談を行った。(22)					
指標名	b	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
住宅に関する相談件数	目標値	15件	18件	18件	20件	20件
	実績値	31件	22件			
進捗状況及び自己評価	住宅の確保が困難な人に対し、本人の状況をよく確認・傾聴して、生活福祉資金貸付が対象外であっても、本人にとって必要な情報が提供出来るような支援を行った。					
	A	A 着実に進捗している B ある程度進捗している C 進捗が順調でない				

2 課題・今後の取り組み方針

課題	生活困窮者等への支援について、制度による支援に該当しない相談者が増えている。
今後の取り組み方針	様々な相談に対応出来るよう社会資源の情報収集に努める。

3 協働事項(事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと)

協働事項	住居確保が困難な方がいたら、社協等の相談窓口を紹介する。
------	------------------------------

4 推進委員会の意見(評価)

推進委員会の意見(評価)	
--------------	--

令和5年度第1回
朝霞市地域福祉計画推進委員会
朝霞市地域福祉活動計画推進委員会議事録

令和5年5月19日

福祉部 福祉相談課

別記様式（第4条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第1回 朝霞市地域福祉計画推進委員会 朝霞市地域福祉活動計画推進委員会	
開 催 日 時	令和5年5月19日（金） 午前9時30分から 午前11時38分まで	
開 催 場 所	朝霞市総合福祉センター 第1・第2会議室	
出 席 者	別紙のとおり	
会 議 内 容	別紙のとおり	
会 議 資 料	別紙のとおり	
会 議 録 の 作 成 方 針	<input checked="" type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした全文記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録から文書に書き起こした要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	<input type="checkbox"/> 電磁的記録での保管（保存年限 年）	
	電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間	<input checked="" type="checkbox"/> 会議録の確認後消去 <input type="checkbox"/> 会議録の確認後 か月
	会議録の確認方法 委員全員による確認	
そ の 他 の 必 要 事 項	傍聴者 1人	

令和5年度第1回

朝霞市地域福祉計画推進委員会・朝霞市地域福祉活動計画推進委員会

令和5年5月19日（金）

午前9時30分から

午前11時38分まで

総合福祉センター第1・第2会議室

1 開 会

2 委員長あいさつ

3 議 題

（1）第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の評価について

（2）その他

4 閉会

出席委員（12人）

委 員 長	山 本 美 香
副 委 員 長	渡 邊 俊 夫
委 員	新 坂 康 夫
委 員	尾 池 富美子
委 員	村 串 克 己
委 員	横 田 暁 子
委 員	土 佐 隆 子
委 員	中 村 加津雄
委 員	木 村 宏
委 員	須 田 忠 夫
委 員	森 田 香 織
委 員	垂 水 かおり

欠席委員（6人）

委	員		丸	山	晃
委	員		坂	本	憐
委	員		池	田	玉季
委	員		田	畑	康治
委	員		濱	野	公成
委	員		ウ	ォ	ル
			フ		功

市事務局（4人）

事	務	局	福	祉	部	長	佐	藤	元	樹									
事	務	局	福	祉	相	談	課	長	小	笠	原	ミ	ツ	エ					
事	務	局	福	祉	相	談	課	地	域	福	祉	係	長	平	岡	謙	一		
事	務	局	福	祉	相	談	課	地	域	福	祉	係	主	任	松	本	奈	穂	子

社会福祉協議会事務局（4人）

事	務	局	常	務	理	事	渡	辺	淳	史												
事	務	局	地	域	福	祉	推	進	課	長	白	木	順	子								
事	務	局	地	域	福	祉	推	進	課	長	補	佐	上	馬	場	徹						
事	務	局	地	域	福	祉	推	進	課	地	域	福	祉	推	進	係	主	査	秋	山	晋	司

資料一覧

< 事前配布 >

- ・朝霞市地域福祉計画推進委員会・朝霞市地域福祉活動計画推進委員会 次第
- ・令和4年度第4期朝霞市地域福祉計画進行管理・評価シート（案） 委員会会議資料（抜粋版）【朝霞市】
- ・令和4年度第4期朝霞市地域福祉計画進行管理・評価シート（案） 委員会会議資料（抜粋版）【社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会】

< 当日配付 >

- ・朝霞市地域福祉計画推進委員会・朝霞市地域福祉活動計画推進委員会 委員名簿
- ・令和4年度第4期朝霞市地域福祉計画進行管理・評価シート（案）【朝霞市】
- ・令和4年度第4期朝霞市地域福祉活動計画進行管理・評価シート（案）【社会福祉法人 朝霞市社会福祉協議会】

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

◎1 開会

○事務局・平岡係長

皆様、おはようございます。

定刻となりましたので、朝霞市地域福祉計画推進委員会及び地域福祉活動計画推進委員会を始めさせていただきます。

本日は、お忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

本日、司会を務めさせていただきます、福祉相談課の平岡でございます。どうぞよろしく願いいたします。着座にて失礼いたします。

まず初めに、本会議は会議録作成のため録音させていただきますので、あらかじめ御了承ください。また、本日の委員会の様子を写真に撮影し、広報紙やツイッターなどの広報媒体に掲載させていただきたいと考えております。もし、写真の掲載を御希望されない方がおられましたら、職員にお声掛けください。大丈夫でしょうか。

後ほどでも大丈夫ですので、お声掛けいただければと思います。

また、本日の会議は録音の関係で、マイクを皆様の机の上に置かせていただいております。大変お手数ですが、発言の際、同じ列の方でお回しいただいて御活用いただければと思っております。マイクの電源につきましては、今、全てオンの状態になっておりますので、そのままお話いただければ大丈夫です。

続きまして、本会議は「市政の情報提供及び審議会等の会議の公開に関する指針」により、原則公開となっておりますので、既に傍聴の方には入室をさせていただいております。御了承ください。

また、この後傍聴を御希望の方が会議の途中でいらっしゃった場合につきましても、定数の範囲の中で入室をさせていただきますので、あらかじめ御了承ください。

◎2 委員長あいさつ

○事務局・平岡係長

それでは、開会に当たりまして、山本委員長から御挨拶をいただきたいと思っております。

委員長、よろしく願いいたします。

○山本委員長

皆様、お久しぶりでございます。おはようございます。

お忙しいところをお集まりいただき、ありがとうございます。今日は、また後で説明があります

けれども、特に地域福祉計画、活動計画の評価で、重点的評価施策をしたところを中心に御意見を頂くということになっておりますので、是非ともどこからでも結構ですし、御自分の専門ではないなというところでも、むしろそちらの方が良い意見が出るかもしれませんので、是非、忌憚のない御意見をたくさん頂ければと思います。

今、コロナがある程度収まってまいりましたけれども、一方で地域を振り返ってみますと、なかなか生活に困っていらっしゃる方がますます増えて来たりですね、地域活動が停滞してしまったり、あるいは消滅してそのままもう一回復活が出来ないというような、そういったところも活動団体もあるというふうに聴いておりますので、難しい状況にあることは間違いないのではないかなと思います。それでも進めていかなければいけない、その中で地域福祉計画、活動計画というのは、これまで以上にその存在意義が高まっているというふうに言えると思います。是非とも、いろんな意見を今日は出していただければと思います。よろしく願いいたします。

○事務局・平岡係長

ありがとうございました。

それでは、議事に先立ちまして配付資料の確認をお願いいたします。事前に郵送させていただきまして、本日お持ちいただいた資料について、まず確認をお願いします。

1番目に「次第」、2番目に朝霞市の「令和4年度第4期朝霞市地域福祉計画進行管理・評価シート（案）委員会資料（抜粋版）」、続きまして、社会福祉協議会の「令和4年度第4期朝霞市地域福祉活動計画進行管理・評価シート（案）委員会資料（抜粋版）」、の3点になります。事前に送った資料になります。こちらの3点ですけれども、お手元にごございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

今、御確認いただきました朝霞市の会議資料の抜粋版について、補足の説明をさせていただきます。朝霞市の抜粋版の1ページ目、2ページ目ですが、その次のページに同じ内容のものが2枚、とじ込んで製本してしまっているものがあるかと思います。皆さんのものがそうなっている可能性がちょっと高いのですが、もし1ページ目、2ページ目が2枚あるようでしたら、こちらにつきましては、同じものになりますので1枚削除していただくという形で対応していただければと思います。

引き続き、資料の確認ですが、本日机の上に事前に置かせていただきました資料の確認になります。封筒の外に置いてあった書類ですが、一つ目として、「委員名簿」、次が事前に今確認をいただきました抜粋版の差し替えの部分になってしまうのですが、朝霞市の抜粋版の2ページ目のA4サイズの1枚のシート。それから2ページ目が、上から3行目に「施策の方向性」というところで、「(1) 地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり」と書いてある2ページ目の差し替えのシートに

なります。もう1枚ですね、2の(7)の⑤と書いてある「市民活動の周知・啓発及び参加の促進促進」と書いてあります19ページ目の差し替えのシートになります。

こちらまでは、まず大丈夫でしょうか。

引き続き、社会福祉協議会の差し替えの部分になりますので、社会福祉協議会の方に代わらせていただきます。

○社会福祉協議会事務局・上馬場課長補佐

皆様おはようございます。社会福祉協議会の上馬場と申します。よろしくお願いたします。

着座にて説明させていただきます。

社会福祉協議会の資料ですが、どちらかといいますと白い色の紙が社会福祉協議会の資料になりますので、お手元のところの確認をお願いしたいと思います。

社会福祉協議会、2点あります。

まず、机の上にA4サイズで1枚、白色の紙で差し替えのものになりますが、1番下の真ん中の辺りに8ページと書いてある「ボランティア・実習生の受け入れ」という1枚があると思いますが、そちらが今日の抜粋版の8ページの差し替えになりますので、よろしくお願いたします。

続いて2点目になります。

本日お持ちいただいた資料の抜粋版になります。そちらの12ページを御覧ください。

12ページの真ん中の辺りに「指標名」というところで、共同募金の募金額の実績というところの欄があるかと思えます。そちら訂正がありまして、令和3年度のもので大変申し訳ございませんが、実績値「10,742,898円」と記載がありますが、年度末に収納されていた募金額が計上されておりませんでしたので、金額が変更となりまして、「11,063,398円」に修正させていただきます。大変申し訳ございませんが、よろしくお願します。

以上、2点になります。

○事務局・平岡係長

引き続き、今日机の上に置かせていただきました封筒の中身の確認をお願いいたします。

封筒の中身ですけれども、朝霞市の「令和4年度第4期朝霞市地域福祉計画進行管理・評価シート(案)委員会会議資料」となっております。もう一つが、同じく社会福祉協議会の「令和4年度第4期朝霞市地域福祉計画進行管理・評価シート(案)委員会会議資料」となります。

封筒の中身にあります資料については、そのものですけれども、こちらについて不足等はございませんでしょうか。

大丈夫でしょうか。ありがとうございます。

封筒の資料については、次回の会議で使用いたしますので、本日お持ち帰りいただければと思っ

ております。

また、こちらの会議に当たりまして地域福祉計画の計画書、冊子の方ですが、お持ちでない方はいらっしゃいますでしょうか。

大丈夫でしょうか。ありがとうございます。

○事務局・平岡係長

それでは、会議に入りたいと存じます。

本日の委員の皆様のお出席状況ですが、委員18人中12人の方の御出席をいただいておりますので、朝霞市地域福祉計画推進委員会条例第7条第2項の規定に基づきまして、会議が成立していることを御報告いたします。

また、本日の委員会の議事に先立ちまして、事務局から簡単ではございますが、進行について御説明をさせていただきます。

昨年度は、事務局から評価シートの説明をさせていただき、委員の皆様から御意見等を頂く形式で進めてまいりましたが、御意見を頂く時間が短くなってしまいました。そこで、資料の郵送をさせていただいた際に、評価シートの事前確認をお願いいたしておりますので、この後の進行におきましては、事業の概要などは省略させていただき、御意見、評価を中心に議事を進めたいと思えます。

具体的なやり方について申し上げます。市の方のこちらの抜粋版の茶色っぽいシートと、白い社会福祉協議会のシート、それぞれ1枚表紙をめくっていただいてもよろしいでしょうか。

表紙をめくっていただくと、左側のページが目次のような形になっております。本日、評価等をしていただくものが、この丸の付いている「重点的評価施策」と書いてあります、5つの項目を予定しております。

それぞれ例えばですが、茶色い方の市の冊子で見いただきますと、「(1) 地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり」というところで、「市」のところ「5」という数字が入っています。引き続き、この冊子中の1ページ目から5ページ目までの、5個の項目がこの(1)に該当するというような形になっておりますので、社会福祉協議会の方になりますと、それが「3」となっていますので、白い方の冊子については、1ページ目から3ページ目がこの(1)に該当するというような形のとじ込みになっております。

進行の中におきましては、委員長から、まず、(1)の単位で御意見等を伺えればという形で皆さんにお伺いしますので、皆様から御意見を頂く際ですが、どちらの冊子の方の御意見なのか、市の方のものなのか社会福祉協議会の方のものなのかをお伝えをいただいた上で、御意見を頂くページをお伝えください。例えば、市の3ページ目について御意見を頂けるというような形で言っていた

できればと思います。

簡単ではありますが、このような形で進行していきたいと思いますが、御不明な点は大丈夫でしょうか。よろしいですか。

なお、7月に予定しております第2回目の推進委員会におきましては、机の上に置かせていただきました封筒の資料、こちらを使って、本日審議した部分を除いた箇所を対象としたいと現在考えております。

以上が、進行の方法になります。

それでは、ここからは山本委員長に議事の進行をお願いしたいと思いますので、よろしくお願ひします。

委員長、お願いします。

○山本委員長

ありがとうございました。

◎3 議題 (1) 第4期朝霞市地域福祉計画・朝霞市地域福祉活動計画の評価について

○山本委員長

それでは、本日の議事に入りたいと思います。

今、御説明がありました、今回は、1個1個説明はなさらないということで、前回、説明の方が長くなってしまって皆様からの御意見を頂く時間が短くなって、もったいないということで、今日は事前に見てきていただいているということで、そこから御意見を頂くというふうにしたいと思います。

とはいえ、ばらばらになると分かりにくいので、今御説明いただきましたけれども、少し茶色がかった方の1ページから5ページまでが、「地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり」というところの中に項目が入る事業名になっております。そちらの方と、白い方、社会福祉協議会の「地域福祉活動計画」では、1ページから3ページまで、こちらと同じく「地域共生社会の実現に向けた仕組みづくり」という大きな目標、方向性があるわけです。それに該当する事業名というものが入っております。こちらについて、まずは御意見を頂くということで順番に進めていきたいと思ひます。

どなたからでも結構ですので、質問みたいなことでも、どういうことでしょうかということでも結構ですので、よろしくどうぞお願いいたします。

○木村委員

シルバー人材センターの木村と申します。よろしくお願ひします。

私の方から、事業に対する意見とか評価というよりは、それぞれ市なり社会福祉協議会の方が行った評価に対しての確認というか、そのような形になるかと思うのですが、よろしいですか。

まず、朝霞市の方の「①重層的支援体制整備事業の検討」についてですが、シートの方を見ますと、目標値の方が検討をするというような内容になっております。検討ということですので、なかなか自己評価も難しい点もあるのではないかなと思うのですが、今回、令和4年度は、実績値見ますと、「情報収集・研修」ということで「B」評価がされております。

進捗状況を見ますと、いろいろ「部内で支援体制に関する研究チームを作り」とありまして、研修を実施した、あるいは最新の情報収集に努めたということの、この文章を見ただけでは、数値ではないのでなかなか評価という点では読み取ることも難しいと思うのですが、どのような形で「B」評価にされているのかということで内容を確認させていただければと思います。

○山本委員長

ありがとうございました。

重層的支援体制整備事業は、任意ではありますが各自自治体がすごく進めていることなので、朝霞市の方も検討中だと思うのですが、「B」というのはどういう根拠でということなのですが、いかがでしょうか。

○事務局・小笠原課長

福祉相談課長の小笠原です。よろしくお願いいたします。

今回、「B」評価を付けたということなのですが、前は全く進んでいなかったのが「C」評価、「進捗が順調でない」ということでR3年の評価をさせていただいたところ、今回、R4年度につきましては、全く何もしていないというよりは、ワーキンググループを立ち上げまして、こちらにも書いてあるのですが、先進市の事例視察等も行いましたので、「進捗が順調でない」よりは、少しずつでも進捗しているので「B」を付けさせていただいた状況でございます。

以上です。

○山本委員長

ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。

○木村委員

ありがとうございます。

検討ですので、難しい部分はあるかと思うのですが、やはり今後の取組方針を見ましても、大体同じような内容になってしまうのではないかな。この年度内においては、「B」評価が続いていくのかという気もしているのですが、その辺は今後も検討を進めていただければと思いますので、よろし

くお願いいたします。

以上でございます。

○山本委員長

ありがとうございます。

これ、ちょっと私の方も聴こうかと思っていたのですが、どういう方向でというか、連携ということなのですが、何が難しい、朝霞市としてはまだここが難しいという課題みたいなものは見えているのでしょうか。その辺教えていただければと思います。

○事務局・小笠原課長

重層的支援体制整備事業の課題でございますが、関係機関との連携ということと、重層的支援体制の構築がまだされていなくて、社会福祉協議会と一緒にやっていきたいという気持ちもでございます。また、連携を図るための仕組みや仕掛け、そのところがまだ十分ではないので、それをしっかりとやっていくことが課題だと思っております。

以上です。

○山本委員長

ということは、ほかの福祉課の方ではこういうのを進めていくということは。

○事務局・佐藤部長

福祉部長の佐藤です。お世話になります。

重層的支援体制整備、市の方の課題ということで、縦割りの意識が非常に強くて、やはり障害は障害、高齢者は高齢者、生活困窮は生活困窮という縦割りが、今まで相談支援体制がやっていたというような影響で、そこを複合的な課題だとか地域の課題だというところを包括的に解決する相談の体制を作っていくというのが、地域福祉の課題になってございます。

ですが、やはり市役所の方とすると縦割りの意識がやはり強くて、横の連携がなかなか取れていないというのが現状でございます。そこを昨年度は、各部署、各担当のワーキングチームを作って、まずは県のアドバイザーの人にも来てもらって研修をしたというところで、少しずつですが検討を始めたことにはなっております。今までは何も、福祉相談課を作って全般的な相談をしますと言いつつも、なかなか縦割りが、連携が取れていなかったということでございますので、そういったところをまず職員の意識を変えていく。そして、社会福祉協議会ともこういったコロナの課題もございましたので、生活困窮、貸付けなどを社会福祉協議会も担当していただいていたので、そういったところも市と連携を取れるようになってきましたので、少しずつですが検討をし始めておりますので、ゆくゆくそういった国の方の支援体制に準じた形でやって行ければなというふう思っております。

課題は、以上です。

○山本委員長

ありがとうございます。

庁内での横の連携ということもあるし、住民参加で進めるか行政参加で進めていくかということで、非常に大きな重層的支援体制整備の課題がありますので、その辺も引き続きやっていっていただければと思います。

この件に関して、何か皆さんの方から御質問等ありますか。あるいは、御意見。

よろしいですか、重層的支援体制整備の検討に関しては。

では、もちろんこれでも結構ですけれども、何かほかに御意見があればどうぞお願いいたします。

木村委員。

○木村委員

今度は、社会福祉協議会の方ですけども、②の「身近な福祉圏域の検討」、こちらも事業名としては検討という言葉が入ってくるのですが、こちらもやはり目標値と実績の関係になってしまうのですが、まず、目標値として令和3年度から5年度までは「調査・研究」というふうに書いてありますが、令和3年度、4年度の実績というのを見ますと、それぞれ回数、「2回」、「3回」といった回数が入っているんですけど、この辺の「調査・研究」目標値であって、実績が2回、3回って何をもってこのような回数が入ってきたのかというのを確認させていただければと思います。

○山本委員長

ありがとうございます。

社会福祉協議会、お願いいたします。

○社会福祉協議会事務局・上馬場課長補佐

社会福祉協議会の上馬場と申します。

社会福祉協議会の2ページの「身近な福祉圏域の検討」というページになるかと思いますが、そちらの実績値、令和4年度、「3回」というところになりますが、その数字の上のところを御覧いただいて、「R4年度の取り組み内容」というところで、細かくは数値を取っていないので大枠のところなのですが、この中に入っているものが3点あるわけですが、ここを取らせていただいております。

まず、取り組み内容の3行目のところ、「令和4年度は、」というところで、地域アセスメントシート の 地区ごとの更新を行わせていただきました。これが1点目です。

続きまして、5行目「あわせて、」の次になります。社会福祉協議会の方では、6地区の設定をさ

せていただいておりますが、市の方で生活支援体制整備事業の方を包括支援センターでやっていらっしゃると思いますが、この福祉圏域、圏域が違うのですが、こういった連携ができるかというところを検証させていただいたというのが2点目になります。

続きまして、3点目の「また、」というところで、社会福祉協議会が行っている住民参加型在宅福祉サービス、「あいはあと事業」の登録分布表の作成をして、こういったところの地区の方がお困りごとの多いのかかいうところの実態把握をさせていただいたというところで、3回というふうに表させていただいております。

以上になります。

○山本委員長

ありがとうございます。ちょっと分かりにくいかもしれないですね。

ということは、情報整理を行うことと、福祉圏域の検討を行うことと、登録分布表を作成して実態を把握したということで3回という感じだと思うのですが。これは、そういう調査・研究を3回分やったという感じですか。そういうことなんですかね。

○社会福祉協議会事務局・上馬場課長補佐

そうですね。調査・研究と内容を把握させていただいたという形の。

○山本委員長

右側、3ページの方も、もしかしたらそういう同じような感じですかね。「調査・検討」で何かその、2回、3回やりましたという感じですかね。

○社会福祉協議会事務局・上馬場課長補佐

はい。取り組み内容のところに書いてある内容ですね。

○山本委員長

木村委員がおっしゃったように、これだと何を2回やったのですかというの、ほかの方も同じじゃないかなと思うのですが、どう書いたらいいでしょうかね。

例えばですね、表記の仕方が難しいのですが、「R4年度の取り組み内容」というところで細かく書いてはいただいているんですけども、その中に今年度は「身近な福祉圏域の検討」については、以下のものは3回行った、1回目は何々、2回目は何々と書くと、下のがそういう意味なのかというのが多少分かりやすいかなというふうに思いますけれども。

木村委員、いかがでしょうか。もし、そういうふうにご覧いただくとすると。

○木村委員

確かに委員長がおっしゃったように、分かりやすさはあるかと思うんですけど、ここでちょっと一つ気になるのがですね、この目標値を見たときに、令和6年度、7年度に行くと「1回」「2回」

という数値が入っているんですね。これと、今回の2回なり3回という数値の関連というのはあるのでしょうか。

○山本委員長

1回しかしないというのではなくて、多分プラスアルファしていくという意味なのではないかと。どうですか。

○社会福祉協議会事務局・上馬場課長補佐

御意見ありがとうございます。

我々も、この数値をどうやってとっていくかというところは、悩ましいところかなと思いますが、「身近な福祉圏域の検討」というところで、先ほどもお伝えしたのですが、いろいろなところで圏域が違うんですね。包括支援センターであったりとか、民生委員の方たちとか圏域が違うところで、社会福祉協議会は、社会福祉協議会で小学校区を中心に5か所に分けていたわけですが、その社会福祉協議会の地区割りが、何を以て妥当かというのは皆さんの御意見も聴いていかななくてはいけないなと思いますが、そこをそのままその圏域で進めていくかどうかも含めての検討という形を今しているのですが、実際には、目標値の結果をそこで出すのが「1回」という言い方になるのかどうかというのも、また皆様に御提示してからという形になるかなと思いますが。

○山本委員長

そうですね。ですから、令和6年度、7年度の「1回」「2回」というのは、この令和3年度、4年度でやっているようなところにまだ上乘せする形で検討していくということなので、だから1回しかやりませんという意味ではないというふうには思うのですが。何か回数で示されると、確かに減少しているじゃないかというふうに見えるような気がしますね。示し方が少し難しいのは、確かですね。

どうぞ、尾池委員。

○尾池委員

社会福祉協議会の3ページですけれど、コミュニティソーシャルワーカー、CSWに関することなのですが、私、この委員会で何度か聴かせていただいているのですが、ずっと検討します、検討しますだけで来て、やっとこれで令和7年度に「設置」という言葉が出ていたのですが、いつもと文言は一緒だったんですね。それは、他市も比較してみたりとかね、そういう文言もあったのですが、他市との比較とか学習会をする中で、朝霞の特性というものがどんなものなのか。だから、設置がなかなか難しかったのかとか、そういう具体例が何もないまま、いつも検討します、他市を学習しますというその文言だったのですが、なかなか結論が出なかったということは、朝霞ならではの特別の課題があったのかなと思いますので、私も社会福祉協議会のはここだけ付箋を付けてき

て、これを伺いたかったんですね。だから、そういう形から行ったら、ある程度見通しが付いてきたから今年は1回のミーティングで終わりだよとね、そういう目標の数がなぜかが見えてくるかと思うんですね。検討していきますという内容がなかなか具体的に示されていないので、なぜ1回なのか、2回なのかという、そのなぜが見えて来ないのかなと思って、私は印を付けてきました。

○山本委員長

ありがとうございます。

恐らく、今、尾池委員もおっしゃったし、木村委員もおっしゃったのですが、経過が見えないという感じで、どういうふうになっているから今ここまで来て、最終的な一応ゴールというところまで行きますよというのが、ちょっと見えにくいかなと思うので。

ただ、こういうことが、回数とか何人とかというのは難しいのは分かるので、もう少し取組内容とか進捗状況の辺りに、これまでの経過とか、今ここが課題でこういうことがまだ難しいですよ。でも、ここまで行きますよというようなことを分かるように書けると、今、ゴールまで向かっていて、2回目はこういうことをやった。そして3回目にこうでというのが、皆さんに納得がいくのかなと思うので。書いてはくださっていると思うのですが、外から見たときに、その経過が分かりにくいのだと思います。

社会福祉協議会とか市役所の方は、流れが分かるのでこうでしょうというのが分かるのだけど、恐らく私たち、私も含めて流れがどうも分からないので、ぽこっとそこに回数だけ出されるというように見えてしまうのではないかなと思うのですが、ちょっとその流れを書けないのでしょうか。そうすると、今、おっしゃったように、なぜ7年度にはできるのか。それと、今までできなかったというのはどういうところがハードルだったのかということを理解していけるのかなというふうにするのですが。

先ほども、私が、重層的支援体制整備のところでは何がハードルになっているのでしょうかというふうに聴いたのは、それも同じような疑問でした。どうですか、書き直すのは難しいですか。

○社会福祉協議会事務局・上馬場課長補佐

ありがとうございます。

今、頂いた御意見の中で前年度のものを書いていくと量が多くなってしまいますので、いろいろコンパクトにしていかななくてはいけない部分もあるとは思いますが、今、頂いた御意見を精査というか、うちの中の情報を精査させていただいて、今回から訂正をとるか、次回から、もしよければ、そういった流れを含めて記載させていただければと考えておりますが、いかがでしょうか。

○事務局・佐藤部長

委員長、いいですか。

シートの書き方についての御指摘かと思うのですが、一応、社会福祉協議会の方は細かくは書いていただいていると思っています。例えばシートの3ページの「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置」についても、ハードルになっているのは、このシートの「2 課題・今後の取り組み方針」というところで、課題としては「人材の育成が必要である」、また、「イメージが固まっていない」というような、全然検討もまだ最初の段階だというような状況で、「今後の取り組み方針」としても、「配置に向けて検討を行う」「他市の状況等について調査する」というような取組方針を一応書いてはいただいて、今後の流れもこうやって取り組んでいきたいというようなハードルをクリアしていただくような形の記載は細かくしていただいているのですが、後は見せ方になってくるかと思しますので、そこは申し訳ございません、ちょっと考えさせていただければと思います。

○山本委員長

そうですね、ずっとこういうふうにしてきたのですが、この書き方、今回はこれとしても、少し今後については、その流れとか今の課題とか、課題は下に書いてあるけれども、流れや動きが見えるような書き方の工夫が、以降は必要かなというふうに思います。ありがとうございます。

木村委員、尾池委員、いかがでしょうか。

今回、一応書いてはあるのですが、それが少し離れて書いてあったりして分かりにくいというところがあるので、今回少し、もうちょっと分かりやすく何の回数かというのを書くことや、書き方の工夫とかは必要だけれども、このフォーマット自体を全編的に変えるということは難しいようなので、それは、次回以降の課題ということによろしいでしょうか。

○山本委員長

はい、どうぞ。

○木村委員

委員長がおっしゃったような感じでいいかと思えますけれども。

ただ、ちょっとやっぱり気になって、今、課題等をいろいろ下に書かれていて、いろいろな課題がまだあるんだということなのであれば、特に回数は入れなくても。先ほどの朝霞市のように「情報収集」とか「検討」とかいう実績値としての書き方でもいいのかなという気もするんですけども。

○山本委員長

どうですか。副委員長がちょっと難しいなとおっしゃっていて。

副委員長、何かありますか。

○渡邊副委員長

「課題と今後の取り組み方針」のところのポイントが、よりはっきり分かるような文章化ができると、現状の把握ができるのかなという感じがすごくするんですけども、あったらいいなという形のような回答になっているような感じがちらっとするので。一番のポイントのところ、それがうまく次年度につながるような形のものがうまく表現できると、課題が、よりもうちょっとはっきりするのではないかと。相談体制とか、いろいろそういう中でも多様なものがあるので、その中でポイントの一番核のところはどこかなということで、表現がより明確化される表現がうまくできると見やすいのかなという。

あっちもこっちも、みんなみたいな形でちょっと感じるようなところもあるので、そんな感じがするのですが、いかがでしょうか。その表現もまた難しいと思うんですけど。ソフトの部分なので、評価するのにね、こういうのがベストという形が完全に見えるものではないと思うので、そういう中での課題をうまくまとめられると見やすいかなという感じがするんです。そんな感じがします。

○山本委員長

ありがとうございます。

どうぞ。

○横田委員

横田と申します。よろしく申し上げます。

私も、社会福祉協議会の方の3ページがとても気になって、大きな2番の課題というところに、本当に「本会におけるCSWの役割や配置のイメージが固まっていない。」と書いてあるところ。本当に正直に書いてくださったなと思って、私も納得と思ったのですが、市民から見たらもっと分かりにくいというところがあって。

一つ、この中の文言の中にですね、上の「事業の概要」というところ、真ん中辺に「近隣住民や生活支援コーディネーターなどの関係者」と書いてあると思うんですけども。地域包括支援センターの方では、この立場の方を生活支援コーディネーターといっています。そして、社会福祉協議会の方では、多分このコミュニティソーシャルワーカーを設置といいますが、事業内容の主たる立場の人を、これから令和7年度に設置というふうになっていると思うのですが。市民の目からすると、本当に分かりにくい。横文字ですし、これから設置するということであるので、もう少しこの辺を市民の目線から分かりやすいように、どこにどう相談したらいいのか、生活の本当に身近な困りごとというところの道筋をはっきりと、どこに行ってもいいんだよ、社会福祉協議会でもいいんだよ、包括でもいいんだよという話なんですけれども、その辺がこれからどんどん高齢化していく

中で、市民の目線が見えない。市民の目線で表現しないと、本当に私達困ってしまうというのがありますので、これから設置する内容なので、是非そのところも分かりやすく、地域包括支援センターとの垣根ですとか、いろいろあると思うのですが、その辺の整理ができていると我々もとても有り難いと思っています。

以上です。

○山本委員長

ありがとうございます。

御指摘のとおりで、生活支援コーディネーターとコミュニティソーシャルワーカーとどう違うのか。なぜ今頃コミュニティソーシャルワーカーの配置だけ書いてあるのか、多分何だろうという感じだと思いますね。

もしかしたら、細かく書こうと思ってくださって、細かく書いたがゆえに、かえって市民の方に分かりづらくなっているというのがあるかもしれないですよ。もう少し大まかに、何を目標としてこうしているんだという、大きなところを書いていただいた方がいいのかもしれないですね。

ちょっとその点を公募市民の方、森田委員と垂水委員に聴いてみましょうかね。これがぽんと出てきたときに、はいよく分かりますという感じになりますか。

森田委員、どうでしょうか。分かりますか。

○森田委員

今回、これを送っていただいたときに、やはり、先ほどおっしゃっていた横文字であったり、何とかワーカーとか。まず、最初に思ったのが、私には関係ないかなという。余りにも分からなさすぎて関係ないかなというか、使いこなせないかなというのが、まず、最初に入ってきました。これが、正直な意見で、そこから調べたり聴いたりして結構時間が掛かってしまって、私ですらそう思うってしまうということは、もっと情報を取り入れるのが難しい方、スマホを使えないとか聴く相手がないとか、御近所の方でいらっしゃる、そもそもお耳がちょっと不自由な方は、もう聴けないとおっしゃっているので、もう少し全体的にですが、分かりやすく書いていただけると本当にそもそも知識がない身としては有り難いかなと思いました。

○山本委員長

ありがとうございます。

関係がないと思われてたらね、作る側として本当にもったいないですね。本当に一生懸命書いていただいているのね。

垂水委員、いかがでしょうか。

○垂水委員

先ほどもちょっと触れられたと思うのですが、課題のところ、「本会におけるCSWの役割や配置のイメージが固まっていない。」と書かれているこの文章を見たときに、イメージが固まっていないことを今からするのかなと思ってしまって。これを取り入れるといった段階でイメージが固まっているから、こういう事業をするというふうになるんじゃないかなとちょっと不思議に思いました。

○山本委員長

ありがとうございます。

CSWが分からないということではなくて、その配置イメージというのが、先ほど福祉圏域の話がありましたが、どこにどういうふうに配置していくのかというのが、まだ、社会福祉協議会の中で、市役所との関係もありますし決まりにくいのかなという感じなんだろうと思いますが。

確かに、読みようによっては、CSWって一体何をやるのかというのが分からないみたいに読めちゃうので、この辺の表現も少し、令和7年度、あと2年でやるわけですから、1年半ですね。ですので、もう少し書き方に工夫が要るかなというふうに思います。

どうでしょう。社会福祉協議会の方にはかなり集中攻撃になっておりますけれども、それだけやっぱり身近なところで展開されているので御質問が集まっていると思うのですが、特にこの最初のところは、すごく細かく書いてあるので、もしかしたらもうちょっと細かくというか、事業でどうしたこうしたというよりは、大きなところでどの辺まで進んでいて、どういうふうにしていくということの方が市民目線ということでは分かりやすいのかなと思います。もうちょっとだけ、今回工夫しましょう。以降、ちょっと考えていきましょう。

書き方について、そんな感じでどうでしょうか、社会福祉協議会の方。

すみません、何かいきなり難しいことを振りまして。

○社会福祉協議会事務局・白木課長

社会福祉協議会の白木と申します。

いろいろ御意見を頂戴いたしまして、ありがとうございます。

ちょっとどうしても内部のいろいろな各部署の調査から、情報もいろいろ拾って、福祉推進課だけではやはり地域の事業はできないので、いろいろな社会福祉協議会が持っている施設だったり部署であったりというところがいろいろな地域に出て活動しているという、社会福祉協議会の職員として活動しているということも含めまして、今回ちょっといろいろな部署からいろいろ聴き取った内容を掲載させていただいたのですが、それ全体を通して地域福祉推進課として、今この施策はどうなっているかというところの記載の仕方にした方が良いのかなというふうに、今ちょっと感じたところではありますので、今後作成していくところでは、山本委員長がおっしゃっていたように

大きな枠で書いていくような方向で考えていきたいなというふうに思っています。

あと、先ほどコミュニティソーシャルワーカーのお話が出ていたかと思うのですが、役割や配置のイメージというところですが、コミュニティソーシャルワーカーが社会福祉協議会独自で設置をして、社会福祉協議会だけでやっていきたいと思いますという形であれば、もちろんほかの役割というのでもできるのですが、先ほど横田委員がおっしゃっていたように、生活支援コーディネーターもある、これから重層的支援体制整備事業もあるという中で、社会福祉協議会として、どういうふうに配置をしていったらより効果的な配置になるのかなというところが、イメージとしてやはりまだつかみきれてないというところになってくるのかなというふうに感じております。

なので、そのところは、行政の方であるとか、福祉相談課はもちろんですけども、長寿はつらつ課ですとかいろいろなところにまたがって、より住民の方々が使いやすい、同じようなものがたくさんあるけれども、どこに行ったら良いか結局分からないから行けなかったというような形にならないような工夫をしていきたいなというところで、効果的な配置、配置のイメージというか効果的な配置がどのようにしたらいいのかというイメージがちょっとついてないという思いで記載してきたというところなので、ちょっと言葉が足りないところもあったと思うのですが、そういうふうに解釈していただければと思いますので、よろしく願いいたします。

○山本委員長

正に今、おっしゃった説明のとおり書いていただくとすごく分かりやすいし、固まってないではなく、どう役割分担していくかとか、地域の中での役割をCSWは持っていくかということは今、検討していますというのだったら、分からないわけではなくて、分かっているじゃないかということが、すごくこちらに伝わってくるかなと思います。書き方の問題ですよ。

ありがとうございます。

市の計画の方は、いかがでしょうか。ここばかりやっているわけにいかないですけど、どうでしょう。一番上のところはやはり大事なので、もうちょっとだけやりたいと思って。

皆さん、私の方からのお願いなのですが、こちらの社会福祉協議会の活動計画、市の地域福祉計画の方で、いずれも3番目に「協働事項」というのが下の方にあります。下から2番目の枠の中に「事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと」というのがあるんですね。これ最初は、市役所の方も社会福祉協議会の方もとても遠慮をされていて、こういうことをやってくださいというのが申し訳ないかなということであんまり書いてらっしゃらなかったんですけども。でも、先ほど冒頭でも申し上げましたけれども、これから地域共生社会って、批判はありますけれども、市民が自分たちの地域のためにどういうことをしていくのかという社会参画の一つでもあるんですよ。ですので、私たちはこの朝霞市のためにこういうことをしていくんだと、されるさせら

れるではなく、していくんだという表明という意味でもあるので、ここをどうしていったらいいかなというのは、むしろこの委員会の中で皆様の方からお聴かせいただきたいなというふうに思っているのですが、いかがでしょうか。

例えば、市役所の計画で2ページですね、「協働事項（事業推進のために、市民や地域に協力してもらいたいこと）」というところに、「生活に困窮している人を身近で見かけたときに、相談先を案内してもらおう。」ということを書いてくださっているんですね。もちろん、これすごく大事なことで、口コミでいろいろな相談先があるよというのを伝えることが市民の役割という。もっと何かあるんじゃないかというふうに考えたときに、どんなことを市民としてやっていくのかということで、ここの書き方はどうですかみたいもの、皆さんいかがでしょうか。

横田委員、どうぞ。

○横田委員

今、委員長の方からおっしゃっていただいた、この3番の「協働事項」というところで、とてもいい欄が、今回が読ませていただいて、正にやらされるのではなくて、市民が自らこうやるんだという今頂いたお言葉、本当に私も素晴らしいなと思って。

やっぱり、自ら市民が立ち上がって発信していくという方向に持っていく、そして、みんなで市を盛り上げていくということが、これから大事なのかなと。それは、高齢になっても一緒かなと思って、ここの言葉を一つ一つ確認させてもらいましたけれども、遠慮なく言ってもらいたいっていうのがあります。これをあらゆる場で、例えば地域に市の方が講師で来た場合ですとか、社会福祉協議会が来てくださった場合も、都度、市民の皆さんに発信してもらえればいいかなと思っていました。だから、ここの欄の一つ一つをなるほどというふうに参考にさせていただきました。

すごくいいと思います。よろしくお願いします。

○山本委員長

ありがとうございます。

生活に困窮している人ということで、生活に困窮しているのに市民が何かできるかというのは難しいところもあるのですが、例えばこの生活困窮者自立支援法というのは、ここの「事業概要」にも書いてあるのですが、就労支援や学習支援、住居確保給付金というのはちょっとあれなんですけど、就労支援、学習支援に関しては、例えば就労先として市民の中で商店街とか様々な企業とかがあれば、そういうところが協力するというところもあるでしょうし、学習支援に関しましては、これはボランティアの人がすごく大きいと思うんですね。そういったところで協力できるところというのは多々あると思います。

ですので、こういうことができるのではというふうにコメントを頂ければですね、もう少しこの

協働事項のところは膨らんでいくのかなというふうに思います。

中村委員、いかがでしょうか。自治会連合会の中村委員。

○中村委員

この「協働事項」というところで、今ずっと考えてはいたのですが、隣の人は何をしているのかわからない状況が大分増えているので、一くくりに、1行で言葉を表すのはすごく難しいかなと感じております。

本人が発信することができないという状況になっているのは、恐らく容易に想像は付くんですけども、周りの人が、本人が困っているというのが分からないんですね。そこら辺をどうケアしていくかが、まず大事だと思います。

○山本委員長

ありがとうございます。

困ったときにSOSを普通に出せるような地域づくりというのが、一番本当に根底としては必要になってくるかと思いますが、なかなかおっしゃるように、特に集合住宅とかで隣の人の顔を見ることがないということもあったりして、そういう人にいきなり相談先ここですというのも、難しいことではあるのですが、地域福祉計画というのは、そこをどうするかということの計画なので、そういうことも盛り込んでいいかなと思います。

○中村委員

学校とか幼稚園とか、そういったどこかに関わっている世代だったら、横のつながりがあるのでそれなりに把握はできるのですが、全くそういった世代がない、いわゆる成人されている方というのが、なかなかそういうのは見抜けないんですね。私たちも見てはいるんですけども、独立していますので、成人されますと。どこの組織にも属さないという方があるので、なかなかその辺の把握が難しいのが実態です。

○山本委員長

ありがとうございます。

そういうふうな風土作りが大事だということを、理念ではあるのですが、書いていくということも必要かなと思います。それをどうするかというのが、もちろん一つ一つの事業として反映されていくんですけども、私たち市民もそういうことを協力していくということを宣言するというか、何か表現があってもいいのではないかなというふうに思うんですけど。

尾池委員。

○尾池委員

2ページ、今の関連ですけれども、ほしかった質問との方向が違うかもしれませんが、令

和3年度、令和4年度、目標値に対して実績、窓口を訪ねた方とか支援を受けた方がかなり多いですよ。この実態からみて、時代のすう勢を見たときに、令和5年度、6年度、7年度の目標値を訂正なんてことはあり得ないことなのですか。初歩的な質問ですけども、それが一つと。

令和4年度でもう3倍もの方たちが、件数が上がっているのですが、今、町内会の方も言われたように、自治会の方もおっしゃったように、この1,800という数字の中で生活支援コーディネーターとか民生委員とか、そういう方たちと一緒にということではなく、自らこういう制度があるんだよということで、自分で行かれた数字とかそういうものは市の方は何か分かるのでしょうか。それによって、制度がどのぐらい市民に浸透しているかとか、周りの力が必要なのかとか、その辺が見えてくるのかなと思います。

○山本委員長

ありがとうございます。

これは、どなたか市の方で。

○事務局・佐藤部長

生活困窮の御相談ですが、計画の75ページになりますが、市の指標、目標に「生活困窮に関する相談件数」、この計画を作ったときは現状値として、令和元年度は563件でした。そのとき作成したので、令和7年度は600件ぐらいの目標値という形で設定はしたところでございます。ですが、コロナ禍で非常に生活困窮の御相談が倍増してしましまして、実態として令和3年度、令和4年度はこういった数字になってしまったということです。ですが、計画の目標値は600で設定しておりますので、ちょっと目標値は変えていないという形でございます。

あと、自分で自ら来たというような統計は、そういうのは取っていないんですね。やはり、いろいろな媒体で、ホームページを見たとか新聞を見て来たとか、いろいろな媒体であり、あとは何も見ないで生活が苦しいんですというふうに来ている方もたくさんいらっしゃいまして、そういった統計的なものは取ってございません。

○山本委員長

計画を作ったときに、令和7年度までなので600だろうとしたら、コロナ禍が起きてしまったということで、この数字で。これだけしかやりませんということではもちろん、ないということです。

尾池委員のおっしゃることはすごく分かって、要は本当に困ったときに、ここに来てくれるだろうかというのがすごく大きいんですよ。

今、新聞なんかでも結構、制度の狭間でなかなか引っ掛からなくて非常に困窮している子供たちとかですね、子供世代とか若者世代がいるとかいう話も出ていますので、そののところでどう今後

届けていくのかという方法論が、これから非常に重要になって行くかなと。特に地域、横でくくって行くのが非常に難しい時代ですので、そこのところをどうしていくかというのをより検討していかなければいけないかなということだと思います。

こちらで、ほかにありますか。よろしいですか。

元に戻っても構いませんので、少し前に進めさせてください。

次に、施策の方向性の2番、「相談支援体制の充実」についてということになりまして、市の方のページでは6ページから14ページ。社会福祉協議会の方では、4ページから7ページというところになります。

こちちの方も相談支援体制は、今、正に出たところで、本当に必要な人が引っ掛かって来ないんだという話もありましたが、何かこちらの方で皆様が、実際にニーズがある人を支援しておられて、こういうふうになった方がいいのではないかというようなことがあれば、お願いします。

○横田委員

市役所の方の8ページで、下の方の2の「課題・今後の取り組みの方針」というところなんですけれども、マスの中で、今後の取り組み方針というところで、「精神保健福祉士による専門相談（月2回）の継続。周知の拡大。」とありますけれども、これも広報ですとか、相談のところに掲載はされているのですが、月2回というのは、ちょっと実際に行きたいときに行けないというのがあって、なぜこんなに少ないのかなってちょっと。これ、月2回になってますよね。これを継続、周知の拡大となっていますが、このまま月2回を継続していくんですよということだと思うのですが、本当に身近な方にすぐにでも相談したいんだけど、月に2回だったら、それまでにもう時間の経過とともに諦めとか、行ってもしょうがないかなとか、できれば本当に早く相談に行った方がいいこともたくさんあると思うんですけれども、そういったことでなかなか相談しにくいところも確かにあるかなと思って、もう少し回数が増やせないのかな。せめて、週に1回とか、それはちょっと私も望みたいところなんですけれども。

そんなふうに感じました。以上です。

○山本委員長

ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。一遍にちょっと御質問、御意見を頂いてからお答えいただきたいと思いますが、土佐委員いかがでしょうか。民生委員として、いっぱいいろいろな御相談に乗っていただいていると思いますが。

○土佐委員

今、横田委員がおっしゃったように、相談があった場合、やはり相談先の回数が少ない。実際に

急いでいる場合もあるわけですね、相談の中で。すぐにでもというときに、私たちは専門機関に取り次ぐことだけで今までやってまいりましたけれど、でも、そういう中で、やっぱり急ぐ急がないがあるということで、それ以外、例えば多重債務であったり、御近所の問題、トラブルがあったりする場合は、知り合いの方をお願いしたりして、その都度何とか、今まで乗り切ってきましたけれど。

ただ、これに必ず出て、市民や地域に協力してもらおう。どこ、誰ってというのが現実的なんですね。実際に、昨日もこども未来課の代表者会議があったのですが、民生委員として情報収集が今すごく難しくなっているんですね。自治体に入っている、町内会を抜ける方たちも多い。民生委員が訪問するときに、以前は町内会ですと名乗って訪問したり。民生委員に出入りしてほしくないという方もいらっしゃるんですね。そういう中で情報収集、あるいは、学校から不登校、あるいは、ほかの問題で情報を提供してほしいと依頼があっても、訪問はしないでくださいというようなことが多いんですね。

ですから、現実的には、ほかの関連機関、包括支援センターも含めてですけど、情報を頂きながら包括支援センターと協力というか、お互いに協力し合ってやっていくというのが現実。ですから、いろいろ出てきますけど、民生委員は末端の機関、機関という言い方もおかしいですけど、細かな生活に困ったことがあった場合の対応。なんか、やっぱり歯がゆい、もっとほかにできることがあるのではないかと日々思っておりますけれども、そういう活動、今年もまたコロナが落ち着いてきましたけれど、でも、やっぱり用心している方たちも多いですし、情報収集は難しいです。

どうしたら情報収集ができるのかな。今までの例でいきますと、サービスを受けてない方たちへの対応が、結構多いですね。いろんなサービス、合う合わないもありますので、そういう中でのサポート、できることがあればしてきていますが、これからまたちょっと、どういうふうにするかは、連携機関との協力をしていきたいと思うんですが、なかなか難しいです。個人情報がありますので、なかなか私たちにも情報が伝わらないし、どうしたらいいかなと日々みんなで話し合っています。

以上です。

○山本委員長

ありがとうございます。

本当に民生委員というのは、市民の中で一番身近な存在としてやっていただいているのですが、それが、情報収集が難しいとか個人情報保護で公開しませんよとか、どういうところにまず話を持って行ったらサービスに結び付いたり、制度に結び付いたりするのかという、その辺りも日々本当

に難しいことをしていただいているのかなと思いますけれども。

その辺りについて、民生委員のことは、ここにはなかった。相談全般ということなんでしょうけれども、市の方にお聴きしてみたいんですけれども、今、横田委員から出た話、月2回というのがどうなんだろうという話と、もう一つは相談支援ということで、民生委員との連携というのがどんなふうに今後されていく、定数もなかなかそろわない中で、その辺のお考えありますでしょうか。

○事務局・佐藤部長

御質問ありがとうございます。

様々な相談の体制を整えているかはちょっとまたあれですが、計画の方は63ページを見ていただければと思うのですが、相談支援体制の充実は当然図っていかなければいけないような状況でございます。今、市の方とすれば、63ページの市の取組としては、①から⑨、様々な分野の相談も専門的な見地も含めて対応しているというか、やっている状況ではございます。その中で、やはり様々な相談がございますので、その分野ごとに、専門の精神保健福祉士や、そういった専門のスタッフを用意して相談を、委託をやっていくような状況でございます。回数等というのは、今後は相談件数が非常に増えてくれば、やっていかなければならないものだと思っております。

それから、民生委員との連携、これは本当に大事なところでございますが、今、土佐委員が言ったように、やはり個人情報に関係から、非常に難しいような状況になっています。特に、今回コロナの状況で民生委員が訪問の自粛もさることながら、相手の方も来てほしくないという状況もあり、なかなか身近な相談相手ということで、コミュニティがなかなか図れない部分が今回のコロナの大きな影響だったというふうに感じてございます。

さらに、昨年、民生委員の一斉改選がございましたが、やはり、なり手が不足しているというような状況も課題になってございます。民生委員の中には、ふだん働いている方もいらっしゃいますので、なかなか地域の目も届かないというような状況はあります。

また、この計画を作った時にも、民生委員自体を知らないというような市民の方も多くおりますので、なるべく民生委員の活動を知っていただくように広報にも年1回掲載している状況で、そのようなところで知っていただく。市の情報等のやりとりは、特に民生委員は地域包括支援センターとの連携が非常に多くなってございますので、そのような所でやっていただいているところではございますが、今後もここは課題だというふうには認識してございますので、連携は努めていきたいと思っております。

○山本委員長

ありがとうございます。

相談体制では、もちろん福祉も総合相談なので、行政の方でやるということで、例えば精神障害

者福祉相談が、精神保健福祉士による専門相談は月1回しかないとかになっているのですが。これ、お手洗とかに行くと、「女性の方、悩んでいませんか」とかいろいろ書いてあったりして、結構民間レベルでは、いっぱいあると思うんですよね。そういうところと一緒に連携するということでもいいのではないかと思います。いのちの電話とか。

昨日も歌舞伎役者の方の事件があって、下の方に自殺防止のテロップが出てました。今、すぐ出ますよね。そういうところとの連携ということも、あっていいのではないかなと思います。そうすると、逆にこういうことを行政にしてほしいという話も出てくるので、それも含めて重層的支援体制整備だと思います。なので、そういうことを、もしかしたら書いていっていいのではないかと、私も読んでいて思いました。

何となく、これだけ見ると、専門相談を月2回しかやってないと、何もやってないのか朝霞市はと見えてしまうので、そうではなくてというところはあるかなというふうに思いました。

民生委員と地域包括支援センターでは、非常に関係が深く、連携を取っていただいているということですが、新坂委員、いかがでしょうか。その辺りについて、どういうふうに相談体制をとっていかうと、何か御意見ありますか。

○新坂委員

包括支援センターの新坂と申します。

民生委員については、うちの圏域では、西部地区の民生委員と一緒に定例会などにも毎月参加させていただいたりして、顔の見える関係というか、それはもう、2年、3年になるのですが、そういう形ではさせていただいて、民生委員個々に御相談を頂いたりとか、定例会の時に意見交換をしたりとか、そういう形での連携を取るようにはさせていただいています。

また、西部地区の民生委員の方でも、コロナの中でいろいろ訪問に対しても難しいということもあり、冊子を作ってそれを地域包括支援センターの連絡先も含めてポスティングをしたりとか、そういうふうにして、なるべくコロナというところを意識しながら工夫をされているということもお聴きはしています。

地域包括支援センターとしても、同じように、コロナの中でいろいろ訪問なども制限をせざるを得ない状況の中でも、時間を短くしたりとかお電話をさせていただいたりとか、なるべく状況把握というのは努めてやっていました。

今回の重点施策の中を見させていただいても、令和4年度の中での計画の回数だったり実績というところは、コロナの大変な中でこの数値を出せるというのも、かなり努力があったりとか工夫があったりということで、皆さんの努力がひしひしと伝わるような状況ではありますし、私も同じような立場の中でやってはいますので、とても手に取るように分かるのはあります。

今年度、令和5年度もそうですけど、この数値以上のものというか、数字だけでは評価できないことがたくさんありますので、こういう数字というだけではなくて、内容をいかに細かく、分かりやすく書いていただければ伝わりやすいと思いますし、「協働事項」も、「もらいたい」とか「いただきたい」という言葉になっていますが、何をしてもらいたいのかというのは、アウトリーチというか、どういう形で知ってもらうのか、市民の方に他人事ではなくて自分事として、いかに伝えていくかということも、文言に入っているとちょっと分かりやすいと思いました。

○山本委員長

ありがとうございました。

そうですね、この「協働事項」の書き方についても、「いただきたい」になっちゃうと、何か頼まれている感じもしてしまうので、ちょっと考えてしまうかもしれませんね。

ありがとうございます。

相談ということに関して、須田委員、いかがでしょうか。もし御意見があれば、お願いしたいのですが。

○須田委員

内容は、今関連した内容ですか。それとも、別でもいいのですか。

○山本委員長

どうぞ、別でも結構です。

○須田委員

私、保護司会の朝霞支部から来ているのですが、今、私は2名見っていますが、本来は、コロナの前は月に2回家へ来ていただいて、面接をしてお話を聴いてやっていたのですが、コロナになってからは、電話で1回、面接は1回になっています。その結果を報告書に書いて県に上げるのですが、私の家には子供と大人、両方来ていますが、大人の方がどらちかという真面目なんですね。子供の方が駄目なんです。まだ懲りないというか、保護観察がどういうものを理解していないんですよね。私なんか、保護司のおじさんですよ、呼ばれるの。保護司のおじさん。面接で話をしている間に何回か電話が掛かってきて、「今、保護司のおじさんの所にいるから、終わったら行くから。」なんて話をしていますけどね。それで、子供の方とは、面接の日にと時間を約束しても、来ないことがあるんですね。大人の方は、もう理解していますから、必ず来ます。時間に来ます。最初の頃にきつく言っていますから、後はあんまりきつくは言いません。そういうことでね。

あとは、再犯防止の方に行くのですが、刑務所なり、罪を犯して保護観察処分を受けた大人の方が、この次に何かやったら、本当にもう刑務所に入るということを承知していますので、ちゃんと来て真面目にやっています。子供は、それがまだ自覚が足りない。少年院に入れられる状況が分か

らないんですね。

ただ、他のことにも関係が出てくるんだけど、ある程度年のいった大人になりますと、その親が高齢化になってきて、介護ということが出てきます。うちに来ている対象者が、親がもう80歳過ぎていてとかで、長野県にいますと。それで、手術をしたいんだけど、手術には当然、全身麻酔をかけないといけないが、全身麻酔がなかなか打てないと、医者が。というので手術が、根本的な治療ができないんですよ。それで、入院だから転院をしてほしいと。ところが、転院先がないということで、私の家に来ている対象者がね、しょっちゅう長野まで行って、病院の方と折衝とかケアをしてるんですけども、その方のおばあちゃん、おじいさんもいますけど、おじいさんは家にいて、これまた痴呆が入ってきていると。本人はお勤めをしています、タクシーの運転手です。お客さんが少ないと当然身金が少ない、自分の給料も少ないということで、生活が大変厳しいらしいんですよ。私の回答とすると、私も介護をしてきましたからよく分かるのですが、親の介護は、もうしょうがないと。やるよりしょうがないなということで、頑張っただけよと。それしか言えないんです。本人は、市の方の援助を受けるとか、民生委員の方にも相談しているので、そういうことはあんまり考えていないんですね。そういうことでずっとやっていますが、その辺をもっと引き受けてくれるとか、受け付けてくれるような部署があればいいと思うのですが。何か申請をしても結果が出てくるまで時間が掛かり過ぎるとか、そういうこともありますので、私どもも考えてはいますが、難しい状況です。

仕事がないという方がよくいるんですけども、我々が見ている対象で。仕事を選び過ぎるんですよ、あれは駄目、これは駄目。私は、こういう仕事がいいとか、そういう仕事はありませんよ。何でもいからやるということであれば、あるんでしょけども。介護施設の人手が足りない。汚い仕事というのはね、人手がやっぱり足りないんですよ。きつい仕事、そういうのもやれば、それなりのお金をもらえるんですよ。いろんなことが錯綜してしまっていて、なかなかうまくいかない。

我々が見ているのは、期間が決まっていますから、いつまでと。その期間が過ぎれば、その後うまくいってもいなくてもそれで終わると。後の指示は全部県に返して、自分は新しい人が来ますから。そんなことを年中やっています。

先ほどもお話がありましたけども、今、全ての団体が役員のやり手がない。町内会がその筆頭ですね。役員をやるなら町内会を抜けるとかね。でも、昔からやってきていることで、代々やっていかないと、自分の地域が保てないわけですよ。考えも、今の若い人たちには失礼ですけど、若い人とお年寄りでは違っていてね、我々年寄りは、みんな自分の地域は自分で守ると。そういう精神が結構あるので、消防団もいい例であるし、通学路の草刈り、草刈りを頼まれた業者が来て、草を

刈りますよね。ついでだから、道の端も刈っちゃってよと言ってもね、市で頼まれているからやらないと。だから、私がやる。草刈りを全部。いろいろね、目に見えないボランティアを十二分にやらせていただいていますけどね、なかなか大変ですけども。

ちょっと回答になったかどうか分かりませんが、そういうことです。

○山本委員長

ありがとうございます。

本当に更生保護の分野で、なかなか社会資源もない中で、保護司の方々は本当に御尽力いただいているだろうと思うのですが、この相談ということに関しまして、ちょっと私の方から市役所の方にお聴きしたいのですが、保護司との連携とか、あるいは更生保護で頑張ろうとされている方の相談というのは、ある程度、窓口みたいなものはお有りなのでしょうか。それとも、保護司のところへ行ってくださいというような感じなのでしょうか。それは、私からの質問です。

○事務局・佐藤部長

これは、保護司から直接、ケースと申しますか対象者からの関係での御相談は、自治体ではございません。多分、保護司の方は、保護司の中でサポートをやって、更生保護観察所が管轄でやっていますので、更生保護観察所にちゃんとそういった状況が報告されて、どのような指導方針でやって行くか、保護観察官が対応されているような状況で、直接市の方に相談はないということなんです。

私どもは、事務局として、活動に対しての補助金を出したりといったサポートはさせていただいておりますが、また、はあとびあ総合福祉センターの中に朝霞地区の更生保護サポートセンターが、部屋がありまして、今、須田委員は、自宅に招いて面接をしているとのことですが、やはり、保護司によっては自宅に招いて面談をするのを避けられる方、ちょっと危険だからというような御判断で、更生保護サポートセンターで面談をする。そういうためにセンターを開所してございますが、市の方はそういったサポートをしているような状況です。

○山本委員長

ありがとうございました。

須田委員、ありがとうございます。

村串委員、いかがでしょうか。

○村串委員

朝霞市防災アドバイザーの村串と申します。

どちらかという、私の担当は後ろの方に出てくる防災の方なのですが、まだちょっと、これは今日だけでおしまいじゃないですよ。これからですもんね。

○山本委員長

そうです。

○村串委員

防災のことになったら、いろいろとお話させてもらおうと思っています。

一番気になっているのが、避難行動要支援者の扱いですね。その辺についてお話させていただきたいと思います。

○山本委員長

分かりました。ありがとうございます。

防災、もうちょっとしたら出ますので。村串委員、もう少し後で出て来ますので、そのときお願いします。

「地域福祉に関する理解と参加の促進」ですので、市役所の方では15ページから20ページ。社会福祉協議会の方では8ページから13ページになります。

失礼いたしました。こちらの方、いかがでしょうか。

これは、特に講演会とかスポーツ・レクリエーションとかスポーツ大会とかですね。市民参画に関するワークショップであるとかボランティアの関係ですかね。その辺りについての事業ということになっております。

これ、森田委員と垂水委員にお聴きしたいのですが、何か市民としてこういうのに参加されているとか、正にこれに参加されているのですが、ほかに何か、ふだん参加されているとか、ほかの方はどうしているとか教えていただければと思います。

森田委員。

○森田委員

すみません、私はボランティアとかそういったイベントに、ふだん仕事をしていたりしているのでなかなか参加できる機会がないので、実際分からないところが多いんですけども。SNSは、比較的見ることは多くて、朝霞から発信されている、若しくは朝霞にお住まいの方が発信されている、こういうイベントがあるよというのは、かなり目にすることは増えたかなと思います。

すみません、このぐらいしか私も発言できないのですが、ちょっと一つ戻ってもいいですか。

○山本委員長

どうぞ。

○森田委員

さっきの相談の部分で。私もその相談をした一人でもあるのですが、該当するとしたら、市役所の方の7ページで相談したことはあります。

最初、保健センターから始まって、障害福祉課の方につないでいただいたことはあります。相談はできたのですが、その次の支援事業者の一覧を渡されて、多分皆さん全員、事業者もいっぱいいっぱいなので、この先相談することはできませんよと実際言われたことがあるので、結構絶望感に浸ったことがあります。

相談の窓口は、朝霞は本当にいっぱいあって、すごく助かるなということはあるのですが、その先につながらなかったというのがあって、相談のその先があるとすごくうれしいなと思いました。回り回って、今支援は受けさせていただいて、サービスは受けさせていただいて、すごく感謝はしているのですが、相談のその先、相談窓口は多分すごくいっぱいある。その先、相談したからこそ受けられるサービスまでつないでいただけると、すごく有り難いなと思いました。

○山本委員長

ありがとうございます。

相談はできるけど、そこからサービスにつないでもらうとか。そこがちょっと。

○森田委員

結構、相談する側としては、勇気を振り絞って相談するので。会社を半休して頑張って相談したけど、駄目だったとかにならないような、窓口がせつかくいっぱいあるから、つなげてほしかったなというのはちょっとあります。

ただ、すごく優しく聴いてくれたので、それだけでも救われる部分はあるのですが、必要なものを提供していただけたところまで、相談したらつないでもらえたらいいなと思いました。

○山本委員長

ありがとうございました。

この件、社会福祉協議会と市役所、両方にお聴きしてみたいのですが、いかがでしょうか。

○事務局・佐藤部長

おっしゃるとおり、相談の窓口はカテゴリ一別でございます。その後、相談の話の内容によってつなぐ形の連携を取らせていただいておりますが、委員おっしゃるとおり、やはり寄り添った支援だとかそういったことが、相談の内容の充実が大事だと思っておりますので、できる範囲というのはなかなかあるとは思いますが、寄り添った支援ということに努めていくことは、市の方としても考えてございます。そういうふうには努めて参りたいと思っております。貴重な御意見ありがとうございました。

○山本委員長

社会福祉協議会、いかがでしょうか。

○社会福祉協議会事務局・白木課長

社会福祉協議会の白木と申します。ありがとうございます。

まず、社会福祉協議会のところ、相談が来た場合に、受けたところが社会福祉協議会の中でもいろいろつながりがあるので、そこの部署とちょっと相談して、ちょっとお時間は頂戴してしまうのですが、その方に新たな方向であったり、次につなぐ機関を紹介して、更にその相談のところと事前にお話をさせていただいたりする場合と、市役所の方とこういった相談があるのでということで、生活困窮なんかは特にコロナのときはそうだったんですけども、生活保護の係につないでみたり、自立相談支援事業につないでみたりというところで、双方の部署間でやり取りをして御本人にお返しするような形で、なかなか対面にはなっても電話の方がちょっと多くて、そこがアウトリーチのところなかなか難しいところではあるんですけども、そういった電話とかのやり取り、内部でも社会福祉協議会のやり取りということで対応させて、御相談はさせていただいているところです。

ただ、やはり、なかなか相談される方も、困っているのだけれども、ちょっと漠然としているときもあるので、丁寧な聞き取りというところを重要視しながらというか、一緒にお伺いしながら見させていただくというような状況です。よろしいですか。

○山本委員長

ありがとうございました。

本当に勇気を振り絞って来ていただいているので、そこから先にしっかりつなぐということがとても大事だということだと思います。

では、ちょっと戻りまして、参加ということではいいますと垂水委員、何かありますか。

○垂水委員

市の方の20ページで、私が参加したのは、朝霞市が陸上競技場でやっていた、大人のフィジカルトレーニングというのに2年前ぐらいに参加して、結局大人の部がなくなって子供の部だけになって、内容はすごく良かったんですね。来ている人たちもすごい良かったのにねと言いながら、結局、参加人数が少なかったからなくなったのかなと思って、ちょっと残念でした。

あと、ヨガも夜とかにやっていて、広報紙を見ていて、そうしたら、ヨガはすごくたくさん人が集まっていて、その人たちがフィジカルトレーニングに少しでも来てくれていたらそのまま継続されていたのにねと言いながら、興味がある人も知らないというか、入ってしまえば多分良さが分かると思うんですけど、取っ掛かりがやはり分かりにくかったのかなと思って。

今度、わくわくど一むでやる講座にも、今回初めて6月から参加しようと思って、いろいろ興味を持って。それは、これに参加するようになって広報紙とかそういうのとかいろいろ、市がやっている講座を私自身、すごく興味を持つようになったので、見たことがない講座とか、行ってみよう

と思って、そこでいろいろなつながりとか地域の人と触れ合っていきたいなと思っています。

○山本委員長

ありがとうございます。

垂水委員は、自分で探されて、割といろいろ参加されているんですね。

用意はされているんだけど、そこに探してアプローチして実際にやるというところが、ハードルが高いという人もいるかもしれませんよね。

ただ、こういったスポーツとかフェスティバルとかイベント、レクリエーションというのは、やっぱり市民としてのアイデンティティを持つとか、朝霞市への愛着を持ってもらうとても大事なことになるので、ただの遊びでわーいということではなくて、そういうものも大事にしていくことは大事かなと思っています。

私たちも学生には、いろいろな地域のイベントに参加するよにということで、参加してもらうように努力しています、引率して。自主的にはなかなか行かないので。その辺のことはとても大事だと思います。

副委員長、いかがでしょうか。子供のことで、今の、私が言ったような感じで。

○渡邊副委員長

以前よりですね、企画は立てても集まる人の人数がやっぱりコロナ禍で、基本的には手挙げ方式なので、行きたいという人がいて、集まる。市の研修とかそういうのがあるのですが、事業的にやるとそれなりに集まってくれるのですが、やっぱり少なくなる。やっぱりコロナの関係で、人との接触到ちょっと躊躇しちゃうところがある。コロナ禍だから、多分福祉計画を作ったときはコロナがあるなんて想定しないでこの計画を立てているので、もう少し皆さんのハードルが低い状態でできた計画では来ているのかなと思うのですが、現実には、それが皆さんのところに、3年間のコロナの影響で後退して、接触を拒む人が増えたのは事実なので、これをどうやってクリアにしていくかという、その辺のいろいろなPRとかそういう部分で変えて行くのがこれからじゃないのかなという。一応5類になったということで、皆さんの気持ちが、ハードルが下がるような空気をどうやって作っていくか。一番難しいところだとは思いますが、そういう気がします。欲求としては、皆さんどこかに集まりたい、人と接触したい人がいることは確かです。絶対、接触を拒む人もいることはいるのですが、そういう人を出さない仕掛けをどのように作っていくかということが一番だと思いますので、そのようなことを、これから少しできる現場で、一つずつできればと思っています。

○山本委員長

とても貴重なコメントだと思います。ありがとうございます。

ほかに、何かこちらの方でありますでしょうか。よろしいですか。

そうしましたら、「情報共有・発信の充実」ということで、市の方で21ページから25ページ、社会福祉協議会の方では14ページから15ページの中でいかがでしょうか。

○渡邊副委員長

25ページの件ですが、「避難行動要支援者支援制度の推進」ということで、先ほど御意見がありました件ですけれども、個人情報の絡みで、基本的には手挙げ方式で名簿は挙がってくるのですが、それをどうやって使うかというところのアウトラインというか、指導要綱というのは、なかなか仕掛けができてないんですよ。名簿は分かっている、あの人はそういうふうなニーズがあるのかなということは把握できても、それを行動としてどのように仕掛けに盛り込んでいくかというところが、それはやはり、町内会やそれなりの組織的なつながりが個人的にないと、あの人がここを担当してくれればよいという所見くらいまでいければいいのですが、なかなかその辺のところは、手を挙げた方も周りの人と仲良くできているかということ、そういうわけではなかったりするもので、あの人は来てもらってもいいけど、この人は嫌だみたいな話に、細くなるとそういう話になってきてしまうので、ふだんのつきあいからそういうのを作っていかないと、難しいのかなと。

それは、行政ではなくて、住民として一人ずつが意識していかないと駄目な部分はあるのですが、それが、いつか行政がサポートしてくれるだろうと確信を持って、今、市民の人は思っていると思うんです。隣近所の人ではなくて、行政の方が、サポートがしっかりしているのではないかと思っているのですが、実際、災害の時はこんなことは絶対にあり得ないということの認識が、やはり市民の中に余らないということが確かだと思うんです。そういうところのギャップがすごく、名簿と現場の、事が起きたときの状況というのは、全然想像が付かないところが非常に、町内会の絡みもやっていますので、その中で感じます。

協力していただきたいので、どういうふうにするのかという。先進事例でそういうのがあれば勉強しないと難しいのかなという感じがします。

○山本委員長

ありがとうございます。

村串委員、いかがでしょうか。「避難行動要支援者支援制度の推進」というところが、市の方の計画の25ページに挙がっているのですが。先ほど、ここでというお話だったので。

○村串委員

先ほど、副委員長がおっしゃられたとおり、この論議は20年前からやっています。結局、個人情報保護法の壁にいつも抵触しまして、先に進んでいませんでした。

それぞれの部署は、ご存じなのでしょうけど、それが出て来ないんですね。実際に防災に携わる

人間として、どこのお宅にどんな方がいるかというのは、分かっていないんですね。実際にその辺をおさえておられるのは御近所の方、ですから、町内会とかそういったところだと、あそこの家には、ちょっと足の不自由な方がいるとか、結構そういう情報は入ってくるのですが、結局、それがこういう台帳、書類して出てきていないです。

正にそれで、台帳を活用した訓練ができないというのは、その辺に阻まれているのかなという気もいたしますし、最近の被害というのは、私たち、20年前から防災に携わってしまっていて、地震を中心に考えていました。ところが、地球温暖化に伴いまして、風水害。最近、朝霞市ですと低いところ、私の家もそうなのですが、低いところにありますので、水害がとても恐怖なんです。ここも、実はそうなんです。避難場所になっていても、ここに来て本当に大丈夫なのということになってしまうのですけれども。そういう問題も本当に論議しなければならないなと思っています。そこで本当に助かるのかと。その前に、あそこのお宅にどんな方がいる、どうしたら助けられる、避難行動要支援者を救助するためには、一人の方を一人では無理だと思います。ですから、最低二人は必要になってくるのではないかと思います。そのようなことを考えますと、もう少し突っ込んだ論議をしないと、役に立たないと思います。そのような気がいたしました。

いろいろと、おありになっているようなのですが、本当にこの避難行動要支援者、この制度と一言書いてありますけど、ものすごく大変な、いろいろな問題が絡んでいますので、本当に真剣に取り組まないと役に立たない、そのような気がしました。

○山本委員長

ありがとうございます。

ここの、市役所の方の計画の25ページの「予定通り令和4年6月中に更新及び配布を行った。」というのは、これは、避難行動要支援者台帳を更新及び配布ということでしょうか。

○渡邊副委員長

交換しています。名簿を変更している。

○山本委員長

ですので、現場ではまだそこまで、じゃあどうするというのは、わかってないとおっしゃったのですね。

○渡邊副委員長

台帳の意味がなかなか難しい。

○山本委員長

これは、今までも地域福祉計画を作る中で、いろいろ論議をされていたというのを、一時それをテーマにして話し合ったこともあるかと思うのですが。この辺りについては、福祉部だけではなく

危機管理室との関係もあると思うのですが、今、渡邊副委員長、村串委員がおっしゃったように、何か現場としてどうするというのは、少し進んだところがあるのでしょうか。

○事務局・佐藤部長

台帳ですが、毎年手を挙げる方に対して、名簿を更新して、町内会長、民生委員にお配りして、顔が見える関係作りをしていただければというところで、お配りしているような状況です。今の台帳の活用は、なかなかできていない実態でございます。

今、浸水想定区域の中に、そのような避難者の方、対象の方がいらっしゃるのです、そのような方が具体的にどう避難するかという個別避難計画のシートを作る作業に、今、危機管理を含めてやっているところでございます。まずは、低い地域の内間木地域、田島地域のところの台帳の方について、また個別避難がどういうふう、どこに避難する、どうやって避難するというのは、これから作るような状況で、これからどんどん広げるような方向でいきたいと思っています。

○山本委員長

ありがとうございます。

本当に、地震だけではなくて風水害、特に水害は、朝霞市は怖いのではないかと。

どうでしょうか、尾池委員。水害、結構ここは浸水してしまうところが多いのではないですか。

○尾池委員

自分が住んでいる場所は、水の心配はないのですが、逆に、避難うんぬんというときには、私も、2か所でミニデイサービスを運営しているので、ミニデイサービスにいらっしゃる時間のときに、地震なり火災なりというときにどうしようということで、いつも頭の中が一杯です。

1か所は、雑居ビルの一部なのでということで、年間2回、消防避難訓練を実施して消防署に届けたりして、もう1か所は、救急車でお世話になったこともあるので、消防署でマップに落とされています。ミニデイサービス、小さな集いということで、そのような対策はきちんとしていますので、災害も水は心配ないです。

○山本委員長

水が心配ないところが手助けできるように、体制を整えるということが必要ですね。水害の場合は、ですね。ありがとうございます。

あと5分となりました。大変失礼いたしました。

では、最後のところで、今の関連ではあるのですが、「防災対策の充実」ということなのですが、市の方の計画では26ページから28ページ。社会福祉協議会の方では、16ページから19ページということになっております。

今のところと関連しまして、災害ボランティアとか防災訓練だとか、小さな地域でそのような災

害に強い地域をどう作っていくのかという話も、この地域福祉活動計画の中で立てていかなければいけないのですが、今ちょうど尾池委員から、ミニデイサービスの方ではいろいろな訓練もしていただいていますし、水害地域の支援ができるような訓練もしているという、届出もしていますという話だったのですが、何か、皆様の方でその辺りについて、御質問ありますか。

○横田委員

毎回、これについて私もテーマ、気になるところなのですが、いよいよ21日、今週の日曜日なのですが、宮戸町内会で防災訓練をやります。そのときに、もちろん防災アドバイザーの方も来てくださるのですが、毎回、結構ワンパターン化してしまっていて、器具の使い方ですとか、最後には防災の備蓄の食べ物を配付したりとか、もう一歩前に進んだところがなかなかできないのが現状です。今度21日の参加者はどれくらい来るのか、気になるところなのですが、サロンの方でもお声掛けはしていきたいと思います。

あとは、そのときに危機管理室の方も一緒に参加してもらって、防災アドバイザーと一緒に、もう少し突っ込んだところを皆に、宮戸はこの辺が危ないとか、この辺の道路は気を付けて、避難行動するときも気を付けましょうとか、具体的な緊張感を持ったアドバイスをする場がもっとないと、何となく緩んだ、こんなことを言ったら失礼なのですが、いつも決まったパターンの防災訓練になってしまうと、やはり行ってもまた同じかとなってしまいますので、是非とも若い方も取り込みながら、宮戸は特に若い方が非常に多いですから、若い方にも魅力のある、あそこに行けばいろいろなことを教えてもらったとか、是非、危機管理室の顔を見えるようにしてもらえると有り難いと思って、21日を私も楽しみしています。

あと、一つはサロンの方で、歩きながら防災を、ウォーキングで防災ということを過去2年間やったのですが、宮戸は高低差が非常にありまして、もし水が来たときに、この崖が崩れるよとか、擁壁というか土にコンクリートで固めてはあるけれど、ひびが入っていたりとか、あそこはちょうど野火止用水がずっと新河岸川に流れていく地区が、宮戸にはあるのですが、そのかなりの高低差のところ、やはり逃げるにしてもかなり沼地になってしまったりとか、すぐそばには新河岸川があったりとか、いろいろ問題があるのですが、その辺を具体的に危機管理室、そして防災アドバイザーの方も含めて、町内会に教えてほしいと思っています。

すみません、長くなりました。以上です。

○山本委員長

どうぞ、村串委員。

○村串委員

耳が痛いです。実際にですね。町内会主導でやる訓練というのは、訓練のための訓練。ですか

ら、決まった形で終わってしまうというケースが多いんですね。ですから、目標を決めてやらないと、もう一つは、日頃の生活の中に防災を取り入れて、体で覚えた方がいいのかなという気がします。

先ほど、ちょっと言い忘れたのですが、例えば避難行動要救助者を救助しますと。その後、受け入れがどうなっているのか。今の避難所というのは、学校が想定されていますが、単位は家族単位で避難させるようなパターンをとっています。ですから、そういう方々が行ったときに、ちゃんと受け入れ態勢もこれから考えていかないと、どこへ行ったらいいのという話になっちゃいますし、多分苦しみます。そんなことも、これからずっと考えなければと思っています。

○山本委員長

ありがとうございます。

その辺りは、社会福祉協議会の方に聴いたらいいのでしょうか、それとも市の方に聴いたら。どうぞ。

○事務局・佐藤部長

避難のお話でございますが、やはり一時避難所は、小学校に行っていただく。そこで避難されてきた人で、福祉避難所を利用しなければというような場合がございますので、やはりその中でトリアージをして、保健師の判断でトリアージをして福祉避難所に移送するという形です。

市の方は、なかなか福祉避難所の締結が多く進んではいない状況ですが、今のところ、ざっとですが130人ぐらい、10施設以上あったかと思うのですが、受け入れていただいて、130人ぐらいは福祉避難所に御案内できる。何千人規模の災害が起きれば、130人は本当に微々たるものではございますが、そういったような形で福祉避難所を締結しているような状況でございます。

この間も、福祉避難所、皆さんの団体にも集まっていただいて、福祉部門とも話をして、トリアージをしてこういうような流れでやっていきます、御案内していきます、当然、福祉避難所の方でも受け入れ態勢が整っていなければ受け入れていただけません。その連絡体制もシミュレーションみたいなものもちょっと想定していただいて、体制に努めているようなところでございます。

○尾池委員

関連してですけれども、学校が今2校、増改築という形で取り組み始めましたね。うちなんかは、ミニデイサービスの第1回目の避難場所が第六小学校なんですね。これは、個別で市役所お伺いに行こうと思ったのですが、今ちょうどお話が出ていたので、続けて申し訳ないのですが、2年半の間に同じような体制で対応できるのでしょうか。後からでも大丈夫です。

○事務局・佐藤部長

第六小学校と第九小学校が増改築するからということですよ。

それに関しましては、その間どうするかと言われると、ちょっと私どももそこまでは分かっておりませんが、恐らく防災の拠点の倉庫がございますので、そこに毛布やいろいろな機器がございます。恐らく、学校の中だと体育館が多分避難所になってくるだろうと思います。もし、地震が起きた場合には、どこが安全でどこに入れるかというようなところをまず調査して、そこでここが開設できますねというような形になっていますので、多分、増改築の場所と体育館は別だというふうに認識してございますので、そういった形でどこかしの会場を確保してやっていくような考えになっていると思います。

○渡邊副委員長

一点、いいですか。昨日、自主防災会の総会がありまして、その中で9月28日、市全体で総合防災訓練ということで、朝霞の森を中心会場、それからあと、各小学校で避難所開設訓練、今回はペットを連れての避難みたいな内容のプログラムが入っていましたが、また担当課の方からおいおい情報は出てくるとは思いますけれども、体験することによって自分の置かれた位置付けを確認してもらうことが一番あれなのかな。訓練って操作だけじゃなくて、そのときどうやって考えるのかなということを考えるきっかけになる場になればいいことだと思いますので、同じことの繰り返しなんですけど、そのときにちょっと違う話題がその会場で出てくると幸いなのかなと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

○山本委員長

ありがとうございました。

それでは、ちょっと時間も過ぎてしましまして申し訳ございません。

今日は、特に重点施策について見ていただきました。市役所、社会福祉協議会の御努力で、説明をしなくてもいいように分かりやすくいっぱい書いていただいて、意見だけにしてもやはり今日これだけ時間がないぐらい御意見が出て、とてもよかったと思います。

出た意見はですね、主に少しこのどういう流れで課題をこうやってというのが、もうちょっと市民に分かりやすいように書いていただいた方がいいんじゃないか、書かれてはいるのですが、より分かりやすいように書いていただいた方が良いのではないかなというような御意見がありました。

全面的に書き換えというのが難しければ、少し改変していただいて、次のときにはもう少し考えていきたいなというふうに思っています。

それから、協働事項のところですね。「事業推進のために市民や地域に協力してもらいたいこと」というところも、できればもう少し我々市民がどう参画していくかということが分かるように、言っただけならばそこに基づいて自分たちがやりますという御意見もありましたので、そこも充実できればいいかなというふうに思います。

相談支援の辺りも、結構たくさんの御意見が出たので、反映できるところは反映して書いていただければなというふうに思いました。

皆さん、いかがでしょうか。次のときもですね、もう1回施策の進行管理・評価シートは見ていくのですが、ただ、今日のところはこれでおしまいということになりますが、何か言い残したことはございませんでしょうか。大丈夫でしょうか。

もう一度、次のときにここを言い忘れたということがあれば、教えていただければと思います。それでは、少し過ぎてしまいましたが、これで終了したいと思います。

◎3 議題 (2) その他

○山本委員長

それでは、(2) その他ということですが、事務局からあればお願いいたします。

○事務局・松本主任

朝霞市の福祉相談課の松本と申します。

私からは、次回の推進委員会の開催についてお知らせいたします。

次回の委員会は、本日と同じこちらの会議室にて7月14日金曜日、午後2時半から2時間程度を予定しております。開催通知は、改めて送付させていただきますが、現時点で御都合の悪い方がいらっしゃいましたら、帰りに事務職員にお声掛けください。

また、繰り返しにはなりますが、次回の委員会では、本日お配りした封筒に入っている分厚い方の資料、こちらを使いますのでお忘れのないよう、よろしくをお願いいたします。

事務局からは、以上になります。

○山本委員長

では、次は7月ということで、2か月ぐらい空くんですかね。

ほかに、何か委員の皆様ありますでしょうか。よろしいですか。

◎4 閉会

○山本委員長

それでは、以上を持ちまして、本日の会議を終了いたします。

皆さん、本当にありがとうございました。